



シスメックス
あんしんレポート 2017

サステナビリティレポート



目次

- 1 目次
- 2 企業理念・行動基準
- 3 社長メッセージ
- 5 シスメックスと社会との関わり
- 7 活動ハイライト1：
製品・サービスを通じた医療課題解決
全ての人
適切な医療を受けられる
社会を目指して
- 11 活動ハイライト2：
魅力ある職場の実現
多様性を尊重し
イノベーションの創出に
つなげる
- 15 経営とCSR
 - 15 長期経営目標・中期経営計画
 - 19 CSRマネジメント
 - 27 国連グローバル・コンパクト
- 28 社会
 - 28 製品・サービスを通じた医療課題解決
 - 37 責任ある製品・サービスの提供
 - 52 魅力ある職場の実現
 - 71 人権の尊重
 - 73 社会貢献活動
- 85 環境
 - 85 環境への配慮
- 106 ガバナンス
 - 106 コーポレート・ガバナンス
 - 107 コンプライアンス
 - 119 リスクマネジメント
- 122 社外からのCSR評価
- 125 2016年度実績データ
 - 125 CSR中期計画(2016年度実績)
 - 127 社会性データ
 - 131 環境データ
 - 141 ガバナンスデータ
- 143 会社情報／編集方針／ウェブ掲載情報



Sysmex Way

Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、
人々への安心を追求し続けます。

Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、
自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

行動基準

お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心を届けます。
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

「Sysmex Way」の実践を通じ、 持続可能な社会の実現に 取り組んでいきます。

社会が抱える医療課題の 解決を目指して

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」において「ヘルスケアの進化をデザインする。」をMissionに掲げ、医療の発展と人々の健やかな暮らしの実現に貢献することを目指しています。

近年、高齢化の進む先進国では個別化医療をはじめとする医療ニーズの多様化への対応、新興国では経済発展および人口増加に伴う医療インフラの整備や医療の質の向上、さらに開発途上国においてはHIV/AIDS、結核、マラリアなどの三大感染症に加え、エボラ出血熱などのさまざまな感染症への対応が重要な課題となっています。このように、医療を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、これらの課題を解決するためには、国際機関、各国政府、企業が一体となって取り組むことが不可欠といわれています。2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」では、社会・経済・環境面における国際社会共通の17の目標が掲げられ、企業はこれらの目標の達成に向けた積極的な行動が求められるようになりました。

シスメックスは、創業以来、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす「検査」の分野で、患者さんをはじめとする健康を願う方々のQOL (Quality Of Life) の

向上に向けた新しい臨床価値の創出や、医療機関の方々の負担軽減に役立つ検査技術の創出に取り組んできました。現在では、検体検査分野における製品・サービス&サポートを世界190以上の国や地域にお届けしています。

2016年度には、ゲノム医療^{※1}の実現に向けて、遺伝子情報解析などの高い技術、ノウハウを保有する株式会社理研ジェネシスを子会社化しました。また、高齢化社会の喫緊の課題である認知症の早期診断や治療法の選択、治療効果の定期的確認が可能となる次世代診断薬の創出を目指した研究開発や、慢性肝炎に起因する疾病の早期発見や治療モニタリングの実現に向けた糖鎖^{※2}マーカーを用いた新たな診断薬の研究開発にも取り組んでいます。さらに、グローバル企業として新興国・開発途上国での医療水準向上に向けた取り組みや、三大感染症の一つであるマラリアに関する診断に有用な技術の開発、WHOやグローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) をはじめとする国際機関との連携による医療供給体制の整備などを進めるとともに、日経アジア感染症会議にも参画しています。

シスメックスは、これからも医療課題の解決を通じて、世界中の人々の「健康でありたい」という願いにお応えしていきます。

※1 遺伝子情報と病気の関係を解析し、発症リスクのある疾患の予防や、より効果的な治療の選択を可能とする医療。

※2 細胞表面や血液中のタンパク質上に存在する糖が連なった物質。



持続的な成長の実現を目指して 新たな中期経営計画を策定

医療ニーズの多様化など、医療を取り巻く環境の変化に伴い、検査への期待はますます高まっています。シスメックスは、長期経営目標において2020年に向けたビジョン「A Unique & Global Healthcare Testing Company」を掲げ、検査の高度化・多様化に取り組んでいます。近年では、個別化医療の実現に向けた先進的で価値の高い検査・診断技術の創出を目指して、研究機関や大学、病院、企業との共同研究も進めています。

また2017年5月には、長期経営目標の達成に向けて2020年3月期を最終年度とするグループ中期経営計画を策定しました。製品ラインアップ拡充や、グローバルでの販売・サービス体制の拡大などを進めるとともに、独自の技術を活用した競争力の高い製品開発およびグローバルな事業展開の加速、持続的な成長に向けた人材やIT基盤などへ投資していきます。なかでも人材は、企業成長の重要な原動力の一つであると考え、従業員一人ひとりが最大限の能力を発揮できる環境の整備や能力開発を積極的に行っていきます。

優先的に取り組むべき課題 (マテリアリティ)を特定

シスメックスは、企業理念と行動基準の実践を通じてステークホルダーの皆様に「安心」をお届けするという考えの下、医療の発展への貢献はもとより、さまざまなCSR活動に取り組んできました。そしてこのたび、持続可能な社会および当社の持続的な成長を実現していくために優先的に取り組むべき課題を特定しました。ヘルスケア分野に携わる企業として「製品・サービスを通じた医療課題解決」はもちろん、事業活動を行っていく上で重要である「責任ある製品・サービスの提供」「魅力ある職場の実現」「環境への配慮」「ガバナンス」の5つの領域に優先的に取り組むことで多様なステークホルダーの皆様に安心をお届けしていきます。

シスメックスは、これからも事業活動を通じた社会課題解決に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長

冢 次 恒

シスメックスと社会との関わり

シスメックスの事業

シスメックスグループは、価値の高い検査・診断技術の提供を通じて、世界中の豊かな健康社会づくりに取り組んでいます。

■ 企業理念および行動基準

▶ グループ企業理念「Sysmex Way」および行動基準についてはこちらをご覧ください。

■ シスメックスの事業

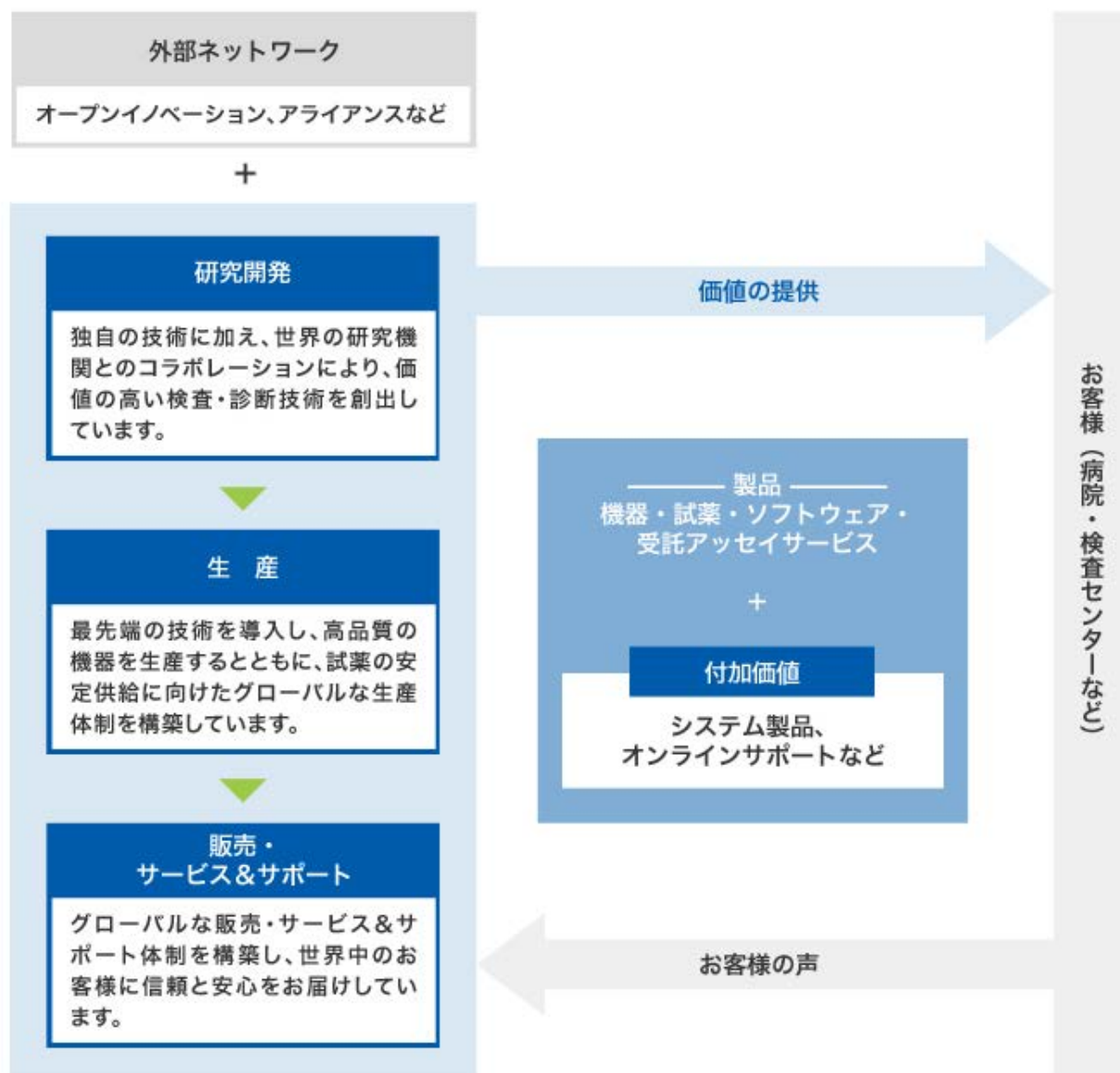
世界190カ国以上に製品・サービスをお届けしています。

シスメックスがカバーする主な検査分野

 病院	ヘマトロジー（血球計数）検査分野 赤血球や白血球などの数や種類、大きさを測定・分析する検査。 [貧血、白血病、血小板減少症など] 	血液凝固検査分野 血液を固めて傷口をふさいだり、血栓を溶かす働きを調べる検査。 [出血性疾患（血友病など）、血栓性疾患（深部静脈血栓症など）] 	尿検査分野 尿中の糖・タンパク・血液の有無を調べ、尿路系結石の有無、腎臓の機能や糖尿病罹患の有無を調べる検査。 
	免疫血清検査分野 ウイルス、ホルモン、タンパクなどの状態を調べ、病気の原因や種類などを調べる検査。 [感染症（肝炎、エイズ）、がん、アレルギーなど] 	生化学検査分野 代謝に関わる臓器の状態を、糖や脂質、タンパクなどの成分から調べる検査。 [糖尿病、動脈硬化、肝機能障害、腎機能障害など] 	ライフサイエンス分野 ●遺伝子検査 遺伝子の情報を解析して、がんなどの疾病の発症可能性や医薬品の適合性などを調べる検査。 ●リンパ節転移検査 がん細胞のリンパ節への転移を調べる検査。 
	動物病院 犬や猫などをはじめ、水族館のイルカや動物園の動物たちの健康管理に役立つ動物用自動血球分析装置。 	スポーツ施設 採血せずにヘモグロビン推定値を測定でき、アスリートのコンディション管理に役立つ健康モニタリング装置。 	

▶ 「こんなところにシスメックス」についてはこちらをご覧ください。

シスメックスの事業プロセス



シスメックスが優先的に取り組む課題

持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、
優先的に取り組むべき課題(マテリアリティ)を特定し、
アクションプランに展開しています。

▶ マテリアリティについてはこちらをご覧ください。



全ての人が 適切な医療を受けられる 社会を目指して

世界には貧困問題や、医療環境・医療制度の未整備などにより、必要な医療を適切に受けることが困難な地域や人々が存在します。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」でも目標の一つとして医療アクセスの改善が掲げられています。シスメックスグループでは、ヘルスケア企業としてこれらを重要な課題と捉え、一人でも多くの方が適切な医療を受けることができるよう、現地政府や国際機関、医療機関、企業などと協力して、医療水準の向上を目指した取り組みや、医療機会の提供を進めています。

SDGsとの関わり

国連が採択した「持続可能な開発目標 (SDGs)」では、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられています。その中の目標3「すべての人に健康と福祉を」では、以下の実現が求められています。

- 妊産婦の死亡率を低下させる
- 新生児および5歳以下の死亡率を低下させる
- エイズ、結核、マラリアなどの伝染病を根絶するとともにその他感染症に対処する
- 非感染性疾患による若年死亡率を低下させる
- 質の高い基礎的な保健サービスおよび医薬品・ワクチンへのアクセスを向上させる
- 開発途上国における保健人材の能力開発・訓練を推進する

など

3 すべての人に
健康と福祉を



新興国・開発途上国の 医療水準向上を目指して

シスメックスグループはこれまで培ってきた技術やノウハウを活かし、正確な検査結果をお届けするための外部精度管理※サービスなどの臨床検査室の品質管理支援を通じて、現地の医療水準向上に向けた取り組みを進めています。

※複数の臨床検査室に同一の試料(人工的に作られた血液など)を配布し、回収された測定結果を統計的手法を用いて解析することにより、各検査室の測定結果の精度を評価する手法のこと。結果は各検査室へフィードバックされ、検査の質向上に役立てられる。



JICAとの協同事業のキックオフセレモニー(ナミビア共和国)



検査室でのオペレータートレーニング(ナミビア共和国)

事例紹介 [ナミビア共和国]

国際協力機構(JICA)と協同で国際基準に適合した 臨床検査室の品質管理支援を推進

アフリカ ナミビア共和国では、医療人材および医療インフラの不足とともに医療の質確保が課題となっています。

例えば、血液や尿を採取して検査する検体検査は、病気の診断や治療に不可欠ですが、環境が整備されていない中で検査を行うことは、患者さんへ適切な検査結果を提供できないという問題があります。このような状況を改善するために、ナミビア政府は臨床検査室に特化した品質マネジメントシステム規格ISO15189※1認証取得による品質改善施策を実施しています。

当事業は、国際基準に適合した臨床検査室の運営を目的に、ナミビア政府の下で臨床検査事業を行うNamibia Institute of Pathologyの施設に対して、臨床検査室の品質管理システム運用マニュアル「Sysmex Quality Guidance Manual」を用いたメンターシップ※2プログラムを提供するものです。

アフリカ地域では、これまでザンビア保健省とジンバブエ保健省においても同様の取り組みを通じて検査室の品質向上支援活動を展開しています。

将来的にはナミビア、ザンビア、ジンバブエでの実績を布石に、アフリカの近隣諸国への水平展開を図っていきます。

※1臨床検査室が品質管理システムを運営し、技術的に適格であり、技術的に妥当な結果を出す能力があることを保証する国際規格。検査室内の全ての検査と管理に関する手順が文書化され、組織内における効率的な評価と改善を継続的に実施することが求められる。

※2人を単に管理するという発想でなく、組織の方向性や価値観を明確にした上で、事業に関わる全ての人の成長と成功を追求し、人を動機付け、能力を向上させていくように導く姿勢やスキル、また、そのしくみによって組織を活性化していくマネジメントのこと。

VOICE

Namibia Institute of Pathologyに所属するお客様の声

検査室の品質向上につながる実感できる有効なプログラムでした

ナミビア政府から臨床検査事業の運営管理を委託されているNamibia Institute of Pathologyに所属する私たちスタッフに対して、検査室の品質向上に向けたトレーニングが行われました。

国際基準に適合した臨床検査室の品質管理システムについて学ぶことができ、とても有意義でした。また、正確なオペレーションや応用知識を習得するとともに、検査の目的や有用性を再認識することで、スタッフの血球計数検査全般への関心が高まりました。このプログラムにより、臨床検査の質向上を図ることができると思います。

全ての人が適切な医療を受けられる社会を目指して

事例紹介 [アジア各国]

臨床検査の標準化・質向上に向けて
学術支援活動を展開

シスメックスはこれまで、中国やモンゴル、カンボジアの政府機関と臨床検査の質向上を目的とした学術支援活動に関する契約を締結し支援を行ってきました。

モンゴルにおいては、ヘマトロジー（血球計数）と生化学分野の検査の外部精度管理および基準検査室の構築のための支援に加え、2016年3月には、新たに感染症検査についても同様の支援活動を進めていくことに合意するとともに、政府が主導する医療インフラ整備の一環として、国立病院への基準器の設置なども実施しています。

また、ミャンマーにおいては、2014年から学術支援活動の提案を進め、2016年10月にミャンマーの国家機関であるNational Health Laboratory (NHL) と臨床検査の質向上を目的とした学術支援活動に関する契約を締結しました。すでにNHLに納入されている当社機器の測定値の信頼性を高めるための維持管理支援を行うとともに、ミャンマー国内の臨床検査室を対象に、国家的な外部精度管理スキームの構築・運用を支援しています。また、現地医療従事者に技術的・学術的ノウハウの提供も行っています。

当社では、今後も、新興国・開発途上国における臨床検査の標準化や質向上を目指した取り組みを推進していきます。



全自動免疫測定装置の操作説明
(モンゴル)

アジア地域における
外部精度管理
サービス実績
(2016年度)

モンゴル



- ・ヘマトロジーと生化学分野で外部精度管理を実施
- ・免疫検査分野で外部精度管理を実施

ミャンマー



- ・ミャンマー保健省の了承のもと、National Health Laboratoryと外部精度管理支援に関する契約を締結

フィリピン



- ・ヘマトロジー分野で外部精度管理を実施

タイ



- ・ヘマトロジー分野で外部精度管理を実施

カンボジア



- ・ヘマトロジー分野で外部精度管理を実施

VOICE

学術支援活動に携わる社員の声

現地の方々とともに、臨床検査の質向上に取り組んでいきます

実際に新興国や開発途上国に足を運び、現地の臨床検査の実態を目にすると、先進国との違いに驚くとともに、臨床検査の質を向上させ、検査の信頼性や必要性に対する認知を高めることが不可欠であると感じます。従って、このような医療状況を改善するために検査水準の向上に取り組んでおられる方々にお会いすると大きな勇気をもらいます。私たちがこのような活動を支援できていることは大変光栄なことであり、これからも現地の方々とともに、臨床検査の質の向上に取り組んでいきたいと思えます。



シスメックス株式会社
学術本部
牧野 哲也

インフラ未整備地域への医療の提供を目指して

シスメックスグループは、世界のさまざまな医療環境を考慮し、地域・人々のニーズにあった製品・サービスをお届けすることによって、一人でも多くの方が適切な医療を受けられる機会の創出に取り組んでいます。

事例紹介 [ケニア]

移動検診車「モバイルラボ」寄贈による医療機会の提供

電気設備などのインフラが整っていない地域においては、先進国に提供している製品・サービスをそのまま使用することができないため、地域・人々のニーズにあった製品・サービスの提供が求められています。また、医療に関する知識が不十分で、検査や治療の効果が理解されていない地域もあり、患者さんへの教育・啓発も重要な課題の一つとされています。

シスメックスグループはこれまで、アフリカを中心に当社機器などを搭載した移動診療車「CyLab」を展開するなど、医療設備が十分でない地域での検査を可能にしたり、小型でポータブル・低価格な製品を提供してきました。

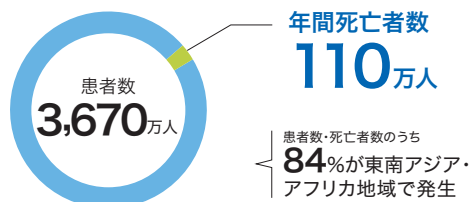
2016年8月にケニアで開催されたアフリカ開発会議(TICAD VI)では、豊田通商株式会社および日野自動車株式会社と協同で、感染症の診断、治療モニタリングができる当社機器を搭載した移動検診車「モバイルラボ」を出展し、それを母子保健や感染症対策に関する啓発活動を行う「ビヨンド・ゼロ・キャンペーン」※に寄贈しました。この取り組みは、三大感染症(HIV/AIDS、結核、マラリア)の根絶に向けて、「医療アクセスが困難な地域に医療をお届けする」というコンセプトのもと始動し、モバイルラボの導入により、定期的な巡回診療と患者さんへの教育・啓発活動を可能にします。これらの取り組みを通じて感染症の早期発見・早期治療に貢献し、感染症死亡率を低下させることを目指しています。

シスメックスグループは、これからも一人でも多くの方に適切な医療をお届けするとともに、患者さんの健康への関心を高めることで、世界の医療課題解決に寄与していきたいと考えています。

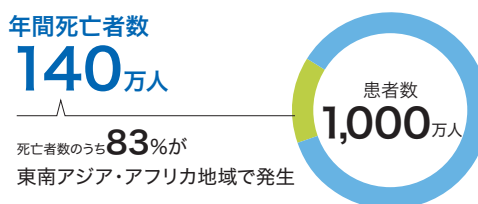
※2014年1月にケニアのケニヤッタ大統領夫人が立ち上げた、母子保健や感染症対策に関する啓発活動。政府への働きかけや国民への啓発活動に加え、移動式診療所の全国配備を目指し、大統領夫人自らの主宰によるチャリティ・マラソンなどを行っている。

三大感染症の年間死亡者数 (2015年)

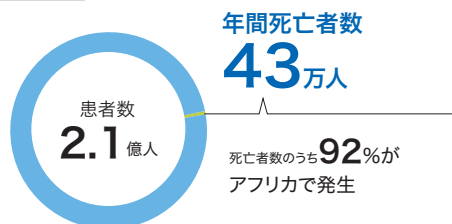
HIV / AIDS 出典: UNAIDS/GLOBAL AIDS UPDATE 2016



結核 出典: WHO/GLOBAL TUBERCULOSIS REPORT 2016



マラリア 出典: WHO/World Malaria Report 2016



アフリカ開発会議 展示ブースの様子



モバイルラボ 外観



モバイルラボ内 診断用医療機器



多様性を尊重し イノベーションの創出に つなげる

近年、ダイバーシティの推進や働きやすさ・働きがいにつながる取り組みの推進がより一層求められるようになり、国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」でもジェンダーの平等や働きがいに関する目標が掲げられています。

シスメックスグループでは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つとして捉え、多様な人材が在籍する「ダイバーシティ」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し、受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指した取り組みを進めています。

多様な価値観、考え、経験、能力のシナジー効果により、イノベーションの創出と価値の創造につなげていきます。

SDGsとの関わり

国連が採択した「持続可能な開発目標 (SDGs)」では、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられています。その中の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標8「働きがいも 経済成長も」では、以下の実現が求められています。

- 全ての女性に対するあらゆる形態の差別を撤廃する
- 政治、経済、公共分野での意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画および平等なリーダーシップの機会を確保する
- ジェンダー平等の促進、ならびに全ての女性の能力強化のため、適正な政策および拘束力のある法規を導入・強化する
- 全ての人に完全かつ生産的な雇用および働きがいのある仕事を提供し、同一労働・同一賃金を達成する

など

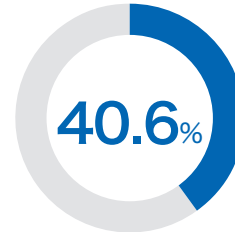


ダイバーシティ& インクルージョンの実現に向けて

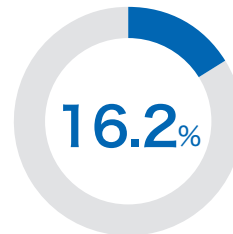
グローバルに事業を展開するシスメックスのグループ従業員は7,930名（2017年3月末時点）になり、海外従業員比率は55%を超えています。このような状況において、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践し、世界中の人々に安心をお届けしていくためには、個々の人材の能力向上はもちろんのこと、多様な人材同士がコミュニケーションを通じて、互いに価値観を共有し、考え、経験・能力などを受容し高めあうことで、柔軟で革新的な発想・アイデアをもたらし、新しい価値を生み出していくことが重要であると考えています。

そこで、ダイバーシティ&インクルージョンを推進し、各種制度の導入などを通じて、多様な人材が安心して能力を發揮できる職場環境の整備を進めています。

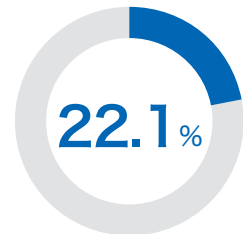
女性従業員比率
(グループ)



女性管理職比率
(グループ)



新卒採用者外国人比率
(単体)



〈2016年度実績〉

ダイバーシティ推進に向けた取り組み

女性活躍推進/多様な働き方の推進 (育児・介護)	多様な人材の活用 (外国人、障がい者、高齢者)
<ul style="list-style-type: none"> 多様な休暇制度(育み休暇/めばえ休暇など)、フレックスタイム制度の導入。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍従業員の積極的な採用。(外国人留学生の採用、海外大学からの直接採用など)
<ul style="list-style-type: none"> 研究開発拠点テクノパークに社内託児所を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍従業員向けのサポートデスクを設置。
<ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務制度の導入開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍従業員の就業環境改善に向けたラウンドテーブルを開催。
<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍推進法に基づく行動計画を策定・公表し、年度ごとの実績を公表。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域共生社会の実現に向けたさらなる障がい者雇用促進のため、シスメックスハーモニー株式会社を設立。
<ul style="list-style-type: none"> 経験者の声を聞き、自らのキャリアや働き方について考える機会を提供。(ダイバーシティラウンドテーブル) 	<ul style="list-style-type: none"> ドイツにおける障がい者支援団体への一部業務委託。
	<ul style="list-style-type: none"> オストメイトなどのバリアフリー設備の導入や、車椅子の通行に配慮した職場環境の整備。
	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な再雇用の実施。

女性活躍推進「えるぼし」最高ランクを取得

シスメックスは、多様性を受け入れ、従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が發揮できる職場環境整備の一環として、社内託児所設置や法定以上の育児休業などの整備に取り組んできました。また、女性活躍推進法の施行に基づき、2016年4月に「女性活躍推進 行動計画」を制定し、女性リーダーの育成や多様な働き方を促進しています。

このような取り組みが評価され、2016年、厚生労働省が女性活躍に関して定めた5つの評価項目の基準を全て満たしたことにより、優れた取り組みを行う企業に与えられる「えるぼし」の最高位である「3段階目」を取得しました。



女性活躍推進法に基づく
優良企業認定マーク「えるぼし」

多様性を尊重しイノベーションの創出につなげる

事例紹介 [日本]

ダイバーシティマネジメント研修で
多様性について「理解し、実践する」

ダイバーシティの推進に向けて、2016年度にダイバーシティマネジメント研修を計5回実施しました。シスメックスにおけるダイバーシティの変遷や現状を学び、ダイバーシティを推進する意義の理解を促進します。また、女性や外国籍の方・高齢者などの多様性が増すことで生じるコンフリクト(対立)を受容し、コントロールするスキルを学ぶことで多様な個性を尊重し、継続的にイノベーションを生み出す組織風土づくりを目指しています。今後も対象を広げ、研修を展開していきます。

研修の構成

研修前
「知る」

- 課題図書による事前学習
- 事前課題検討
- 対人傾向診断

研修
「学ぶ」

- ダイバーシティ&インクルージョンについての講義
- ワークショップ
- 7回のロールプレイ(対立の型を習得)
- グループディスカッション

研修後
「実践・
検証する」

- 実践計画立案
- 実践
- 振り返り(2カ月後・6カ月後)

事例紹介 [日本]

ダイバーシティラウンドテーブルで
「共感し、考える」

人生のさまざまな段階において、能力を発揮し、いきいきと働き続けるために必要なキャリアに対する動機付けや、多様な働き方を考える機会を提供するため、2つのダイバーシティラウンドテーブルを実施しています。

女性活躍推進：ゲストスピーカーの経験談を聞くとともに、参加者同士がディスカッションを行うことで共感・理解を深め、自身の今後のキャリアや働き方について最良の一步を踏み出す機会を提供します。

外国籍従業員の職場環境改善：文化の違いによる悩みや要望などについて意見交換を行い、今後の改善施策を抽出します。宗教上の食事の配慮や、社内英語化促進はもちろん、日本での生活面での情報提供支援や、日本人従業員との交流(Language Exchange)も促進しています。

2016年度の実践プログラム(抜粋)

女性のキャリア形成

- 海外で活躍したい女性が考えておきたいこと
～ 海外経験者と語り合う ～
- 私らしいキャリアって何?
～ やりがいも活躍の仕方も十人十色 ～

〈目的〉 キャリアや働き方を考える。

ワークライフバランス/仕事と育児・介護の両立

- 小学生を持つ親は大変だ?!
～ 3名のワーキングマザーと語り合おう ～
- 仕事も子育てもどんと来い!
～ 私たちの子育て奮闘記 ～

〈目的〉 家事・育児・介護と仕事の両立を考える。

VOICE

ダイバーシティラウンドテーブルに参加した社員の声

将来の働き方を見つめ直し、考える機会になりました

小学生の子どもを持つ女性従業員のラウンドテーブルに参加しました。親子ともに生活リズムが異なる中で、いかにコミュニケーションの時間をつくるのか、働く親としての心構えや工夫など、同じ会社で働く女性の経験談は自分に重ねあわせてイメージしやすいと感じました。また、女性管理職のキャリア経験に関するプログラムでは、今後のキャリアにおいて、自分に自信を持ち、強みを活かし、興味のあることに失敗を恐れず挑戦することが大切であることに気づかされました。当社にはさまざまな境遇の従業員がいるため、今後も将来の働き方について見つめ直し、いろいろと考えることのできる気軽な場として参加していきたいです。



シスメックス株式会社
グローバルサポート本部
大井 尚美

事例紹介 [日本]

障がい者の雇用を促進する

「シスメックスハーモニー」の設立

シスメックスは、2017年4月、地域共生社会の実現に向けた障がい者雇用促進のため、新会社「シスメックスハーモニー株式会社」を兵庫県神戸市に設立しました。

シスメックスハーモニーでは、主にシスメックスグループの機器生産工場および試薬生産工場における生産に関するサポート業務を行います。身体、知的、精神に障がいを持つ方々が個々の特性やハンディキャップにあわせて活躍できる業務や職場環境を準備し、「障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働く喜びを感じながら、いきいきと活躍し、ともに成長できる、笑顔あふれる職場」を目指しています。

なお、2017年度中に障がい者雇用促進法に定める特例子会社の認定申請を目指しています。

事例紹介 [ドイツ]

障がい者支援団体への業務委託

シスメックス ヨーロッパでは、15年前より障がい者の自立支援に取り組んでいる団体と連携し、ドイツ試薬生産工場の製造ラインでの梱包作業などを障がい者の方々に委託しています。

作業の方々に業務の目的を共有するとともに、定期的なトレーニングと従業員によるサポートを実施することで、高いモチベーションを維持して作業に取り組んでいただいています。

今後も継続して、作業の方々がいきいきと働ける職場づくりを推進していきます。



製造ラインで働く様子

地域と連携した業務体制

兵庫県

地域団体

- ・ハローワーク
- ・社会福祉法人 など



障がい者の紹介

入社後の定期的なフォロー

シスメックスグループ

国内グループ会社

▼ 生産関連業務の委託

シスメックスハーモニー

▼ 障がい特性に応じた職場環境整備 ▼

機器生産工場 (加古川工場)



- ・保守部品梱包作業
- ・工場内廃材処理 など

試薬生産工場 (西神工場)



- ・添付文書折り畳み
- ・梱包作業 など

VOICE

シスメックスハーモニーの設立に携わった社員の声

地域の方々と連携し、笑顔あふれる職場の実現を目指します

兵庫県における地域共生社会実現への貢献を目的として、シスメックスハーモニーは誕生しました。障がいを持つ方々にも活躍いただける職場環境の整備は、当社の長年の課題であり、今回の設立に関してもノウハウがなく検討事項が尽きませんでした。どんな仕事をしてもらうのか、どんな配慮が必要なのかなど、関係部門の担当者や、兵庫県のハローワーク、社会福祉法人の皆様をサポートしていただきながら検討・準備を進めてきました。コンセプトである「障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働く喜びを感じながら、いきいきと活躍し、ともに成長できる、笑顔あふれる職場」の実現に向けてこれからも運営を進めていきます。

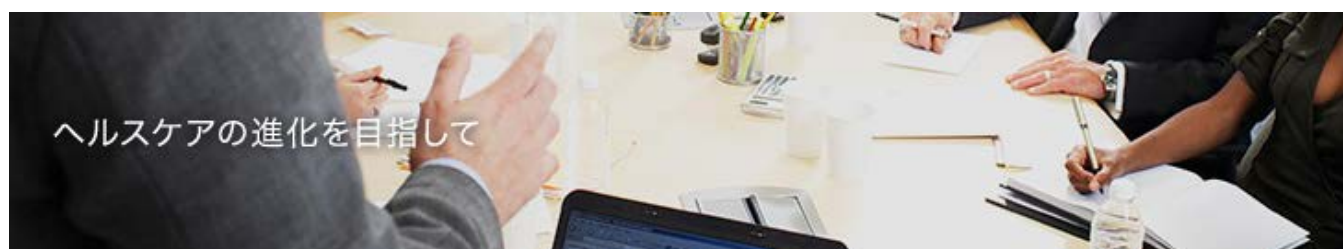


シスメックス株式会社 人事本部
兼 シスメックスハーモニー株式会社

中野 宗彦

経営とCSR

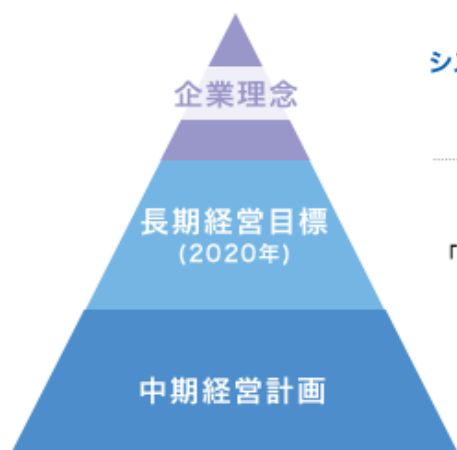
長期経営目標・中期経営計画



シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」のミッションとして掲げる「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、医療の発展や人々の健やかな暮らしに貢献すべく、長期経営目標、中期経営計画を設定しています。

長期経営目標（2020年）

2020年に向けてシスメックスが目指す姿



シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」-ミッション-
「ヘルスケアの進化をデザインする。」

長期経営目標 -ビジョン-
「A Unique & Global Healthcare Testing Company」

ポジショニング

ヘマトロジー、凝固、尿分野におけるグローバルNo.1 (アライアンス含む)
当社の中核事業として、グループの更なる成長を支える収益基盤を構築します。

免疫分野におけるユニークで存在感あるプレーヤー
他社にないユニークな強みを発揮し、中期の成長ドライバーとして、グループの成長を牽引します。

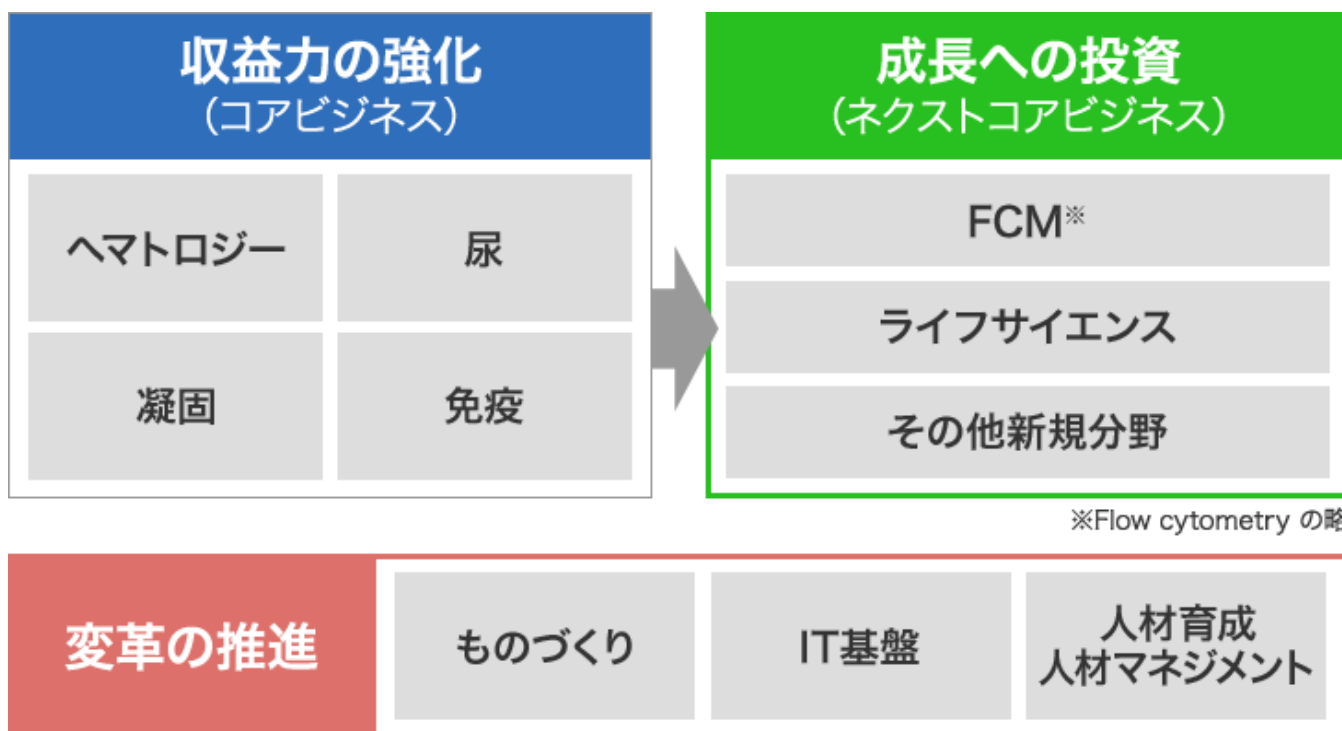
価値と安心を提供する魅力あふれる会社
多様なステークホルダーに価値と安心を提供する魅力ある会社を目指します。

アジアIVD市場におけるリーディングカンパニー
地理的な優位性を発揮し、ヘマトロジー分野以外の免疫等の成長分野においてもアジア市場で確固たる地位を築きます。

個別化医療に貢献する先進的なグローバルプレーヤー
先進的な技術に基づく検査(診断)の価値向上を通じ、グループの成長加速とグローバルな存在感を確立します。

スピード豊かな経営を実践するOne Sysmex
グループ全体で最高のチームワークを発揮し、高効率でスピード豊かな経営を実践する企業体を目指します。

中期経営計画(2018年3月期～2020年3月期)



収益力の強化

(コアビジネス)

- (1) **ヘマトロジー分野の市場拡大による収益力の強化**
米国における絶対的No.1の達成（西海岸販促強化、大手検査センターへの導入）
中国における2級病院以下への販促強化
新興国における高成長の実現
- (2) **新製品拡販による尿検査事業の拡大**
新たなコンセプトによる尿検査の効率的なワークフロー実現
（定性+沈渣+画像+データマネジメント）
- (3) **血液凝固検査分野のグローバルシェア拡大による収益性向上**
シーメンス社とのアライアンスを活用したグローバル展開の加速
線溶系試薬※の導入加速（中国、日本など）
※血液凝固異常、血栓の検査等に使用
- (4) **免疫検査分野における日本、中国、アジアでの事業拡大と収益性改善**
肝疾患領域での事業拡大
中国、アジアにおけるユニーク項目の市場導入
（肝臓の線維化検査用試薬 HISCL™ M2BPGI試薬等）
売上拡大および原価低減等による収益性の改善

成長への投資

(ネクストコア
ビジネス)

- (5) **FCM事業の基盤構築**
クリニカルFCM製品の市場導入
リサーチ・インダストリー領域での販促強化
- (6) **ライフサイエンス事業の拡大**
理研ジェネシスおよびInosticsのラボアッセイ事業の推進
クリニカルPCRの市場導入、遺伝子関連事業の拡大
OSNA™法によるリンパ節転移迅速検査の市場拡大
- (7) **その他新規分野の事業化**
超高感度HISCL™、子宮頸がん検査システム、
グルコースAUC（食後高血糖状態モニタリングシステム）、
その他新たな事業の促進

変革の推進

- (8) **ものづくりのスピードと質の向上**
バイオ診断薬開発・生産力の強化（バイオ診断薬拠点の設立）
お客様に信頼され続ける高い品質と安定供給体制の強化
- (9) **業務プロセス最適化を目指したIT基盤の強化**
サプライチェーンのプロセス最適化
エンジニアリングチェーンのプロセス最適化
- (10) **グループの成長を支える人材育成と人材マネジメントの強化**
次世代リーダー人材と高度専門人材の獲得および人材育成の強化
多様な人材が働きやすい職場環境の整備（ダイバーシティのさらなる推進）

<持続可能な社会の実現へ貢献>

- (11) 製品・サービスを通じた医療課題の解決に取り組むとともに、環境への配慮、コーポレート・ガバナンスの強化、ダイバーシティの推進を通じて、多様なステークホルダーの皆さまに対してシスメックス独自の新たな価値を提供し、社会の発展に貢献していきます。

経営数値目標（2020年3月期）

売上高	3,500億円（CAGR [※] =11.9%）
営業利益	720億円（CAGR [※] =11.7%）（営業利益率20.6%）
ROE	20%以上
営業キャッシュフロー	550億円
フリーキャッシュフロー	300億円

想定レート：1USD=110円、1EUR=115円、1CNY=16円

※CAGR（年平均成長率）：2018年3月期-2020年3月期

基本的な考え方・体制

基本的な考え方・体制

シスメックスグループのCSRは「Sysmex Way」の実践を通じて皆様に「安心」をお届けすること

シスメックスグループのCSRとは、グループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けすることと考えています。

「Sysmex Way」は、企業活動の最も基本的なあり方を示したもので、シスメックスグループが社会に貢献し、そして成長し続けるために必要なMission、Value、Mindの3つの要素で構成しています。Missionでは、創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、より広く、より深く人々の健康に関わるヘルスケアの領域での進化に挑戦し、豊かで、健やかな、歓びに満ちた社会づくりに貢献していくことを表明しています。

さらに「行動基準」では、お客様、従業員、取引先、株主様、社会というステークホルダーの皆様に対する具体的な提供価値を明確にしています。例えば、社会に対しては、法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心をお届けしていくことや、環境問題をはじめ地球や社会が抱えるさまざまな問題の解決に、社会とともに取り組んでいくことを大切にしています。

▶ [企業理念・行動基準についてはこちらをご覧ください。](#)

CSR推進体制

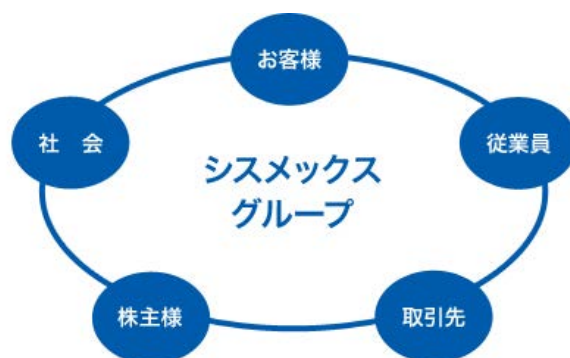
上記の考え方に基づき、コンプライアンスやリスクマネジメント、環境などのCSRに関する主要テーマについては役員を委員長とする各種委員会を設置して活動を推進しています。また、CSR活動の企画・立案および推進、社内外へのCSR情報発信などを行うCSR担当役員および、専任部署としてCSR・環境推進部を設置しています。

マテリアリティの特定やCSR中期計画の策定など、CSRに関する重要なテーマは、取締役が参加する経営会議にて審議・報告しています。また、社会からの期待・要請を整理して取り組み課題を洗い出し、関連部門にフィードバックすることで各部門の実行計画・活動に展開し、PDCAサイクルを回しています。

ステークホルダーとの関わり方

シスメックスを取り巻くステークホルダー

シスメックスは、ステークホルダーの皆様へ安心をお届けすることをCSRの基本的な考えとしてさまざまな取り組みを展開しています。



行動基準

お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心をお届けします。
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様へ安心をお届けします。
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心をお届けします。
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様へ安心をお届けします。
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

ステークホルダーエンゲージメント

シスメックスグループは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、事業活動がステークホルダーの要請や期待に応えているかを検証し、その結果をあらゆる事業活動に反映させています。

2016年度の主な対話実績

お客様との対話

地域担当役員によるお客様との意見交換を実施	シスメックス
各地域でお客様満足度調査を実施	シスメックス、 海外グループ会社
学術セミナーを各地域で開催	シスメックス、 海外グループ会社
製品への正しい知識を伝えるユーザーグループミーティングを開催	シスメックス、 海外グループ会社
お客様のフィードバックを取り入れたカスタマーレーニングプログラムを各地域で継続的に実施	シスメックス、 海外グループ会社



第39回学術セミナー（日本）

従業員との対話

全社員を対象とした自己申告制度により、海外勤務の希望の有無や職種の変更を含むキャリア設計に関する希望を調査し、人事ローテーションを行うための情報として活用	シスメックス
労働組合との団体交渉や、労働環境改善などについて議論する労使協議会を開催	シスメックス
経営層が各事業所を訪問し、経営方針などの説明を実施	シスメックス
労働組合との対話を実施	シスメックス 上海、済南シスメックス、シスメックス無錫、シスメックス ベトナム、シスメックス タイ、ハイフェンバイオメッド
従業員アンケートやインタビューの実施	シスメックス、 海外グループ会社



グローバル コミュニケーションセンターでの研修風景

取引先との対話

部品の品質保証に関する取引先向け説明会を開催	シスメックス
代理店会議を開催し、シスメックスの事業計画などについて説明	シスメックス ミドルイースト
ビジネスパートナー・ミーティングを開催	シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス コリア

株主・投資家との対話

定時株主総会および株主懇談会を開催	シスメックス
機関投資家・アナリスト向けの技術説明会を開催	シスメックス
個人投資家向けの会社説明会を開催	シスメックス
個人株主様向けの会社見学会を開催	シスメックス



株主懇談会

地域住民との対話

研究開発拠点「テクノパーク」で地域交流イベントを開催	シスメックス
高校生向け理数系教育イベント「サイエンスフェア in兵庫」に参加	シスメックス
世界各地での社会貢献活動を通じて地域住民との対話を実施	海外グループ会社



テクノパークの庭園開放

マテリアリティについて

マテリアリティの検討

シスメックスグループでは、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定しました。特定したマテリアリティは、具体的なアクションプランに展開し取り組みを進めていきます。

マテリアリティの特定

マテリアリティの特定プロセス

STEP.1
課題の把握・整理

GRIガイドライン(G4)、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」、ISO26000などの国際的ガイドラインや、SRIなどの評価機関の調査内容などから社会の要請事項の分析を行い、シスメックスグループのCSR活動の現状と照らし合わせて、関連側面を抽出・識別しました。

STEP.2
優先順位付け

STEP.1で識別した関連側面を「ステークホルダーにとっての重要度（ステークホルダーの意思決定への影響の大きさ）」と、リスク・機会の観点による「シスメックスにとっての重要度（自社が経済、環境、社会に与える影響の大きさ）」の2軸で総合的に評価し、優先的に取り組むべき最重要側面を抽出しました。

STEP.3
妥当性の確認、マテリアリティの特定

STEP.2の結果を整理したマテリアリティを、代表取締役が議長を務める経営会議で審議し、承認を得ました。

シスメックスのマテリアリティマトリックス



マテリアリティ	G4関連側面	関連するSDGsの目標
<p>製品・サービスを通じた医療課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活動を通じた医療課題解決 製品の普及等による医療アクセスの改善 	<ul style="list-style-type: none"> 間接的な経済影響 地域コミュニティ 	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>
<p>責任ある製品・サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 品質・安全性の確保 製品・サービスに関する適切な情報開示 サプライチェーンの評価・管理 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の安全衛生 製品およびサービスのラベリング 調達慣行 サプライヤーの環境評価 サプライヤーの労働慣行評価 サプライヤーの人権評価 サプライヤーの社会への影響評価 	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> </div>
<p>魅力ある職場の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境の確保 人材の育成 ダイバーシティの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用 研修および教育 多様性と機会均等 男女同一報酬 	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> </div>
<p>環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品ライフサイクルにおける環境配慮 事業所活動における環境負荷低減 	<ul style="list-style-type: none"> 製品およびサービス 輸送・移動 原材料 エネルギー 水 大気への排出 排水および廃棄物 	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> </div> </div>
<p>ガバナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ガバナンス 間接的な経済影響 コンプライアンス（環境・社会全般・製品責任） 腐敗防止 反競争的行為 	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>16 平和と公正をすべての人に</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>

製品・サービスを通じた医療課題解決

< 課題認識 >

近年、先進国では高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが高まっています。一方、新興国・開発途上国では、人口の増加に医療インフラの整備が追いついておらず、世界で4億人の方が必要な医療を受けられない状況にあり※、医療サービスの利用可能性の向上が課題となっています。

また、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」では、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、新しい価値の創出による健康社会への貢献や、三大感染症（HIV/AIDS、結核、マラリア）をはじめとする医療課題の解決が期待されています。

※ 出典：WHO “Universal Health Coverage”

▶ 製品・サービスを通じた医療課題解決に関する当社のアプローチおよび活動実績は、こちらをご覧ください。

責任ある製品・サービスの提供

< 課題認識 >

品質・リコール問題の多発により、製品・サービスの品質・安全性に対する社会からの要請は厳しさを増しています。また、近年、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体にまで拡大しています。

これらを背景に、企業は法令や規格を遵守し、製品・サービスの品質・安全を徹底するとともに、お客様満足度向上の取り組みや適切な情報開示、安定的な製品供給などを通じて、お客様と長期的な信頼関係を構築することが重要になっています。そのためには取引先と一体となり、お客様の信頼を得られるような責任ある製品・サービスを提供していくことが求められています。

▶ 責任ある製品・サービスの提供に関する当社のアプローチおよび活動実績は、こちらをご覧ください。

魅力ある職場の実現

< 課題認識 >

企業が持続的に成長するためには、ダイバーシティの推進と、働きやすく、働きがいのある魅力ある職場づくりに積極的に取り組むことが重要とされています。また、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、ジェンダーの平等や、働きがい、不平等の是正などの目標が掲げられています。これらを背景に、ワークライフバランスの推進など、多様な人材が能力を発揮し活躍できる職場づくりや、計画的・継続的な人材育成が企業に求められています。

▶ 魅力ある職場の実現に関する当社のアプローチおよび活動実績は、こちらをご覧ください。

環境への配慮

< 課題認識 >

地球環境問題は、持続可能な社会を実現していく上で喫緊の課題といわれています。COP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）で採択された「パリ協定」では、地球温暖化防止に向けて世界の全ての国や地域がCO₂排出量削減のための目標を設定し、その達成に向けた対策を講じることが義務付けられました。また、天然資源の枯渇が深刻化しており、循環型社会への対応も重要な課題の一つとして挙げられています。

これらの状況を踏まえ、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、環境問題の解決のための目標が多数掲げられており、政府のみならず、企業も一定の責任を果たすことが求められています。

▶ 環境への配慮に関する当社のアプローチおよび活動実績は、こちらをご覧ください。

ガバナンス

< 課題認識 >

近年、コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスに関して、社会からの目が厳しくなるとともに、それに伴う社会的影響がますます大きくなってきています。

このような状況を踏まえ、2015年6月には、企業に対して財務的側面だけでなく非財務側面にも配慮した事業活動を行うことを求める「コーポレートガバナンス・コード」が施行されました。

企業には、ガバナンスおよび内部統制の強化や、経営の基盤強化に向けたリスクマネジメントおよびコンプライアンスの推進などの取り組みがこれまで以上に求められています。

▶ ガバナンスに関する当社のアプローチおよび活動実績は、こちらをご覧ください。

実効性向上への取り組み

アクションプランに展開

特定したマテリアリティは、具体的なアクションプランとして目標（KPIなど）を設定しCSR中期計画に展開することで、PDCAサイクルを回して実効性を高めていきます。

また、環境に関しては「シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）」および「シスメックスグループ中期環境目標」の下、事業活動における環境負荷低減に向けてグループで取り組みを進めます。

- ▶ CSR中期計画（2016年度実績）についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 「シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）」および「シスメックスグループ中期環境目標（2015～2017年度）」についてはこちらをご覧ください。

国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクトに参加

シスメックスグループは、CSRへの取り組みを積極的に推進していくために、2011年2月、国連グローバル・コンパクトに参加しました。取り組みの推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」などを参照しています。



- ▶ 「持続可能な開発目標（SDGs）」と優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）との関連性についてはこちらをご覧ください。

国連グローバル・コンパクトの10原則

人権	1. 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである。 2. 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働	3. 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである。 4. 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである。 5. 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである。 6. 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	7. 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである。 8. 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである。 9. 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	10. 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

製品・サービスを通じた医療課題解決

課題認識

近年、先進国では高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが高まっています。一方、新興国・開発途上国では、人口の増加に医療インフラの整備が追いついておらず、世界で4億人の方が必要な医療を受けられない状況にあり※、医療サービスの利用可能性の向上が課題となっています。

また、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」では、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、新しい価値の創出による健康社会への貢献や、三大感染症（HIV/AIDS、結核、マラリア）をはじめとする医療課題の解決が期待されています。

※ 出典：WHO “Universal Health Coverage”

シスメックスのアプローチ

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のミッションである「ヘルスケアの進化をデザインする。」の下、検体検査の分野で新たな価値を生み出し、人々の「健康でありたい」という願いに応えていくことが使命であると考えています。

特に、事業活動を通じた医療課題解決や医療アクセスの改善は、新たな技術的・社会的価値の創造につながり、社会の持続可能性向上に貢献しています。

創業以来、検査ニーズに応じた製品ラインアップの拡充やサービス&サポート体制の強化、正確で迅速な検査データ提供に取り組むとともに、近年は、個別化医療の実現に向けた先進的で価値の高い検査・診断技術の創出を目指した研究開発や、新興国・開発途上国の医療アクセス向上に向けて、現地の医療水準を高めることを目指した事業活動も推進しています。

今後もこれまで培ってきた独自の技術やグローバルネットワークを活かして、医療の発展と人々の健やかな暮らしへの貢献を目指した取り組みを進めていきます。

事業活動を通じた医療課題解決

イノベーション・マネジメント

シスメックスグループは、先進的で価値の高い検査・診断技術の提供を目指し、研究開発に対するビジョンや方向性、推進体制を定めてイノベーションの創出に取り組んでいます。

さまざまな技術の融合を生み出す研究開発体制

お客様の声を製品に活かしていくために、機器、試薬、ソフトウェアなどの技術を融合し製品開発に取り組んでいます。研究開発の中核拠点であるテクノパークでは、電気、機械、生物、化学、ITをはじめとする多彩な分野の研究者、技術者が活発なコミュニケーションを図りながら、新技術の創出と融合を目指しています。また、米国やドイツ、中国などにも研究開発拠点を設置し、グローバルな研究開発体制を構築しています。

さらに、独自の技術プラットフォームの拡充に加え、オープンイノベーションにより、国内外の研究機関や大学、医療機関とのコラボレーションを促進しています。この活動により、新たな診断項目の候補を取り入れ、いち早く先進的で価値の高い診断技術・診断薬として完成させています。

▶ 「研究開発体制」の詳細についてはこちらをご覧ください。

オープンイノベーションにより画期的な検査・診断技術の共同開発を促進

近年、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する「個別化医療」への期待が高まっています。シスメックスは、個別化医療の実現に向けて、新たな価値を生み出す共同研究開発（オープンイノベーション）を推進しており、テクノパーク内に自社の技術と国内外の研究機関が持つ技術の融合を図るためのラボ「SOLA」を設置しています。

SOLAに社外の研究者の方々をお招きすることにより、当社の研究者とのコミュニケーションがより促進され、“知の融合”が図られています。また、同業種・異業種の企業とのコラボレーションも増えています。

その一例として、株式会社JVCケンウッドと、血液中などに存在する「エクソソーム」というカプセル状の微粒子を対象に、患者さん一人ひとりの組織・疾患の状態をより詳細に把握することで最適な投薬につなげる画期的な検査・診断技術の共同開発を進めています。エクソソームに含まれる種々の物質は、がんや中枢神経疾患などのバイオマーカー※になると期待されています。他にも、研究の初期段階のものから実用化を控えたものまで、複数のプロジェクトを進行中です。

※ 特定の病状などの指標となる物質。

▶ 「オープンイノベーション」についてはこちらをご覧ください。

一人ひとりに最適な医療を提供する 「個別化医療」

病気の状態は、患者さん一人ひとりによって異なるため、同じ病気であっても同じ治療法を適用することは必ずしも正しくありません。そこで近年では、遺伝子を解析する技術を基に、病気の発症リスクや薬の効果などを予測し、一人ひとりに最適な治療や薬を提供する「個別化医療」へのニーズが高まっています。



社外に開かれたオープンイノベーションの場「SOLA」

個別化医療の実現に向けた研究開発の取り組みを加速させるため、社外の研究者との共同研究開発を行う場として「シスメックス オープンイノベーションラボ SOLA (Sysmex Open Innovation Lab.)」を2015年に開設。当社の技術基盤である「遺伝子」「細胞」「タンパク」をテーマに、共同研究開発を進めています。

最先端で高性能な分析機器を備えた「イノベーションエリア」



研究者が交流する「コミュニケーションエリア」には、自由に議論できるスペースや、発想の転換を促す書籍コーナーなどを設けています。



「ICTエリア」では、スーパーコンピュータにアクセスして、医療ビッグデータの解析などを行うことが可能です。



国立がん研究センター内に共同研究ラボを設置

シスメックスと国立がん研究センターは、2013年9月にがんの診断薬開発に向けた包括提携契約を締結し、これまでに10件を超える共同開発を推進しています。2015年10月には、ゲノム医療^{※1}の実現に向けて、がん診断分野における研究開発をさらに加速させるために、臨床検査室に関する国際規格ISO 15189^{※2}に準拠したラボ「Sysmex Cancer Innovation Laboratory (SCI-Lab)」を国立がん研究センター中央病院内に開設しました。

SCI-Labでは、さまざまながんに関係するとされる100種類程度の遺伝子を次世代シーケンサーで網羅的に測定する「網羅的遺伝子検査」を用いた臨床研究を実施しており、適切な治療方針や投薬の判断などへの活用が期待されています。また、同ラボは、シスメックスの子会社で遺伝子解析に豊富な経験を有する株式会社理研ジェネシスとも連携して運営しています。

新たながん診断法を一日も早く実現するために、今後も国立がん研究センターや理研ジェネシスと密に連携し、研究開発を推進していきます。



Sysmex Cancer Innovation Laboratory (SCI-Lab)

※1 遺伝子情報と病気の関係解析し、発症リスクのある疾患の予防や、より効果的な治療の選択を可能とする医療。

※2 臨床検査室の品質と能力に関する要求事項を定めた国際規格。

国立研究開発法人産業技術総合研究所と肝線維化の検査試薬を開発

シスメックスグループは、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「産総研」）と共同で肝臓の線維化の進行を採血のみで検査できる試薬「HISCL M2BPGi試薬」を開発し、世界初となる糖鎖マーカー[※]を用いた線維化検査技術の実用化に成功しました。

国内最大の感染症であるウイルス性肝炎は、放置すると慢性肝炎や肝硬変にいたり、肝細胞がんに行進する可能性もあります。治療においては、肝炎ウイルスによる肝臓の線維化の程度を判定することが重要であり、現在、その検査は肝臓組織を採取して行う生体組織診断が主流です。しかし、そのためには入院の必要があり、患者さんの身体的・経済的負担が大きいことが課題でした。「HISCL M2BPGi試薬」の導入により、肝線維化の進行の程度を採血のみで迅速に測定できるようになるため、患者さんの負担軽減、検査の効率化に貢献します。

さらに、2016年には糖鎖マーカーを用いた新たな診断薬の提供を目指し、産総研およびグライコバイオマーカー・リーディング・イノベーション株式会社（GL-i社）と胆道がんなどのバイオマーカーとなる診断薬の共同開発に取り組んでいます。

※ 糖鎖とは、細胞の表面や血液中のタンパク質上に存在する、糖が鎖状に連なった物質。糖鎖マーカーは、糖タンパク質にある糖鎖が病気によって変化する構造変化を確認することができるバイオマーカー。

世界初の糖鎖マーカーを用いた肝線維化診断システムの実用化により「経済産業大臣賞」受賞

2016年8月、シスメックスが産総研とともに推進してきた「糖鎖を使った肝線維化診断システムの実用化」が、「第14回産学官連携功労者表彰 経済産業大臣賞」を受賞しました。

「産学官連携功労者表彰」は、企業、大学、公的研究機関などの産学官連携活動において大きな成果を収め、先導的な取り組みを行うなど当該活動の推進に多大な貢献を果たした成功事例に対して、その功績を称えることで日本国内の産学官連携についてさらなる進展に寄与することを目的とし、2003年より実施されています。今回受賞した「経済産業大臣賞」は、内閣総理大臣賞をはじめとする12の賞の一つです。

第14回産学官連携功労者表彰 経済産業大臣賞 概要

受賞対象名	世界初・糖鎖を使った肝線維化診断システムの実用化
受賞理由	産総研が世界にリードしてきた糖鎖研究の成果が、シスメックスとの連携により、世界初の製品化に至った事例。血液検査のみで肝臓全体の状態（発がんリスク等）を把握できるようになり、慢性肝炎患者の即日検査（20分以内）を可能にした。

がんの早期発見・早期治療への貢献

全世界におけるがん患者は約1,750万人、がんによる死亡数は約870万人と推定されています（2015年時点）。また、2005年から2015年にかけてがん症例は33%増加しており、うち16.4%が高齢化、12.6%が人口増加、4.1%が年齢別割合の変化による増加であるとされています。国・地域による違いは大きいものの、全世界では男性の3人に1人、女性の4人に1人が生涯のいずれかの時点でがんにかかることになると言われており、最も身近な疾患の一つとなっています。*

シスメックスでは、遺伝子検査技術などを通じて、がんの早期発見・早期治療により患者さん一人ひとりのQOL（Quality Of Life）向上に貢献していきます。

* 出典：Global Burden of Cancer 2015

個別化医療の実現に向けた研究用ラボアッセイサービス^{※1}を展開

シスメックスは、遺伝子検査に関する研究用ラボアッセイサービスを展開しています。

2016年から開始した乳がん組織を解析して再発予測のための研究用データを提供する「Curebest™ 95GC Breastアッセイサービス」^{※2}は、契約施設数、受注件数ともに順調に増加しています。また、現在、血中の微量ながん由来DNAを検出できるBEAMing技術を活用したラボアッセイサービスの開始に向けて準備を行っています。

今後も研究用アッセイサービスの提供を通じて患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する「個別化医療」への貢献を目指します。



遺伝子検査に関わる受託アッセイサービス拠点「シスメックスIMPラボ」

※1 検体分析の受託サービス。

※2 乳がんの予後に関連する95個の遺伝子の発現量を測定する受託解析サービス。

身体的・経済的負担の少ない検査の普及

患者さんにとって検査や治療に伴う身体的および経済的負担は重くのしかかる課題となります。場合によっては、それを理由に検査や治療を受けられない、もしくは経済的負担を軽減する代わりに身体的負担が大きくなるといったジレンマに陥ることもあります。

こうした状況を変えるため、シスメックスグループでは、少しでも身体的・経済的負担の少ない検査方法を開発し普及させることで、一人でも多くの患者さんが検査を受けられるように努めています。

尿検査関連製品のラインアップを強化

患者さんへの身体的・経済的な負担が比較的少なく、さまざまな身体情報を調べられる尿検査は世界中で需要が増加しています。シスメックスは、2015年9月に、従来品よりも性能を向上させ、検査項目も拡大した全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000/4000/3000を発売しました。また、2016年1月には、全自動尿中有形成分撮像ユニット UD-10および、栄研化学株式会社と連携し、自社ブランドとしては初となる全自動尿化学分析装置 UC-3500（海外市場向け）を発売しました。これらの製品には、モジュラーコンセプトを採用し、製品を組み合わせることで多様な尿検査のニーズに対応できます。



全自動尿中有形成分撮像ユニット UD-10（左）
全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000（中）
全自動尿化学分析装置 UC-3500（右）

その他の製品・サービスのトピックス（2016年度ニュースリリースより）

- 転移性大腸がんの血中RAS遺伝子変異検査がCEマーク（欧州整合規格）を取得 ～臨床での運用開始～
- 当社の自動血液凝固測定装置が「第5回分析機器・科学機器遺産」に認定
- シスメックス、アステラス製薬および第一三共による血中循環がん細胞解析法構築に関する基本合意書締結について ～新たながんの診断の価値創出と医薬品研究活用に向けた共同研究に着手～
- 東京大学とがんおよび希少性疾患に関する共同研究契約を締結 ～ゲノム医療の臨床実用化を目指して～
- がん関連遺伝子パネル検査システムが厚生労働省の「先駆け審査指定制度」の対象品目に指定
- メディカロイドが広範囲の患者移動機能を有する手術台「SOT-100 Vercia ヴェルシア手術台」を発売

製品の普及等による医療アクセスの改善

世界には貧困問題や、医療環境・医療制度・医療供給システムの未整備などにより、適切な医療を受けることが困難な地域が存在します。

シスメックスグループは、より多くの人々が、より長く健康で豊かな生活を送れることを目指してヘルスケア領域での進化に挑戦し続けています。また医療アクセスの改善は、医療課題解決の重要なテーマの一つであると考えています。そのため、新興国・開発途上国での検査室の品質向上支援などによる医療水準の向上や、医療従事者への教育支援、より安価な製品開発への挑戦などを通じて、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、取り組みを進めています。

三大感染症への取り組み

三大感染症と呼ばれる、HIV/AIDS、結核、マラリアは、多数ある感染症の中でも世界規模で長期にわたり流行している感染症で、毎年約300万名もの命を奪います。近年、治療薬やワクチンの普及により、感染規模の縮小は進んでいます。経済的理由や社会的・文化的な背景により、貧しい方や社会的に弱い立場におかれた方にまで予防・治療の医療サービスが届いていないのが現状です。また、健康を害することは、労働力の減少や、労働生産性の低下、医療費の増大などにつながるため、経済成長にまで影響を及ぼします。*

シスメックスでは、これまで培ってきた臨床検査における検出技術を活かし、診療の判断材料に寄与する製品の開発を進めるとともに、産官学と連携した取り組みを推進することで、三大感染症の解決に貢献していきたいと考えています。

* 出典：グローバルファンド日本委員会／三大感染症を知る

マラリア撲滅に向けた取り組み

マラリアの検査は、重症化して死に至る熱帯熱マラリアと、それ以外のマラリアを鑑別することが診断および治療において非常に重要です。しかし現状の検査方法である顕微鏡検査では経験と熟練の技術が必要であり、マラリア種の鑑別・診断に時間がかかるため、簡便かつ迅速に鑑別・診断できる新しい技術の開発が求められています。

シスメックスは、既存の自動血球分析装置の技術を応用し、マラリア原虫などが感染した赤血球を約1分で測定する多項目自動血球分析装置 XN-30を開発しました。この装置では、マラリア原虫などが感染した赤血球数の定量値および感染しているマラリア原虫種などの情報などが簡単・迅速に提供されます。当製品は、現時点では研究用途のみの使用に限られていますが、装置の操作には顕微鏡検査などに必要な熟練の技術を必要としないため、将来的には基礎研究から臨床まで幅広い領域での活用が期待されます。

また、2014年より毎年開催されている、日本経済新聞社主催の「日経アジア感染症会議」に2016年より特別協賛するとともに、マラリア撲滅に向けた具体的なアクションプランの策定・実行を進めるマラリアワーキンググループに参画しています。当会議には、国内外より感染症対策に関連する行政機関・団体・学会・企業などが参加し、産官学一体となってマラリア撲滅を推進しています。

グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」への参画

シスメックスは、新興国や開発途上国における感染症の診断に寄与するため、マラリア、デング熱、HIV/AIDSなどの検査技術の創出・製品の開発に取り組んでいます。

また、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界」を活動のビジョンとする公益社団法人「グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）」に対し、2015年より3年間にわたり参画しています。2017年6月、日本発の技術革新による開発途上国の医療への貢献を目指して、2018年より5年間の参画継続が決まりました。



GHIT Fundの枠組み

現地の医療水準の向上を支援

シスメックスグループでは、アジアにおける医療インフラの整備や医療水準向上の一環として、中国、モンゴル、カンボジア、ミャンマー、タイ、フィリピンの6カ国の検査の質の向上支援を行ってきました。また、アフリカでは、ナミビア、ザンビア、ジンバブエにおける検査室の品質管理支援やケニアなどにおける移動検診車の寄贈を行っています。

▶ [活動ハイライト「全ての人が適切な医療を受けられる社会を目指して」](#)についてはこちらをご覧ください。

医療従事者への教育支援

医療アクセスの向上には、医療インフラの整備とともに、適切に訓練を受けた医療従事者の存在が不可欠です。シスメックスグループは、医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会の開催、最新の学術情報の発信などを実施しています。

▶ [カスタマーリレーション](#)についてはこちらをご覧ください。

iPS細胞の活用による安定的で安価な医療の普及

iPS細胞※1はさまざまな組織や臓器の細胞に分化するため、再生医療の実現において重要な役割を担うだけでなく、多方面での応用が期待されています。なかでも、ある一定の条件を満たしたドナー由来の細胞を用いる他家移植は、標準化された工程で計画的に生産を行うことにより、高品質、安定的かつ安価な供給が可能になると考えられています。

シスメックス、株式会社ヘリオスおよび大日本住友製薬株式会社は、ヘリオスおよび大日本住友製薬が国内で共同開発する加齢黄斑変性※2などの眼疾患を対象とした他家iPS細胞由来のRPE細胞※3を含有する再生医療等製品の移植前免疫反応検査に関して共同で研究開発を開始しました。シスメックスは、自社の保有技術を用いた移植前免疫反応検査法の開発を行います。検査で得られた結果は、患者さんの移植後における免疫抑制剤の投与回数や投与量の最適化に反映されることが期待されます。今後も信頼できる品質を確保しつつ、よりコストを抑えた最先端技術の実用化に取り組んでいきます。

※1 人工多能性幹細胞（induced pluripotent stem cell）の略。ヒトの皮膚の細胞などにいくつかの因子を導入することによって作製された、さまざまな組織や臓器の細胞に分化する能力を持った多能性幹細胞。

※2 物を見るときに重要な働きをする網膜の黄斑という組織が、加齢とともにダメージを受けて変化し、視力の低下を引き起こす病気。加齢黄斑変性には黄斑の組織が加齢とともに萎縮する「萎縮型」と、網膜のすぐ下に新しい血管（新生血管）ができて、この血管が黄斑にダメージを与える「滲出型」がある。

※3 網膜の最も外側の層を覆う組織を構成する細胞。メラニン色素を含み、網膜内に入る余分な光を吸収し、散乱を防ぐなどの機能を持つ。また、外側の脈絡膜と内側の網膜の間の物質の出入りを制御する閥門の役割も果たす。

責任ある製品・サービスの提供

課題認識

品質・リコール問題の多発により、製品・サービスの品質・安全性に対する社会からの要請は厳しさを増しています。また、近年、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体にまで拡大しています。

これらを背景に、企業は法令や規格を遵守し、製品・サービスの品質・安全を徹底するとともに、お客様満足度向上の取り組みや適切な情報開示、安定的な製品供給などを通じて、お客様と長期的な信頼関係を構築することが重要になっています。そのためには取引先と一体となり、お客様の信頼を得られるような責任ある製品・サービスを提供していくことが求められています。

シスメックスのアプローチ

シスメックスは、創業以来、お客様・取引先の皆様に安心をお届けすることを大切にしています。特に、人々の生命と健康に携わる医療業界で事業を展開する企業として、製品・サービスの確かな品質・安全性の確保や、適切な情報開示は非常に重要と考えています。

具体的には、グローバルでの品質マネジメントシステムを構築し、継続的な品質の維持・向上を図っています。また、きめ細かなサービス&サポート、お客様からの声を製品開発や品質改善に活用するしくみ（VOC：Voice of Customer）の活用、最新の学術情報の提供など、お客様満足度向上に向けた取り組みを行っています。さらに、グローバルに事業を展開する企業として、安定的に製品をお届けする体制を強化するとともに、CSRに配慮した調達活動を推進し、取引先とともに持続的に発展することを目指しています。

今後も責任ある製品・サービスの提供を通じてステークホルダーの皆様からの信頼を獲得し、安心をお届けしていきます。

品質・安全性の確保

品質・安全性に関する方針

シスメックスグループでは、「品質方針」「行動基準」および「シスメックスコーポレーション品質コンプライアンス方針」に基づき、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、活動しています。

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組みます。

2007年5月改定

品質マネジメント

グローバルな品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステムについては、グループ会社のうち全ての生産拠点とほぼ全ての開発拠点で国際規格ISO 9001またはISO 13485[※]に則ったマネジメントシステムを構築しています。グループ全65社中、ISO 9001は32社、ISO 13485は19社が品質マネジメント体制の強化を目的として認証を取得しています。これらのマネジメントシステムが確実に運用されていることを確認するために、主要なグループ会社の品質活動についてマネジメントレビューや品質監査を実施しています。

シスメックスグループ全体での品質情報の共有や、国内外グループ会社の品質関連部門の担当者が参加する「グローバルRAQA（レギュラトリーアフェアズ・クオリティアシュアランス）会議」を定期的を開催しています。



グローバルRAQA会議

※ 医療機器産業向けの品質マネジメントシステム規格。

継続的な改善プログラム

製品品質を維持・向上するためのしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスグループの製品は、人々の生命と健康を守る上で極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

製品の開発プロセスにおいては、市場に導入するまでに5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。また、シスメックスグループが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。このような取り組みに加えて、万一不具合などがあった際には、すぐにそれを把握し、対応できるような体制を整えています。

製造現場においては2016年度に、フローセルの部品製造工程にクリーンルームを導入し、作業環境のクリーン度が向上したことにより、品質歩留まりが向上しました。またサプライヤーの品質強化として、工程変更管理と工場監査の改善活動により、部品不適合率を前年度の半分以下に改善することができました。

さらにグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集し、不具合情報を入手した際は、直ちに原因を究明し不具合品の市場流出を防止しています。このような不具合情報や是正処置・予防処置はグローバルに共有し、製品品質の維持・向上に役立てています。

従業員へのトレーニング

専門的な品質教育に注力

全従業員を対象とした品質方針教育に加えて、特定の部門・職種を対象とした専門的な品質教育を実施しています。また、世界190以上の国や地域で製品・サービスを展開している企業として、開発部門の技術者に各国の法規制の教育を実施し、法規制に則った製品開発を徹底しています。

2016年度には、米国における医療機器の品質確保や安全性確保のための要求事項が定められた品質システム規制に関連する教育や、医療機器UDI規制に関する研修を実施しました。さらに、小野工場において、GMP（Good Manufacturing Practice：適正製造基準）組織責任者に向けたワークショップ形式の品質教育を実施し、事例に基づいた意見交換を行うことでさらなる品質意識の向上を図りました。



集合教育の様子

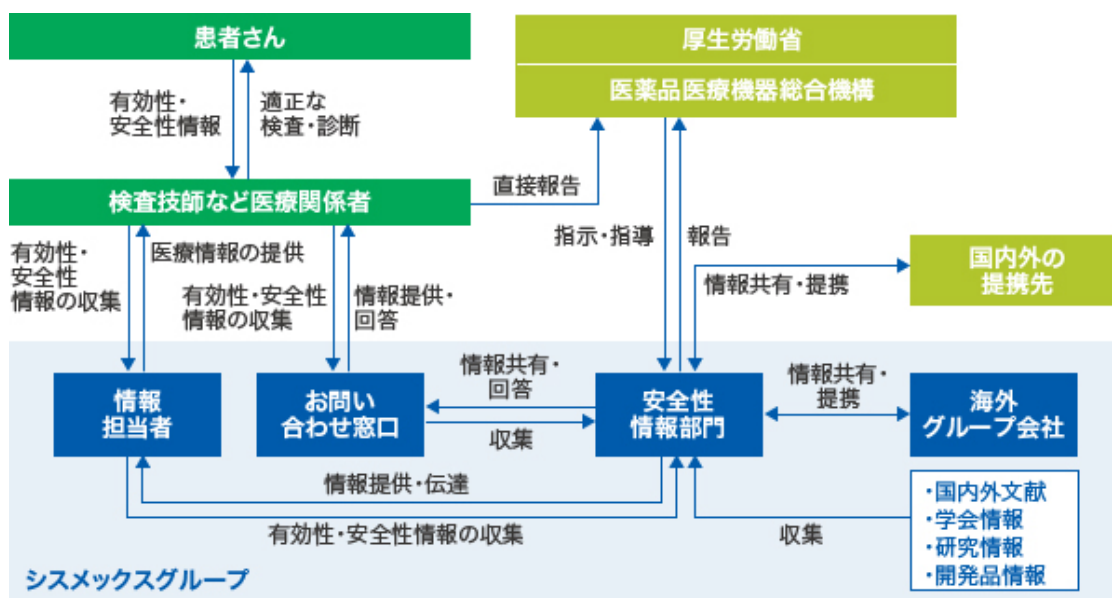
製品・サービスに関する適切な情報開示

品質・安全性に関する情報

お客様からの情報をグループ内で共有

シスメックスグループは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する安全性情報部門を設置しています。お客様などから寄せられた品質や安全性に関する情報を調査・分析し、その結果をお客様にお伝えするとともに、当社設計・製造部門などの関連部門と共有することで、品質改善や新製品開発などに活かしています。

製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



ウェブサイトで回収・改修の情報を開示

シスメックスグループでは、製品の回収・改修などの情報を当社ウェブサイト内「製品に関する重要なお知らせ」で開示しています。

▶ 製品に関する重要なお知らせについてはこちらをご覧ください。

模倣試薬の積極的な取り締まり

シスメックスグループでは、正確な検査結果を保証するために、医療機関のお客様には純正の機器と試薬のセットでご使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬の外観を模倣した試薬の流通が発見されています。これらの模倣試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が保証できず、場合によっては患者さんに健康被害をもたらす危険性があります。

このような模倣試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、模倣試薬を発見した場合は、現地の行政機関や司法機関を通じて徹底的に取り締まりを実施しています。また現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が模倣試薬を使用しないよう注意喚起しています。

サプライチェーンの評価・管理

行動基準

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

サプライチェーンマネジメント

サプライチェーンにおけるCSR調達の推進

シスメックスグループでは、取引先の選定や調達取引の基本的な考えを示す「調達方針」を制定し、これに沿ってバリューチェーンの構築を進めています。2013年度にはCSRに配慮した調達の推進を目指して本方針を改定し、ヘルスケア分野でグローバルに事業を展開する企業として「BCP（事業継続計画）体制の構築」「各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進」などの項目を追加しました。

また、シスメックスグループは「英国現代奴隷法」の対応を進めており、シスメックス UKのホームページに声明文を公開しています。

- ▶ [グリーン調達についてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [「英国現代奴隷法」の対応についてはこちらをご覧ください。](#)（シスメックス UKホームページ）

調達方針

シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」で定める「ヘルスケアの進化をデザインする」というMissionのもと、公平・公正を基本とした調達活動を行い、取引先の皆様に安心をお届けします。また相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業を目指します。我々は、法令や契約の遵守とともに高い倫理観のもと、ヘルスケア分野で事業展開する企業にふさわしい品質の部品・原材料の安定調達を行い、世界中のお客様に安心してご使用いただく製品をお届けできるよう、本方針に従い活動していきます。取引先の皆様には、下記7項目において、将来の価値の創造、改善につながる取り組みを期待しています。

お取引先様へのお願い

1. ヘルスケアにふさわしい品質
2. 継続的な供給体制の構築
3. ヘルスケアの発展に貢献できる技術力
4. 安定した経営基盤とBCP（事業継続計画）体制の構築
5. 各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進
6. 地球環境保全に向けた環境マネジメントの推進
7. 適正価格での供給と積極的な価格低減活動の実施

2014年3月改定

CSR調査を実施

取引先におけるCSR活動を確認するために、「安全で衛生的な職場環境の提供」「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」「国内外の公務員に対する贈賄禁止」「環境マネジメントの取り組み」などの項目を含むCSR調査を実施しています。2016年度は既存取引先約280社に対して実施しました。また、新規取引においては、CSRの取り組みに問題がある場合は取引を実施しないことを定めており、2016年度は新規取引先7社に対してCSR調査に加えて経営者との面談も行い、CSRへの取り組み状況を確認しました。また海外取引先については、児童労働の防止、安全で衛生的な職場環境の提供などの取り組み状況を、調達担当者が訪問して実際に確認しました。また、新たに取引先に対して、当社向け製品生産における紛争鉱物開示規制対象金属の使用の有無を確認しています。

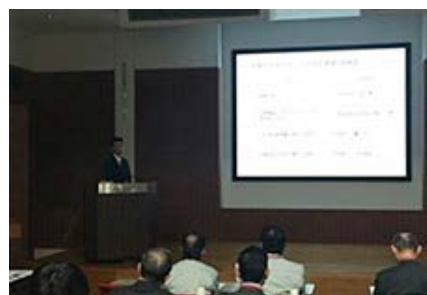
調達部品・原材料の品質向上に向けて

お客様に高品質の製品を安定的に提供するためには、調達原材料や部品の品質を維持・向上する必要があります。そこで、2009年度から、品質に関する要求事項を明示した品質保証協定書を作成し、その内容への理解を深めていただくための手引き書も準備した上で、取引先と契約を締結しています。

また、新規の取引先に対しては、もれなく品質監査を実施し、品質マネジメントシステムが適切に運用されていることを確認しています。既存の取引先に関しては、納入された部品の品質監視の結果、是正および予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

サプライチェーンでの連携

当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。2016年2月、3月、検査機器の部品のうち、シスメックス仕様の加工品を供給していただいている国内の取引先を対象に「サプライヤー説明会」を開催しました。説明会では、当社の品質管理部門から、調達方針に示す「ヘルスケアにふさわしい品質」をご提供いただくための基準を説明しました。



サプライヤー説明会

取引先への環境調査説明会を開催

2016年7月からの体外診断用医療機器（IVD）へのRoHS指令適用に対応するため、2016年1月に東京、神戸の2会場で計3回、取引先への環境調査説明会を開催しました。あわせて245社の取引先にご参加いただき、シスメックスの法規制への取り組みと環境対応の重要性について説明した上でRoHS指令適用への対応のご協力をお願いしました。



取引先への環境調査説明会

販売代理店にコンプライアンスに関する方針などを説明

シスメックスグループは、販売代理店と良きパートナーシップを維持するために、コンプライアンスの徹底に取り組んでいます。販売代理店との関係において、従業員が遵守すべきルールとして「優越的地位の濫用禁止」「過剰な接待・贈物の禁止」などを定め、これらを遵守しています。主要な販売代理店に対しては専任の担当者を配置し、定期的な会議などを通じて相互理解に努めています。

▶ [コンプライアンスの体制、取り組みについてはこちらをご覧ください。](#)

調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

電子調達システムを構築し、不当な代金減額や返品を防止するとともに、同システムに関する研修を毎年実施しています。

2016年度は、全調達部門員を対象として下請法に関する教育を実施するとともに、新規配属者を対象として「調達方針」「CSR」「グリーン調達」「調達リスク」に関する教育を実施しました。また、製造部門の社員や研究開発資材の注文を依頼する立場にある開発部門の新規配属者に対しても、注文依頼から検収までの注意点に関する教育と、下請法に関する教育を実施しました。

カスタマーリレーション

お客様満足度の向上

国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックスグループでは、世界各地においてお客様に接するさまざまな機会を捉え、満足度調査を実施しています。いただいたご意見・ご要望は各部門にフィードバックし、製品・サービスの改善などに役立てています。

2016年度に実施したお客様満足度調査（国内事例）

対象	カスタマートレーニング参加者
回答者数	294名
カスタマートレーニングに対する満足度	98.3%

対象	日本医学検査学界併設展示会における当社ブース来場者
回答者数	1,204名
満足度	98.3% (2015年度比1.1ポイント向上)

海外事例（米州地域）：教育支援サイト開設によるお客様満足度向上

シスメックス アメリカでは、長年にわたりお客様へのサポート充実に努めてきました。2016年2月には、医療従事者を対象とした教育支援サイトを開設し、患者さんの診断や治療に役立つ最新の臨床情報を提供しています。

このような取り組みが評価され、血球分析装置メーカーを対象としたお客様満足度調査「IMV Service Track」（IMV社主催）で17年連続No.1を獲得しています。

▶ 過去3年間の実績は「2016年度実績データ」をご覧ください。

17年連続で
お客様満足度 **No.1**



医療従事者を対象とした教育支援サイト
「Clinical Education for Clinicians」

海外事例（中国地域）：お客様満足度向上に向けた取り組み

シスメックス 上海では2016年度に中国全土でお客様満足度調査を実施しました。2,000名以上のお客様にご参加いただき、アフターサービスの質や迅速な対応など複数のカテゴリーにおいて高い評価をいただきました。また、定期的なメンテナンスと学術サポートに対する期待が高いこともわかりました。この調査結果を受け、さらなるお客様満足度向上に取り組んでいきます。

また2016年3月には、第三者機関による「2015年 中国医療機器 機器データおよびアフターセールスサービス調査」※において第2位を獲得しました。

※ 「2015年 中国医療機器 機器データおよびアフターセールスサービス調査」は、中国医療機器雑誌、人民医学出版社、中国医学会医用工学分会、中国医師会臨床工学士分会、中国生物医工学会臨床分会、人民医療出版健康ニュースの6団体によって実施されました。



シスメックス上海のお客様サポートセンター



2015年 中国医療機器 機器データおよびアフターセールスサービス調査

サービス&サポート

お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

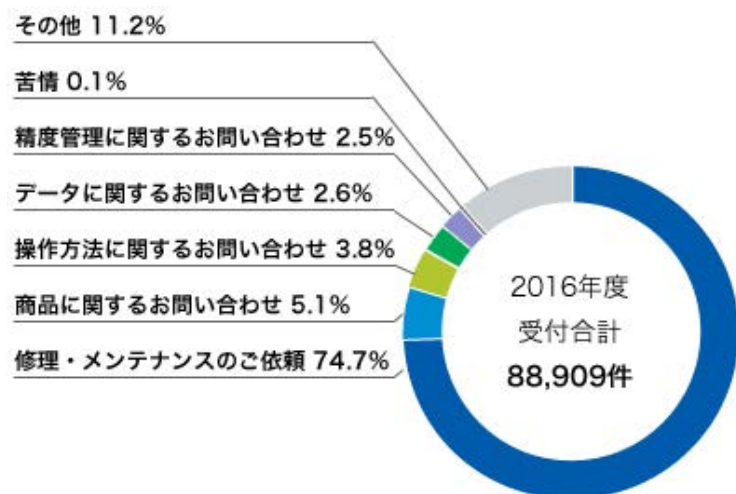
シスメックスでは、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、365日24時間体制（別途契約が必要）でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

また、相談窓口などを通じて収集したご要望は、VOC（Voice of Customer：お客様の声）チームが集約し、さまざまな角度から分析した後、関係部門へフィードバックされ、新たな製品開発や業務改善に活用されています。2016年度には、国内市場から約16,000件のお客様の声を収集しました。お客様の声から生まれた新たな機能や装備を搭載した装置は、製品カタログにはVOCマークを記載しており、高い評価をいただいています。



Voice of Customer = お客様からのご意見・ご要望を製品開発に活かす取り組み。
日本国内で主要な機器・試業の、研究開発から製造、販売、サービス&サポートまでを一貫して提供するシスメックスならではの取り組みです。

カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容の内訳



カスタマーサポートセンターでの
お問い合わせ対応

▶ 過去3年間の実績は「2016年度実績データ」をご覧ください。

ネットワークを活用したお客様サポート

病院などの医療機関では、毎日の検査データの信頼性を確保するために検査装置・試薬の精度を日々管理しています。一般に「コントロール物質」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を参考値ならびに日々の測定結果と比較することによって、検査装置・試薬の状態をチェックします。シスメックスグループは、あらゆる分野のコントロール物質を提供してお客様の精度管理をサポートしています。さらに、お客様の元にある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶSNCS（Sysmex Network Communication Systems）を構築しています。カスタマーサポートセンターでは、このSNCSを通じてお客様の検査装置から送られてくるコントロール物質の測定結果を受信し、測定結果の集計や比較を行い、データ異常の予兆を察知・判定して結果を返信するサービスを提供しています。これに加えて、SNCSを通じてお客様と双方向コミュニケーションが可能なりモートサービスによって、データ処理画面の共有や、ウェブカメラで装置の状態確認などを実施しています。



カスタマーサポートセンター

また、動作回数やメンテナンス時期、ログ情報や温度情報など、装置各部のセンサー情報をベースに、トラブル発生を予防するサービスも提供しています。

お客様に役立つ情報の発信

お客様サポートの一環として、当社ウェブサイト「サポートインフォメーション」で情報を発信しています。

当社製品をご利用いただく上で役立つ学術的・技術的な情報に加え、日々のメンテナンスや装置のエラーメッセージに関する対処方法などをわかりやすい動画※でご提供しています。

また、最新情報をお伝えするメルマガ配信サービス、コンテンツや閲覧履歴などを管理できるマイページ機能など、お客様によりご利用いただけるよう、継続的に機能の充実を図っています。



ウェブサイト「サポートインフォメーション」

※一部動画の閲覧はSNCS（Sysmex Network Communication Systems）加入施設メンバーに限ります。

サービス&サポートグローバルミーティングを開催

サービス&サポートにおける課題や考え方をグローバルで共有することを目的として、前年度に引き続き「サービス&サポートグローバルミーティング」を2016年10月に開催しました。

海外統括現地法人を含む9地域から、実務責任者37名が参加し、学術セッションと技術セッションに分かれて専門的な立場から活発な議論を行いました。学術セッションでは、各地域の最新の学術動向の共有や、当社製品の臨床価値を学術的な観点から多角的に検討し、お客様にいかに訴求していくかについてディスカッションを行いました。また、技術セッションでは、新製品の市場導入時期に焦点をあて、サービストレーニングのあり方や研修資料などに関する要望をテーマに、ワークショップ形式で議論しました。今後も地域を越えた密接なコミュニケーションを続け、グループ全体でサービス&サポートの質の向上を図っていきます。



ミーティングの様子

臨床検査の質を向上するため、ISOを活用

近年、臨床検査分野において検査結果の質の向上が強く求められており、世界的に国際規格への関心が高まっています。その一つとして、「ISO 15189（臨床検査室-品質と能力に関する要求事項）」を取得する臨床検査室も増加しており、すでに認定取得が義務化されている国もあります。

シスメックスグループは、臨床検査の校正機関に対する国際規格ISO/IEC 17025およびISO 15195の認定を取得しており、シスメックスグループが提供している自動血球分析装置に対する校正サービスの品質は、国際的な基準で担保できていることが証明されています。また、この分野での認定取得は国内では初となります。

お客様はISO 15189が要求する校正を実施していることを証明するために、シスメックスグループが発行する校正証明書をグローバルに認められた認証書として利用することができます。2016年末時点で、シスメックスグループは延べ1,750台以上の装置に対して認証書を発行しました。

また、外部精度管理サービスであるSNCS/eQAPI^{※1}は全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043^{※2}「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の認定を取得しました。

※1 大規模なリアルタイム外部精度管理サービス。リアルタイムに測定データの判定結果が得られ、日常検査の精度向上に役立てられる。

※2 「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の国際規格。

	ISO/IEC 17025 試験所及び校正機関の能力に対する国際規格	ISO/IEC 15195 臨床検査の基準測定検査室に対する国際規格	ISO/IEC 17043 適合性評価-技能試験に対する国際規格
機関名称	シスメックス株式会社 基準測定検査室	シスメックス株式会社 基準測定検査室	シスメックス株式会社 精度管理センター
認定日	2014年2月14日	2015年3月17日	2014年2月12日
認定番号	RNL00440	PTP00010	PTP00010
認定範囲	M19 物質量（赤血球数、白血球数、血小板数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度）	M51 臨床検査（一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、その他の検査）	M51 臨床検査（一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、その他の検査）
備考	血球計測分野において国内初の認定取得	血球計測分野において国内初の認定取得	全産業分野において国内初の認定取得

海外事例（EMEA※地域）：販売代理店や従業員に対する教育を実施

精度の高い検査を実現するためには、適切な技術や学術知識を身につける必要があります。EMEAの統括現地法人シスメックス ヨーロッパでは、主に販売代理店や従業員に対する教育を実施する組織「シスメックスアカデミー」を設置しています。また、EMEAの各地に「トレーニングセンター」を設置し、シスメックスアカデミーがこれらを統括することで、同様の教育を行える体制を整えています。



シスメックスアカデミーでの教育風景

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

- ▶ [新興国・開発途上国の検査の質向上をサポートについてはこちらをご覧ください。](#)

学術活動

シスメックスグループは、日本をはじめとするアジア各国の医療従事者などを対象に最新の医学情報を提供するためのセミナーを開催するとともに、各国の保健省をはじめとした国家機関や主要学会とともに、医療水準の向上を図るための学術活動を展開しています。

医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスグループは、医師や臨床検査技師などの医療従事者の方を対象としたセミナーや勉強会を開催し、学術情報を発信しています。

2016年6月には、日本およびアジアの医療従事者の方々（医師、臨床検査技師など）を対象とした学術セミナーを開催し、約1,000名の方々にご参加いただきました。「疾患のルーツを探る ～Preclinical stage～」をテーマとし、臨床の基礎から応用に至るまで、現場に役立つ最新の情報を提供しました。



第39回学術セミナー（日本）

また2016年10月にはミャンマー・ヤンゴンにて「Sysmex Scientific Seminar」を開催しました。尿・凝固検査に関する最新の情報を提供し、臨床医をはじめ約170名の方々にご参加いただきました。さらに2016年11月には中国・上海にて「第19回シスメックス中国学術セミナー」を開催し、第一線で活躍されている先生方より臨床検査の最新動向に関する情報を提供し、中国全土から約1,500名の方々にご参加いただきました。

医療従事者向けの学術セミナー開催の一覧

時期	国・地域	テーマ	参加人数
2016年6月	日本およびアジア	「疾患のルーツを探る ～Preclinical stage～」	計約1,000名
2016年10月	ミャンマー（ヤンゴン）	尿・凝固検査に関する最新の情報	約170名
2016年11月	中国（上海）	臨床検査の最新動向	約1,500名

海外事例（アジア・パシフィック地域）：臨床検査の質向上のための支援活動を実施

アジアの新興国・開発途上国の政府や学会とともに、外部精度管理などによる検査の標準化支援を行っています。2016年度は、モンゴル、タイ、フィリピン、カンボジアにおいて外部精度管理を実施し、またミャンマーにおいては学術支援に関する契約を締結しました。これらの取り組みを通して各国の臨床検査の質向上に貢献していきます。

▶ 活動ハイライトについてはこちらをご覧ください。

海外事例（中国地域）：中国検査医学専門書の執筆に協力

中国検査医学の専門書「臨床検査装備大全」（中国語）が2016年6月に出版され、当社薬事部は第1巻「標準と法規」の執筆に協力しました。本書は700名以上の専門家が携わり、3年をかけて作成されました。基礎理論、検査技術、臨床適用、品質管理、最新進捗、標準指針などの多方面をカバーし、実用性・先見性を両立した専門書であると学会からも高く評価されています。



臨床検査装備大全

安定供給

安定供給体制の確立

シスメックスはヘルスケアメーカーとして、確かな品質の機器やサービスを安定的に供給することが重要な使命であると考えています。この使命を果たすため、原材料の調達から製品出荷時の最終検査に至る全ての工程での品質管理を徹底しています。

また、当社は機器生産工場では国内4拠点（アイスクエア、加古川工場、シスメックスRA、シスメックスメディカ）、海外1拠点（シスメックスパルテック）、試薬生産工場では国内2拠点（小野工場、西神工場）、海外8拠点（シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスヨーロッパ、済南シスメックス、シスメックス無錫、シスメックスブラジル、シスメックスフランス、シスメックスアジア・パシフィック、シスメックスインド）を基盤とし、お客様のニーズにあった供給体制を構築しています。さらに、調達についても複数の取引先を採用することで、コスト効率化などに取り組むと同時に、バックアップ体制にも積極的に取り組んでいます。

災害時に備えた対応（BCP）

世界では、災害による多数の死者、経済被害が毎年のように発生しており、過去30年間（1984年～2013年）で247万名以上の命が奪われるとともに、2兆4千億ドル以上の被害額が発生しています[※]。アジアにおいても地震などの大規模な自然災害が多発しており、災害に対する予防や災害発生時の迅速な対応が求められています。

災害時に備えた対応として、試薬製品に関しては、海外生産の強化や主要原材料購買先の複数化によるリスク分散を進めるとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築を進め、輸送ルートについても代替ルートを確保しています。また、製品供給に対するBCP社内マニュアルの整備と、模擬訓練を実施しています。

2016年4月に発生した熊本地震では、地震発生直後に製品供給対策本部を設置し、全サプライヤーの状況把握と製品供給への影響範囲の特定を迅速に行い、代替品の選定など迅速な対応の結果、生産計画への影響を回避することができました。

※ 出典：内閣府「日本の災害対策」

▶ [災害対策についてはこちらをご覧ください。](#)

需要拡大への対応

グローバルな需要拡大に備え、工場の新設や設備拡充を推進

シスメックスグループでは、検査機器に関して、製品ごと・拠点ごとに適正在庫を設定し、これを市場の近くに置くとともに、現地法人などと連携して需要の状況を的確に把握することで、グローバルな需要変動に迅速に対応し、常に安定した供給ができるようにしています。

また、さらなる需要拡大に備え、工場の新設や設備拡充を進めています。現在拡張工事中のアメリカの試薬工場は2017年度中に本稼働を開始する予定であり、従来の約1.8倍の生産能力に拡大されます。その他、シスメックスアジア・パシフィックに域内物流ハブ機能を備え、より一層の安定供給を図ります。

今後も、グローバルな需要拡大に対し、生産改革や物流の改善を重ね、安定した製品供給を実現していきます。

魅力ある職場の実現

課題認識

企業が持続的に成長するためには、ダイバーシティの推進と、働きやすく、働きがいのある魅力ある職場づくりに積極的に取り組むことが重要とされています。また、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、ジェンダーの平等や、働きがい、不平等の是正などの目標が掲げられています。これらを背景に、ワークライフバランスの推進など、多様な人材が能力を発揮し活躍できる職場づくりや、計画的・継続的な人材育成が企業に求められています。

シスマックスのアプローチ

シスマックスは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つと捉え、多様な人材の獲得や活用を進めています。

具体的には、人材開発体系を用いた継続的・計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、各種制度の導入などを通じて、多様な人材が安心して能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。

今後も、持続的な成長の実現に向けて、多様な人材が能力を最大に発揮できる職場づくりを進めるとともに、個々の成長の機会を提供していきます。

働きやすい職場環境の確保

公正な評価・処遇

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックスは自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会を提供するとともに、公正な処遇に努めています。職掌・資格等級に応じた適切な処遇を実施しており、性別による基本給与の差はありません。

公正な処遇のベースとなる評価については、「企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いる」という考え方にに基づき、成果のみの評価ではなく、成果発揮に至るプロセスの評価（コンピテンシー評価）も行っています。また、公平かつ納得性のある人事評価を目指し、評価結果、上司コメントを各個人に開示しています。

人材マネジメントシステムの考え方

1. 長期的な雇用を実現するために

- 多様な人材が安心して能力を発揮できる複線型の資格等級フレームを整備し、自己実現と成長の機会を提供

2. 多様な人材の能力開発・育成を推進するために

- コンピテンシーを基軸とする資格等級基準を設定し、昇格基準の明確化による人材育成と昇格運用の適正化を促進
- 成果のみではなく、成果発揮に至るプロセス（発揮能力）を評価し、人材育成と企業風土の変革を促進

3. 企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いるために

- 評価と報酬の関係をシンプルにし、誰にでも分かりやすい制度
- 仕事の貢献度・役割・発揮能力（コンピテンシー）および成果に連動したメリハリのある報酬体系

社員のキャリア設計をサポート

シスメックスでは、全社員を対象とした「自己申告制度」を運用しています。この制度では、毎年個々の社員へのヒアリングを行い、中長期のキャリアや海外勤務、職種についての希望などを聞き取っています。これによって、一人ひとりに自己のキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を持ってもらうとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。

2016年度のヒアリングでは、90.3%の社員から申告がありました。

契約社員・派遣社員などの登用・待遇改善

シスメックスは、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期限が限られている有期雇用者に対して公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、イントラネットなどで周知徹底を図っています。また、派遣社員に対しては、個別契約を更新する際、一定の条件を満たしている対象者に直接雇用への切り替えを検討してもらうよう派遣会社へ案内しています。このような取り組みに加えて、契約社員やパート社員が業務管理の改善について気軽に相談できるような専用窓口を設けており、契約書にもその旨を明記しています。これらの取り組みを継続的に実施してきた結果、2016年度には、契約社員・派遣社員あわせて11名を正社員として登用しました。

2016年6月には、派遣社員管理システムを導入し、契約締結や勤怠管理をシステム化しました。抵触日や勤怠の管理が徹底できることにより、コンプライアンスがより強化され、また、就業開始時や契約更新時の諸手続きのペーパーレス化に伴い効率化が図られました。導入にあたっては、部門の責任者および派遣社員の指揮命令者を対象とした改正労働者派遣法の研修もあわせて実施し、派遣社員との業務遂行におけるルールや、契約上の禁止事項などについて周知徹底を図りました。

また、働きやすい環境づくりを目的として、正社員に対し導入していたフレックスタイム制の適用対象者を契約社員にも拡大しました。これにより、通院や子育てなど、個々の事情に応じて従業員が自主的に就業時間を設定し効率的に業務を遂行しています。今後も適宜、制度などの見直しを実施し、従業員の待遇をより良いものにしていきます。

▶ 過去3年間の実績は「2016年度実績データ」をご覧ください。

モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスグループは2011年度から、グループで最も貢献した個人および組織・グループをたたえる表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、1年に1度、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出して、その功績をたたえ、全社で共有しています。

また、シスメックスでは、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とし、「特許大賞・優秀特許賞」「パテントマイスター」「出願記念賞」の3つの「特許表彰制度」を導入しています。さらに、品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」も設けています。

海外事例: 各海外統括現地法人の人事制度

米州、EMEA※、中国、アジア・パシフィックの各海外統括現地法人においては、各地域の法律、文化に対応した人事制度を整備しています。

評価については、基本的に目標管理制度による評価を実施しています。また、米州とEMEA、アジア・パシフィックでは、一部、コンピテンシー評価も実施しています。人材育成については、タレントマネジメント教育、階層別教育のほか、日本のシスメックスとの従業員交換プログラムも実施し、グローバルな人材交流・人材育成を推進しています。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

従業員満足度向上に向けた取り組み

シスメックスグループでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。その中で従業員満足度についても調査を行っています。調査結果は各部門にフィードバックし、満足度向上に取り組んでいます。調査のスコアが伸び悩んだ部門に対しては、人事部門のメンバーが訪問して改善のためのアドバイスなどを実施しています。部門に対してだけでなく、個人に対しても人事部門のメンバーがインタビューを行い、風土改革に向けた課題の特定と改善策の検討を図っています。

また、日本人とは異なる感性や文化的背景を持った外国人従業員からの要望をヒアリングする場を設け、職場環境の改善に努めています。例えば、社員食堂でのベジタリアン向けメニューの導入や社内掲示物の英語化は、外国人従業員の要望で実現したものです。従業員満足度の向上は、シスメックスの重要な課題の一つであり、今後も取り組みを加速させていきます。

海外シスメックスグループにおいても、それぞれ従業員満足度調査を実施し、満足度向上のための取り組みを実施しています。

従業員関連データ

▶ [従業員関連データについてはこちらをご覧ください。](#)

人材の育成

人材育成

グローバルでの人材育成の推進

グローバルに事業を展開するシスメックスのグループ従業員は7,930名（2017年3月末時点）になり、海外従業員比率は55%を超えています。このような状況において、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践し、世界中の人々に安心をお届けしていくためには、個々の人材の能力向上はもちろんのこと、多様な人材同士がコミュニケーションを通じて、互いに価値観を共有し、気づきを得ることで、新たな価値や文化を探求・創造していくことが重要であると考えています。

そこで、シスメックスグループは2014年度にグループ共通の人材開発体系「グローバル人材開発体系」を制定し、「グループ一体感の強化」「次世代人材の育成」「グループ間ネットワークの強化、異文化理解」を狙いとした取り組みを推進しています。

4つのコンセプトに基づく人材育成

シスメックスは人材育成の4つのコンセプトに基づき、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。2016年度の1人当たり平均研修時間は19.4時間、平均研修費用は108,000円※となっています。また、2015年4月には、多様な文化や価値観を持つ人々が集い、日常業務や立場を離れて議論を深め、ネットワークを広げる場として、兵庫県芦屋市に「グローバル コミュニケーション センター」を開設しました。用途に応じてフレキシブルにレイアウトできるディスカッションエリアや、車座になって語り合うオープンスペースなどを設置しています。新入社員研修をはじめ人材開発体系に基づく各種研修や、グローバルベースの部門横断型の勉強会・合宿などに活用することはもちろん、社内外のさまざまな価値観を持つ人々が集い、コミュニケーションを図る場としても利用しています。



新入社員研修

※ 人事部門が提供する研修対象とし、自己啓発および実地研修など業務の一部に該当するものは除く。

▶ 過去3年間の実績は「[2016年度実績データ](#)」をご覧ください。

人材育成の4つのコンセプト

1. 研修と評価と仕事（成果発揮）を接続
2. シスメックスグループのグローバル化の促進
3. 継続的な人材開発投資
4. 人を育て、人が育つ会社

研修体系の3つの軸

研修区分	目的
選抜型研修	<ul style="list-style-type: none"> グローバルリーダーの育成 将来的な経営人材の育成
階層型研修	<ul style="list-style-type: none"> 階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決等の知識・スキルの習得 部門間コミュニケーションの促進
自律選択型研修 (Sysmex College)	<ul style="list-style-type: none"> 業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキル ビジネス・マネジメント各種知識

グローバル コミュニケーション センターの概要

所在地:	兵庫県芦屋市
敷地面積:	33,399m ²
総床面積:	2,914m ²
施設内容:	研修室、会議室、コラボレーションスペース、シアタールーム、宿泊室、カフェテリア など



グローバル コミュニケーション センター
(シアタールーム)

グローバル人材の育成・交流の推進

シスメックスグループでは、2012年度から、日本と海外グループの従業員同士の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る「グローバル人材交流プログラム」を実施しています。

2016年度は、11月に米州、EMEA、アジア・パシフィック、中国の11カ国から従業員20名が参加する研修を行い、神戸本社でのSysmex Wayセッションや経営層とのディスカッション、インターンシップ、お客様訪問などの交流プログラムを通じて日本文化やシスメックスの各機能の理解を深めました。2016年6月、9月、12月には、日本の社員が、シスメックス アメリカおよびシスメックス アジア・パシフィック、シスメックス ヨーロッパをそれぞれ訪問し、施設見学やお客様訪問、インターンシップ、現地従業員との意見交換などを通して、海外統括現地法人の機能やオペレーションを学び、異文化理解を深めました。

さらに、海外グループ会社へ若手社員を派遣し、実務経験を積ませる「グローバル アプレンティス プログラム」を実施しています。

このプログラムでは、明確な課題意識を持ち、グローバルでの活躍を希望する社員を公募し、早期に海外業務経験の機会を提供することによって将来のグローバル人材を育成しています。また、帰国した社員が報告会を開き、現地の課題や状況などを伝える手段としても役立っています。2016年度末までに、累計35名がこのプログラムを利用しました。



異文化体験研修



業務体験を通じた他地域従業員との交流

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

製造工程で作業する従業員の技術力向上

製造工程で作業する従業員の技術力向上は重要な課題です。シスメックスの機器製品の製造に関わる知識・技能を習得するための訓練施設「ものづくりトレーニングセンター」では、1年を通じて技術力向上を目的とした研修を実施しています。

2016年度には、製造工程で作業する従業員がより早く正しい知識・技能を習得できるように、教育の内容を作業ごとに細分化しました。受講者は699名となっています。



ものづくりトレーニングセンターでの研修

研究開発者の成長を促す「R&D革新活動」

シスメックスでは、2013年9月から「R&D革新活動」を開始し、研究開発者のチーム力や提案力の強化を図っています。

この活動は、個々の成長だけではなく、高い技術力・実行力を備えた「目標・結果にこだわり、役割を主体的に考える自律的なR&D組織」を目指し、「人」に焦点を当てています。

管理職層、リーダー層、担当者が相互に助け合い、そして自分の役割を認識する仕掛けづくりをしています。上半期末・下半期末などの節目には、研究テーマごとにチームや研究開発者個々の成果を報告する交流会や成果発表会を開催し、お互いの成長を確認しあっています。活動当初から参画している部門では、当初のリーダーから学んだことが次世代のリーダーに引き継がれ、R&D革新活動はさらに強化されています。



成果発表会

海外事例（EMEA地域）：従業員の成長を積極的に支援

シスメックス ヨーロッパでは、従業員の専門スキル向上や自己研鑽のほか、語学学習プログラム（日本語・英語）なども用意し、全従業員を対象として定期的な研修を行っています。

「シスメックス・アカデミー」で製品関連の研修を実施しているほか、対面講座とeラーニングの選択式でチームビルディングやリーダーシップ、語学力などのソフトスキル向上を図ることができる「HRアカデミー」も用意しています。その他、オンボーディング・トレーニング[※]なども実施し、従業員の成長をサポートしています。



研修風景

[※] 新たに採用した人材を迅速に組織になじませることを目的とした社内トレーニング手法の一つ。

海外事例（アジア・パシフィック地域）：従業員の技能向上に注力

シスメックス アジア・パシフィックは、外部機関の協力を得て、全従業員が利用できるオンライントレーニング「Sysmex University」を運用し、eラーニングのプログラムなどを設けています。また、従業員の能力開発プログラムや、互いに技能向上を促すクロストレーニングなどの制度も導入し、従業員の能力開発を促進しています。

このような制度を整えるとともに、従業員全員について個々の成長へのプランを策定し、年に1度、その進捗状況を確認しています。

ダイバーシティの推進

多様な人材の確保

多様な人材を受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」

シスメックスは、多様な人材が在籍する「ダイバーシティ」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し、受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指し、国籍・人種・性別・障がいの有無にかかわらず人材を登用し、適材適所の配置を実施しています。そして、多様な価値観、考え、経験、能力のシナジー効果により、次なるイノベーションの創出と価値の創造につなげています。

就職機会の均等化を目指して

シスメックスでは、国籍・人種・性別・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。具体的には、就職が不利な状況に置かれている既卒学生や海外留学生などに対する就職機会の均等を図るために、いつでも応募できる通年採用を実施しています。

また、世界中のどこからでも応募できるよう、海外での現地説明会や面接に加え、インターネットを通じたウェブ説明会やウェブ面接も実施しています。2016年度も前年度に引き続きインターンシップ受け入れを実施し、海外の人材に当社を知ってもらうための施策を強化してきました。このような活動の結果、2016年度の新卒採用者外国人比率は13.8%※となりました。

※ 女子陸上競技部員を除く。

障がい者雇用を推進

シスメックスでは、障がい者雇用を進めています。それぞれの適性や能力を活かして、長期的に活躍できる雇用形態で就業しており、2016年度の障がい者雇用率は1.94%でした。

また、さらなる障がい者雇用促進のため、2017年4月、地域共生社会の実現に向けた新会社「シスメックスハーモニー株式会社」を兵庫県神戸市に設立しました。

その他、オストメイト（人工肛門・人工膀胱保有者向けのトイレ）などのバリアフリー設備の導入や、月に1回安全衛生委員が実施する職場巡視の中で、車椅子が通行しやすいように整理されているかを確認するなど、障がいを持つ従業員が働きやすい職場環境の整備にも継続的に取り組んでいます。

▶ 「シスメックスハーモニー株式会社」の詳細は活動ハイライトをご覧ください。

高齢者雇用－定年退職者再雇用制度

シスメックスでは定年を60歳とし、高齢者雇用を推進するための制度として65歳までの定年退職者再雇用制度を運用しています。2016年度は、定年退職者のうち、社内ルールに基づいて22名を再雇用しました。また、フレックスタイム制度の適用を開始し、勤務形態の多様化へ対応しました。

女性活躍推進

シスメックスでは、女性の活躍を支援する取り組みの一環として、女性リーダーの育成に取り組んでいます。これまで仕事と育児の両立支援のため、社内託児所やさまざまな休暇制度を設けてきた結果、シスメックスの女性社員比率は2005年度19.9%から2016年度28.8%まで向上しました※1。女性管理職比率※2も2005年度2.4%から2016年度8.8%まで向上し、2016年度のグループ全体の女性管理職比率は16.2%となりました。

2016年4月の女性活躍推進法施行に伴い、今後さらなる女性活躍を推進し、多様な人材が働きやすい環境を整備し、「ダイバーシティ&インクルージョン」の実現を目指します。

※1 就業者数でカウント。（前年度は在籍者数カウントで報告していたため、実績数値を更新しています。）

※2 課長級以上の者。

女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」の最高位を取得

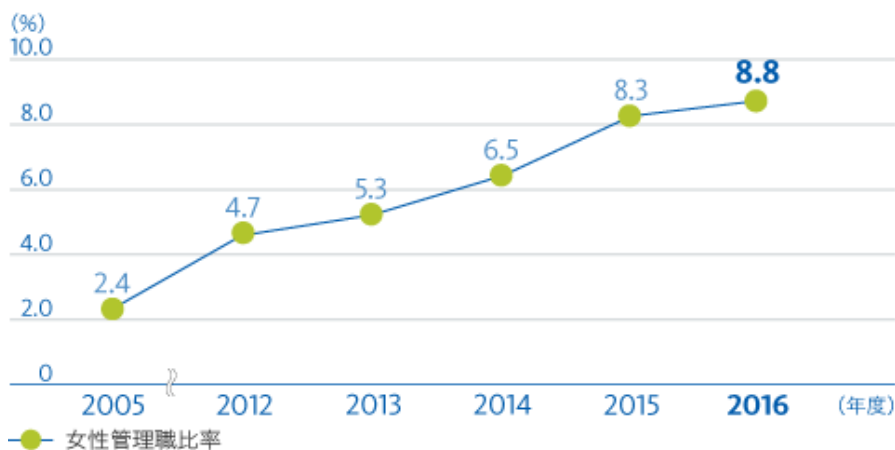
シスメックスでは、これまでも従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境の整備を行ってきました。2016年には厚生労働省が女性活躍に関して定めた5つの基準を全て満たしたことにより、優れた取り組みを行う企業に与えられる「えるぼし」の最高位である「3段階目」を取得しました。

- ▶ 女性活躍推進行動計画および「えるぼし」取得に関する詳細については活動ハイライトをご覧ください。
- ▶ 女性活躍推進法（厚生労働省）



女性活躍推進法に基づく
優良企業認定マーク
「えるぼし」

女性管理職比率（シスメックス）



女性社員比率※（シスメックス）



※ 就業者数でカウント。（前年度は在籍者数カウントで報告していたため、実績数値を更新しています。）

ダイバーシティラウンドテーブル

人生のさまざまな段階において、能力を発揮し、いきいきと働き続けるために必要なキャリアに対する動機付けや、多様な働き方を考える機会を提供するため、ダイバーシティラウンドテーブルを実施しました。

▶ 詳細は活動ハイライト「多様性を尊重しイノベーションの創出につなげる」をご覧ください。

海外事例（米州地域）：アフーマティブアクションプログラムの策定・実行

シスメックス アメリカでは、多様性の実現に向けて、「アフーマティブアクションプログラム（差別撤廃プログラム）」を策定し、実行しています。

仕事と育児の両立支援制度

さまざまな休暇制度や社内託児所で育児を支援

シスメックスは、出産前から育児までに対応した多様な制度を制定しています。不妊治療や出産前のつわりに対しての休暇制度をはじめ、出産後は子どもが2歳になるまでの育児休業や中学就業前までの勤務時間短縮制度、職種別のフレックスタイム制度が利用できます。さらに、子どもの看護のために会社を休む際、法定休業以外に積立有給休暇を半日単位で利用できる制度を導入しています。

また、男性社員の育児参加ニーズにあわせ、配偶者出産時の特別休暇を出産の前後1カ月以内に2日取得できるようにし、出産準備にも参加できるよう配慮しています。また「育み休暇」として子どもが1歳になるまでの間は育児を理由に連続3日間の特別休暇を設けています。

研究開発拠点「テクノパーク」内には、従業員から乳幼児を預かる社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置し、常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。



社内託児所「シスメックスキッズパーク」

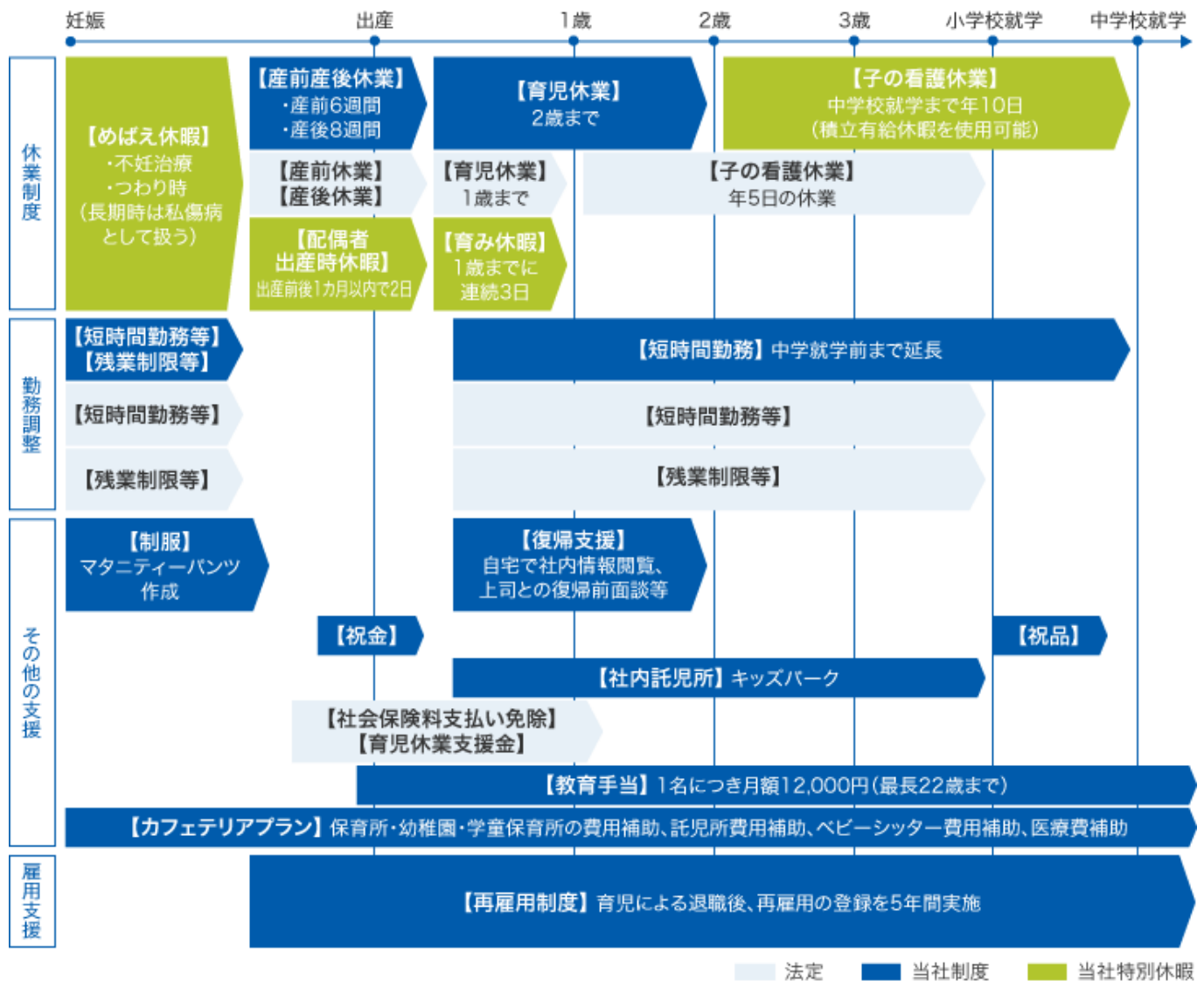
さらに、育児を理由にキャリアを中断した社員に再び働く機会を与える再雇用制度も設けています。これらの制度を計画的に整備してきたことが認められ、厚生労働省から次世代認定マーク（愛称「くるみん」※）を取得しています。

※ 次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定められた目標を達成し、一定の基準を満たした企業が「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定（くるみん）を受けることができます。



次世代認定マーク「くるみん」

育児関連制度



主な育児関連制度の利用状況（2016年度）

制度	概要	人数
育児のための勤務時間短縮制度	子どもが小学校6年生を終えるまで利用可能。 （法定: 子どもが3歳未満）	利用者47名※1
育児休業制度	育児休業は2歳まで取得可能。 （法定: 原則として子どもが1歳まで）	申請者59名※1
積立年休制度※2	家族の看護や介護のために、失効した年次有給休暇を最大10日まで積み立て、利用できる制度。 （法定: 1年度につき5日（子どもや対象家族が2名以上の場合は10日））	利用者78名※3
再雇用制度	育児や介護のために退職した社員を再雇用する制度。	登録者5名※3
社内託児所	0歳児から小学校就学前までの乳幼児を預けられる託児所。常時保育だけでなく、一時的な利用も可能。	利用児童32名※1

※1 シスメックスの正社員、嘱託、シニア嘱託、パートタイマー（前年度からの継続者を除く）

※2 2016年12月から1日単位だけでなく、午前・午後の0.5日単位での取得可能に変更

※3 シスメックスの正社員

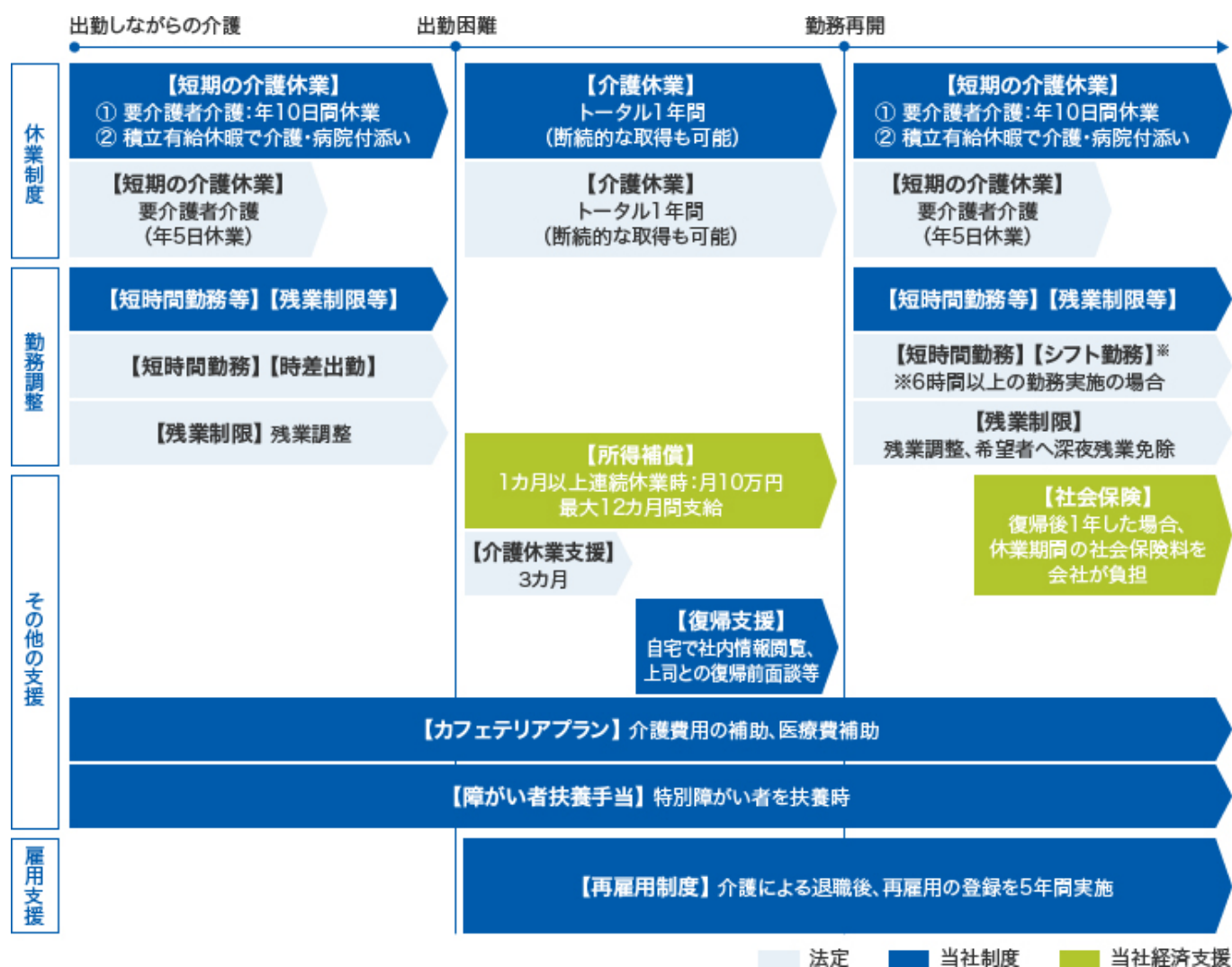
その他のワークライフバランス支援制度

介護や社会貢献活動などを支援

シスメックスでは、従業員のワークライフバランスを実現するための制度の一つとして、連続7日以上療養が必要になった家族の病院受診や入院付添いのために短期の介護休業に積立有給休暇を半日単位で最大40日（2016年12月から1日単位だけでなく、午前・午後の0.5日単位での取得可能に変更）取得することができます。2014年4月からは、介護休業を1カ月以上取得する際に、休業による収入減や突発的な費用発生に対応しやすいよう、会社独自で介護休業補償金を支給する所得補償制度を導入しています。また、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度も運用しています。

この他にも、社会貢献活動に参加する場合に年10日まで取得可能な「ボランティア休暇」（2日までは有給休暇として付与）や、骨髄移植などのドナーとなる場合、1件につき5日まで有給休暇として付与される「ドナー休暇」など、さまざまなワークライフバランス支援制度を設けています。

介護関連制度



休業後の職場復帰を支援

シスメックスでは、育児・介護休業者がスムーズに職場に復帰できるよう支援する制度を2013年2月から導入しています。本制度では、社内メールやイントラネットに接続できるタブレット端末もしくはノートパソコンを貸与することで、休業者が復帰予定の3か月前から自宅で社内情報を閲覧できるようにしています。利用開始時には上司と面談することとしているため、復帰後の働き方を事前に相談する機会を提供することにもつながっています。

休業中、職場と疎遠になることは、復帰後の円滑な職務の妨げにもなります。このしくみを利用すれば、休業者は家庭にしながら社内情報をリアルタイムに入手できる上、メールのやりとりを通じて職場とのコミュニケーションを図ることができます。疎外感や孤独感にさいなまれることなく休業中を過ごし、いきいきと元の職場に復帰できるよう配慮した、IT活用型の支援制度です。

ワークライフバランス支援制度の利用促進

シスメックスでは、イントラネット上の専用サイトでワークライフバランス支援制度についてわかりやすく解説しているほか、説明会なども開催し、周知を図っています。フレキシブルな勤務形態が選べるフレックスタイムは適用対象を順次拡大しており、2016年度は嘱託・シニア嘱託が対象となりました。また、プレミアムフライデーにもフレックスタイムの活用を推奨しています。休暇制度では、有給休暇も積立有給休暇も半日単位で取得可能としており、利用しやすいように工夫しています。その他、特に利用を推奨している制度については、メールで対象者に個別に案内しています。

海外事例（米州地域）：ワークライフバランス管理に資するさまざまな制度を運用

シスメックス アメリカでは、多様な働き方を可能にする制度として、社員の在宅勤務を認めるとともに、必要な機器などを支給しています。また、希望する社員にはパートタイム、フレックスタイムでの勤務形態も選択肢として提示しています。

これに加えて、日々快適に仕事ができるよう、ドレスコードをカジュアルなものにするなどの配慮も行っています。また、有給休暇のほか慶弔休暇、家族休暇、医療休暇など各種の休暇制度を用意しています。その他、外部サービス会社と契約し、急に家族が病気になった場合などにサポートが受けられるようにするなど、育児や介護と仕事の両立を支援しています。

働きやすい職場づくりに関するさまざまな取り組みなどが認められ、2016年度には、「Companies that Care Honor Roll」に9年連続で選出されています。米州地域ではこの他にも、子会社のシスメックス ブラジルが「Great Place to Work Brazil」に選定されるなど、働きやすい会社としての評価を確立しています。



シスメックス ブラジルの従業員

▶ Companies that Care Honor Rollの受賞についてはこちらをご覧ください。

海外事例（EMEA※地域）：働きやすい環境づくりを推進

シスメックス ヨーロッパでは、フレックスタイムや短時間勤務制度を整備し、従業員の多様な働き方を支援しています。また、3歳以下の子どもを持つ従業員を対象として児童手当を支給しています。さらに、従業員の健康管理にも注力しており、トレーニングルームの併設をはじめ、スポーツや栄養管理のプロから指導を受けることができる健康管理プログラムなども充実させています。

これらの他にも、オフィス内に従業員が懇談しやすい広いカフェスペースを設け、無料でランチを提供したり、オフィスの1部屋を1~3名の少人数で利用し、私物を持ち込んで「個人のスペース」として利用できるようにするなど、従業員がリラックスして働けるようさまざまな工夫をしています。こうした取り組みが認められ、「Great Place to Work」に3期連続で選定されています。



働きがいのある会社
「Great Place to Work」
に選定（3期連続）

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

海外事例（アジア・パシフィック地域）：HR Asia Best Companies to Work for In Asia 2016を受賞

シスメックス アジア・パシフィックおよびシスメックス マレーシアは、それぞれ、「HR Asia Best Companies to Work for In Asia 2016」を受賞しました。これは、HR Asiaが主催する、職場環境や働きがいなどについての従業員への調査結果を基に評価されるものです。



シスメックス マレーシアの受賞の様子

▶ 過去3年間の従業員関連のデータは「2016年度実績データ」をご覧ください。

労働安全衛生

職場の安全・衛生の確保

グローバルコンプライアンスコードにおいて、職場の安全・衛生の確保を明示

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生の確保」に取り組むことを明示し、さまざまな活動に展開しています。

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

8-4 職場の安全・衛生の確保

誰もが安心して働けるよう、各国・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりに努めなければならない。

役員・従業員が協力して安全衛生の確保を推進

シスメックスは、従業員の安全衛生を確保するための指針として「安全衛生規程」を定め、安心して働ける職場づくりに努めています。2016年度からは、国内のグループ会社を対象とした「中央安全衛生委員会」を設置し、年に2回委員会を開催しています。同委員会では、国内のグループ会社の安全衛生・健康管理体制の強化・充実を図るために、方針・目標の策定、各事業所における安全管理状況の把握、改善施策の検討を行い、その結果はリスクマネジメント委員会を通じて経営層へ報告されます。2017年度の全社安全衛生目標を、「労働災害ゼロ」「従業員への健康投資による活力向上、生産性向上を目指した健康経営の推進」として設定し、各社・各事業所の安全衛生委員会が中心となって取り組んでいきます。

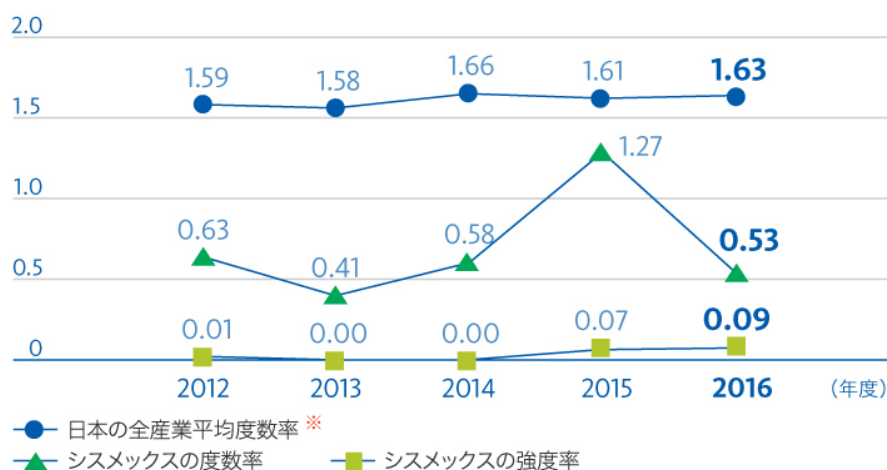
一方、各事業所では定期的に安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハット事例や労働災害事例だけでなく、職場巡回を通じて把握したリスクについても、リスクアセスメントの考えに基づいて原因を洗い出し、短期から長期の対策を審議しています。

また、万一事故や急病人があっても対応できるよう、事故発生時の応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などについて教育を実施しているほか、AEDの使用方法を主体とした研修、市民救急救命士講習も定期的実施しています。災害時の安全確保・安否確認・事業所被災状況の確認、お客様被災状況の確認や製品供給の状況確認の情報共有など、初動対応に関する訓練も適宜実施しています。

2016年度の労働災害度率率は、0.53（負傷者3名、死亡者0名）、強度率は0.09となっています。

▶ [市民救命士の育成についてはこちらをご覧ください。](#)

労働災害度数率/強度率（シスメックス）



注)労働災害度数率:のべ労働100万時間当たりの死傷者数の割合。
労働災害強度率:のべ労働1,000時間当たりの労働損失日数の割合。

※ 出典:厚生労働省「労働災害動向調査」

過重労働の防止

シスメックスでは、心身の健康を妨げる要因となる長時間労働の防止にも注力しています。関連法令の遵守はもちろんのこと、時間外・休日労働時間に関して厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、この基準を上回った場合、その上長へ連絡して業務改善を図るとともに、本人から自己チェック票を提出させ、必要に応じて産業医との面談を実施しています。

海外事例（米州地域）：OHSAS 18001※の認証を取得

シスメックス ブラジルは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるOHSAS 18001の認証を取得しています。

※ OHSAS 18001: 1996年にイギリス規格協会（BSI）が発行した規格BS 8800を基に、約30の各国審査登録機関、標準団体などが集まって1999年に発行された規格。

海外事例（中国地域）：工場での安全・快適な職場づくり

中国の2つの試薬生産工場の一つシスメックス 無錫では、OHSAS 18001に基づく厳密な労働管理を実施しています。2016年には、工場でタンクに材料を投入する際、従業員が安全帯を装着するしくみを導入し、従業員の安全を確実なものにしています。また安全衛生委員会を設置して労働災害などの状況を把握し、業務改善や防災訓練などさまざまな取り組みを進めています。

もう一つの試薬生産工場、済南シスメックスでは、従業員が安心して快適に働ける職場づくりを目指して、安全で衛生的な労働環境の整備に努めています。例えば、重量物製品の搬送を機械化することで、労働災害の低減を図っています。また、快適な職場環境にするために、作業室はリフレッシュ効果が高いといわれる自然光を取り入れ、明るく健やかな空間を形成しています。さらに、食堂やレクリエーション室などの福利厚生施設を充実させるとともに、屋外にビオトープや散策小路なども設け、自然に触れることで気分をリフレッシュできるようにしています。



左：作業時に装着する安全帯
右：安全帯を装着してタンクに材料を投入

健康の維持・向上

心身の健康の維持・向上

シスメックスでは、従業員の心身の健康の維持・向上が安全で快適な職場づくりに不可欠なものであると考え、定期健康診断に加え、人間ドックや女性がん検診などを実施し、疾病の早期発見に努めています。医療機器を取り扱う当社の業態上、業務によっては感染性のある物質などに接する機会もあることから、このような業務の従事者に対しては、法定の特殊健康診断に加え、B型・C型肝炎検査を含む独自の健康診断を年2回の頻度で実施しています。また、2015年12月には、「がん対策推進企業アクション※1」および「知って、肝炎※2」パートナー企業に登録し、2016年11月には「兵庫県がん検診等受診率向上推進協定」を締結しました。

また、ストレスチェック法改正に先がけ、2009年度から継続して、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」を年1回実施し、経年的に把握しています。この結果を人事委員会で役員に報告するほか、本部長・部長層へもフィードバックを行い、部門運営や労働環境の改善に役立てています。2015年度にはこの取り組みの対象範囲を国内のシスメックスグループ全体へ拡大しました。

健康相談に関しては、全社的な窓口を設け、産業医や保健師と面談できる体制を整えており、メンタルヘルスについては外部相談機関（EAP）も設置しています。

新任役職者に対しては、LGBT※3を含むハラスメント研修や労務管理、労働派遣法についての研修を実施しています。また社内外の通報窓口（カンパニュラライン）を設け、誰でも通報できる体制を整備しています。従業員へのパワーハラスメント、セクシャルハラスメントとを感じる言動・態度があるかを「ココロの健康診断」を通じて年1回調査し、管理職へフィードバックするとともに、部長層が受講する研修で自身・自部門の振り返りなどを実施しています。

また、万が一長期的な休業が必要になった場合も、セーフティーネットとして断続的に取得できる休暇や長期休業制度、経済的な補償制度や復帰時の「ならし入社制度」を設けるなど、安心して働ける環境を整えています。

健康維持のための福利厚生施設として、ソリューションセンターの敷地内にグラウンドやテニスコート、トレーニング設備を備えた体育館などを設け、スポーツ施設利用補助制度なども継続しています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベント・セミナーや、社員食堂でのヘルシーメニュー提供も実施しています。

このようなさまざまな取り組みが評価され、2017年2月に、経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人 ～ホワイト500～」の認定を受けました。

▶ 「がん対策推進企業アクション」に関する活動の詳細についてはこちらをご覧ください。

※1 厚生労働省の委託によるプロジェクト。職場での取り組みを通して、日本のがん検診受診率を50%に引き上げることを目指す。

※2 肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性をわかりやすく伝えることで、早期発見・早期治療の実現を目指す厚生労働省のキャンペーン。

※3 レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった性的マイノリティの総称。

健康イベントの実施

シスメックスでは、従業員の健康への関心を高めるためのキャンペーンなどを実施しています。2016年度には健康キャンペーンとして、「JA野菜イベント」による新鮮な野菜を使用したメニューを社員食堂で提供（5回）、4～6月にはストレス対策メニューを提供するほか、生活習慣病予防に効果的なメニューを取り入れるなど、食堂業者と従業員が食堂委員会を四半期ごとに開催し、従業員の健康の維持・向上に努めています。

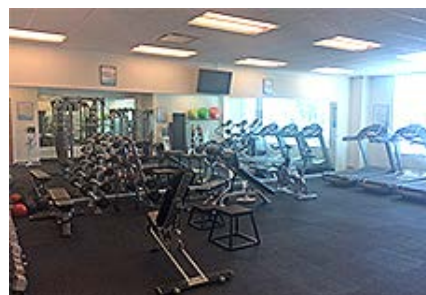


このような取り組みのほかにも、インフルエンザの予防方法を周知するなど、健康管理に役立つ情報を随時従業員に提供しています。

海外事例（米州地域）：従業員が無料で利用できるフィットネスルームを設置

シスメックス アメリカでは、健康増進への配慮として、従業員が無料で利用できるフィットネスルームを設置しています。

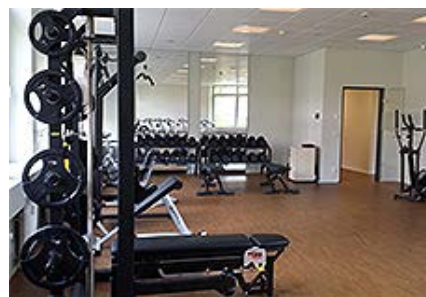
また、毎年フィットネス手当・健康手当を支給し、必要な機器の購入などを支援しています。さらに、健康診断やインフルエンザ予防接種の費用なども補助しています。



フィットネスルーム

海外事例（EMEA※地域）：スポーツを通じて健康を増進

2014年度、シスメックス ヨーロッパでは各種スポーツ器具を備えた「シスメックスジム」を開設しました。本施設では、キックボクシングやピラティスをはじめ、さまざまなスポーツ教室を開催しています。また、多くの従業員にスポーツに興味を持ってもらえるよう、プロのコーチによる入門トレーニングや専門家によるマッサージも提供し、楽しみながら健康管理に取り組める環境を整えています。



シスメックスジム

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

海外事例（その他）：取り組み事例

上記以外にも、海外のグループ会社において、従業員の健康に資するさまざまな取り組みを実施しています。

会社名	取り組み内容
シスメックス UK	電話でのカウンセリングを24時間体制で実施 第三者によるストレスリスクアセスメントの実施
シスメックス 上海	社内トレーニングルームの新設
シスメックス ベトナム	全従業員対象のスポーツアクティビティの開催
シスメックス コリア	社内トレーニングルームとリフレッシュルームの新設
シスメックス パルテック	ランチタイムや就業後に参加できるスポーツコースの提供

労働者の権利の尊重

組合結成の自由と団体交渉の権利の尊重

国連グローバル・コンパクトに参加するとともに、ILO 中核的労働基準を支持

シスメックスグループは、国連グローバル・コンパクトに参加するとともにグローバルコンプライアンスコード内にILO 中核的労働基準への支持を明記し、組合結成の自由と団体交渉の権利を尊重しています。

シスメックスの労働組合であるシスメックスユニオンには、正社員のうち、役職者や管理部門の一部を除く全員が加入しており、全従業員に占める組合員の割合は、2016年度は60.6%となっています。また、中国の済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス タイ、シスメックス ベトナム、ハイフェンバイオメッドにおいても労働組合が結成されており、定期的に団体交渉などを実施しています。

労使の対話

グループ各社で労働組合との対話を実施

シスメックスでは、2016年4月にシスメックスユニオンとの団体交渉を実施し、過重労働防止に向けた取り組みや、健康増進活動を推奨する施策について、労使間協議を行うことに合意しました。

また、2016年度には労使協議会を13回開催し、健康増進活動施策、労働時間管理、福利厚生制度などについて議論しました。海外のシスメックスグループにおいても、地域ごとの状況にあった方法で労使対話を実施しています。

従業員の声を経営に反映

シスメックスグループでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。全100項目以上の質問に対する回答を分析し、組織内にある暗黙のルールや価値観、また各種施策の効果を把握することで、当社グループが抱える課題の抽出と解決に役立てています。

人権の尊重

人権の尊重に関する方針

世界人権宣言とILO 中核的労働基準、国連グローバル・コンパクトを支持

シスメックスグループは、グローバルコンプライアンスコードの「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」において、世界人権宣言とILO 中核的労働基準への支持を表明するとともに、基本的な人権を尊重する上で遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインを定めています。具体的には、あらゆる差別的取り扱いを行わないこと、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどの人格を無視した行為をしないこと、児童労働・強制労働などをさせないこと、安全で快適な職場環境を確保することを明示しています。これらを実践するため、随時研修などを実施しています。

また、2011年2月に国連グローバル・コンパクトに参加し、人権の保護を支持、尊重し、人権侵害に加担しないことを表明しています。

さらに、ヒトゲノム・遺伝子解析研究および臨床研究を進めるにあたり、被験者の人権尊重を目的とした規程や委員会を設けています。

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO 中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

8-1 差別および嫌がらせ等の禁止

性別、年齢、国籍、人種、民族、信条、宗教、社会的身分、門地、疾病、障害、性的指向、性自認などに関する差別的言動、ならびにセクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの人格を無視する行為を行ってはならない。

8-2 プライバシーの尊重

個人の多様な価値観を認めあうとともに、一人ひとりのプライバシーを尊重し、知り得たプライバシー情報をみだりに話したり、不必要に知ろうとしてはならない。

8-3 強制労働・児童労働の排除

意思に反しての不当な労働を強制してはならない。また、各国・地域の法令等に定める雇用最低年齢に満たない児童を就業させてはならない。

8-4 職場の安全・衛生の確保

誰もが安心して働けるよう、各国・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりに努めなければならない。

▶ [研究倫理についてはこちらをご覧ください。](#)

人権リスクの特定（人権デュー・デリジェンス）

シスメックスグループでは、グローバルコンプライアンスコードの「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」に基づき、自社内にとどまらず、サプライチェーン全体の事業活動における人権への影響を特定し、負の影響を防止・緩和していく「人権デュー・デリジェンス」の取り組みが必要であると考えています。具体的な取り組みとして、取引先に対するCSR調査の実施が挙げられます。調査項目の中に「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」などがあり、シスメックスグループの活動が人権侵害に関与・加担することのないよう、人権への影響を事前に把握し、予防的に対処するしくみを整えています。またシスメックスグループでは「英国現代奴隷法」の対応を進めており、シスメックス UKのホームページに声明文を公開しています。

- ▶ 「英国現代奴隷法」の対応についてはこちらをご覧ください。（シスメックス UKのホームページ）
- ▶ サプライチェーンにおける人権に配慮した調達方針についてはこちらをご覧ください。

人権に関する相談・通報制度

国内のシスメックスグループ向けに内部通報制度「カンパニユラライン」を設置し、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントに関する相談をはじめとする人権相談を受け付けています。また、海外のシスメックスグループでも内部通報制度を整備しています。

シスメックスでは、これに加えて、毎年1回、従業員を対象とする調査を行い、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントとを感じるような言動・態度が周囲に存在しないかを確認しています。調査結果は本部長や部長に報告するとともに、これを踏まえたマネジメント向けの研修なども実施しています。

- ▶ 内部通報制度「カンパニユラライン」についてはこちらをご覧ください。

人権の尊重を理解するための教育・啓発

人権侵害防止に向けた教育を実施

シスメックスは、ハラスメント（いじめ）の防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

2016年度は新任役職者向け研修で、LGBT[※]を含むハラスメント、労務管理、労働者派遣法に関する研修を113名に行ったほか、新入社員、中途採用者に対しても研修を実施しました。

[※] レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった性的マイノリティの総称。

社会貢献活動

社会貢献方針

シスメックスは、豊かな健康社会、生き生きとした地域社会作りにつながる社会貢献活動を積極的に行うとともに、従業員の主体的な社会貢献活動を支援します。

- **豊かな健康社会への貢献**

ヘルスケア企業としての特徴を活かした社会貢献活動を積極的に展開し、より豊かな健康社会づくりに貢献します。

- **生き生きとした地域社会への協力**

「企業市民」として社会と価値観を共有し、社会貢献活動への賛助ならびに自らもその活動に参画することにより、生き生きとした地域社会の実現に協力します。

- **従業員の社会貢献活動への支援**

従業員がグループの一員であることに誇りを持ち、市民として社会貢献活動を主体的に実践できるように支援します。

2012年5月制定

豊かな健康社会づくり

シスメックスグループは、豊かな健康社会づくりに向けて、医療分野における産官学連携や教育啓発、教育研究助成、社会貢献活動などを国内外で積極的に実施しています。

国内での活動

神戸医療産業都市への参画

「神戸医療産業都市」は、産官学が協力して神戸市への医療・産業の集積を図るプロジェクトです。

シスメックスは、プロジェクトの中心的な拠点である「臨床研究情報センター（TRI）」や「バイオメディカル創造センター（BMA）」などにラボを開設し、臨床研究の推進や、さまざまな医療機関・企業などと共同研究を促進しています。

▶ [医療課題解決への貢献についてはこちらをご覧ください。](#)

寄附講座の開設を通じた医療への貢献

2004年度から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学（シスメックス）」を開設し、新規の臨床検査技術の共同研究を進めてきました。現在、同講座では、当社の中央研究所と共同で、HDL（高比重リポタンパク）機能の評価により心疾患のリスクを高精度かつ簡便に診断する技術の開発を行っています。

また、2017年度には、新たに外科学講座 国際がん医療・研究推進学分野に2つの寄附講座を開設し、人工知能・ロボット技術などの最先端テクノロジーの外科領域への導入と、低侵襲かつ根治を実現するがんの外科治療法の確立を目指します。当社は寄附講座と連携し、自社が保有するリキッドバイオプシー技術や、メディカロイドのロボット技術を活用することで、次世代医療や新規医療機器の研究開発を促進します。

財団を通じた医療への貢献

東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）の創業者故中谷太郎が1984年に設立した「財団法人中谷電子計測技術振興財団」は、2012年に「公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団」と改称し、医工計測技術分野における先導的技術開発の助成を中核事業として、研究者への表彰、技術交流への助成などを行っています。

設立30周年を迎えた2014年度以降は、対象者をより広げるため、小中高校における教育プログラム助成を開始しました。また、グローバルに活躍する研究者の育成を目指した理系大学生の国際交流プログラムを創設し、2016年夏に日米間で実施しました。

設立以来、2016年度までの技術開発研究の延べ助成件数は407件、累計助成金額は約11億5千万円※となっています。

※ 累計助成金額は、2年にわたり助成する特別研究助成を含む。

献血への継続的な協力

献血時に用いる検査機器を提供しているシスメックスグループでは、従業員も積極的に献血活動に参加しています。2016年度は、14の事業所で献血を実施し、延べ約300名の従業員が参加しました。

また、ヘルスケア企業として日本赤十字社への支援を高めるために、2014年度から「献血サポーター企業」に登録しています。



献血活動（シスメックスRA本社）

▶ 従業員ボランティアを促進するための制度についてはこちらをご覧ください。



「がん対策推進企業アクション」推進パートナーへの登録

シスメックスは2014年度に剥離細胞分析装置「LC-1000」を発売し、将来的に子宮頸がん検診にご活用いただくことを目指しています。これを踏まえて、社会貢献の分野においても、子宮頸がん検診の受診率向上を図る啓発活動を進めていく予定です。

この一環として、2015年度には、がん対策推進企業アクションに登録しました。これは、厚生労働省が統括・運営する国家プロジェクトで、企業・団体の協力のもと、国内でのがん検診受診率50%を目指すものです。登録企業は、社内での啓発活動や情報発信、本業における価値創造などを通して、がん検診の受診率向上を図ります。2016年11月に岡山で開催された、国や企業が職域におけるがん対策の最新情報の紹介を行うセミナーでは、当社も登壇し、がん対策の取り組みを紹介しました。

2016年度には、兵庫県と「がん検診等受診率向上推進協定」の締結を行いました。これは、県と企業が連携してがん検診等の啓発・受診勧奨等の草の根的な活動を行うことにより、兵庫県がん対策推進計画における柱の一つである「早期発見の推進」を実現させるための取り組みです。

また当社では、健康意識の醸成の一環として子宮頸がん検診に関する社内教育などを積極的に実施し、社外での関連イベントにも参加しています。2017年4月には、「平成29年度子宮の日 LOVE49 in KOBE」に参加し、医療関係者や地域の大学生など他の参加者と交流し、今後の取り組みに役立つ多くのヒントを得ることができました。

▶ 社内での啓発活動の詳細についてはこちらをご覧ください。



がん対策推進企業アクション 登録証



「がん検診等受診率向上推進協定」締結式

市民救命士講習会の開催

シスメックスでは、毎年、本社、テクノパーク、ソリューションセンターで「市民救命士講習会」と「AED研修」を開催しています。市民救命士講習とは、消防署や神戸市の認定を受けた民間救急講習団体（FAST）が実施する講習で、傷病者が発生したときにその場で適切な対処を行える市民救命士の育成を目的としています。

一人でも多くの従業員が救命に向けた知識と技術を身につけるよう促すことで、安心な社会づくりに貢献します。



市民救命士講習会での訓練

海外協力事業への協力

シスメックスグループでは、海外協力事業として、外務省や国際協力機構（JICA）などによる新興国・開発途上国の医療水準向上に関わる政府開発援助（ODA）の案件（円借款および無償資金協力案件等）に参加しています。

また、JICAの技術協力事業として、毎年、当社施設の見学に研修生を受け入れ、医療機器に関する研修を実施しています。2016年度には当社のアイスクエアなどで計7回の研修を実施し、アフリカや中東、中央アジア、東南アジアから62カ国・75名の研修生を受け入れました。



JICA研修生

肝炎治療に関する公開講座を開催

シスメックスは、肝炎に対する理解を深め、肝炎患者等が安心して生活できる環境づくりを目指し、2016年11月に患者団体（肝臓の会・神奈川）が主催する市民公開講座「肝炎治療講演会（湘南地区）『肝がんにならないために～早く治そうC型肝炎』」に協賛しました。

当日は、湘南東部総合病院より座長および講演者を招き、「C型肝炎に対する経口剤の効果とウイルス学的著効後の諸問題」について、講演会を実施し患者さんを含む一般市民20名の方々にご参加いただきました。



公開講座の様子

教育・啓発のための絵本を作成

病気や検査に関する教育・啓発のための絵本を作成し、病院・診療所などの医療機関に配布して、待合室などに置いていただいています。病気の特徴や検査・治療の方法について、わかりやすく紹介したもので、一般の方や子どもたちにも興味を持って読んでもらえるよう、物語形式としています。



絵本

海外での活動

海外事例（米州地域）：がんの予防や研究を支援する団体に継続して寄付を実施

シスメックス アメリカでは、健康な社会づくりへの貢献を目指して、がんの予防や研究を支援している団体に継続して寄付を実施しています。

2014～2016年度では、アメリカとカナダの癌学会、アメリカ心臓協会、白血病リンパ腫協会に合計約175千ドル以上※を寄付しました。

また、これらの団体が開催するイベントに、従業員がボランティアとして積極的に参加しました。



チャリティウォークに参加した従業員

※ 募金活動で集めた寄付金を含む。

海外事例（EMEA※地域）：がん撲滅を目指したキャンペーンを展開

2014年度から2015年度にかけて、EMEAの従業員ボランティアが中心となって、がん撲滅を目指したキャンペーン「Sysmex Against Cancer」を展開しました。各地域の従業員が自ら募金イベントを企画・開催し、がん予防に関する啓発や研究支援に取り組む非営利団体「世界がん研究基金」に約3,150万円の寄付を実施しました。その寄付金は、がん予防に関するさまざまな研究プロジェクトや研究報告書の発行、啓発キャンペーンなどに活用されました。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

海外事例（中国地域）：大学と共同でエンジニアを育成

検査ニーズが急速に高まっている中国では、専門的な知識と技術を備えた臨床検査機器のエンジニアの育成が急務となっています。そこでシスメックス 上海は、Shanghai Medical Instrumentation College (SMIC) との共同プロジェクトとして、エンジニアを養成する研修拠点を運営しています。2016年度は3回の研修を開催し、68名が参加しました。



エンジニア育成風景

海外事例（アジア・パシフィック地域）：尿検査機器の貸し出し

フィリピンでは、公衆衛生意識の向上を目的としたテレビ番組「Salamat Dok（ありがとうお医者さん）」が放送されています。

シスメックス フィリピンは、同番組が2015年9月に開催したイベント「尿の日」に協力し、フィリピン医療技術者協会と共同で約100名の方に無償の尿検査を提供しました。



検査を提供したシスメックス フィリピンの従業員

海外での献血活動（各地）

海外のシスメックスグループでは、身近な医療課題の解決に少しでも貢献したいとの考えから、献血に積極的に協力しています。

- 2016年4月 シスメックス ニュージーランド
- 2016年6月 シスメックス インドネシア
- 2016年7月 シスメックス マレーシア

海外事例（アジア・パシフィック地域）：心臓疾患を抱える子どもたちを支援

シスメックス ニュージーランドは、先天的な心臓疾患を有する子どもたちを支援するため、毎年、社内で募金活動を実施しています。

医療体制構築に取り組むNPO法人を支援

ケニアでHIV/AIDSの医療体制構築に取り組んでいるNPO法人「イルファー」に対して、シスメックスは2010年度に血液計数装置を寄贈して以来、継続的な支援を行っています。同団体はHIV/AIDSに関する教育活動や無料診療を現地で定期的に行っており、2016年度は延べ約3,800名の患者さんを診療しました。シスメックスは2016年度、約1,100名分の検査費用に相当する金額を同団体に寄付しました。



シスメックスが寄贈した血液計数装置

生き生きとした地域社会づくり

シスメックスグループは、地域の方々が生き生きと過ごせる社会づくりに向けて、国内外において地域の自治体や団体などと協力し、文化・スポーツなどの支援を行うとともに、災害被災地支援、次世代育成支援や環境保全活動などを行い、地域社会の安心や活性化に貢献しています。

国内での活動

第6回神戸マラソンに協賛

シスメックスは、阪神・淡路大震災からの復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちを込めて毎年神戸で開催されている「神戸マラソン」に、第1回大会から継続して特別協賛しています。

2016年11月に開催された第6回大会にも特別協賛し、ランナーゼッケンなどを提供するほか、同時開催の「神戸マラソンEXPO」にも出展しました。また、ボランティアによる大会運営支援を実施しました。

同大会による経済効果額は、兵庫県内だけで約70億円と算出されており、地域活性化にも貢献しています。



従業員による給水ボランティア

地域の方々との交流イベントを開催

シスメックスは、地域住民の方々を当社施設にお招きし、交流を深めるイベントを毎年開催しています。2016年5月にはテクノパークの庭園を開放し、近隣住民の方々に散策を楽しんでいただくイベントを開催し、約700名にご来場いただきました。当日は「子宮頸がん検診のススメ」というテーマの講演会や、採血せずに血液中のヘモグロビン推定値が測定できる当社製品「ASTRIM FIT」による健康チェックなども実施し、医療や検査に興味を持っていただけるよう努めました。

ソリューションセンターでは、神戸ハイテクパーク工業会を通じた地域交流を行いました。2016年度は、神戸ハイテクパーク工業会が主催する夏祭りへの協賛・出店や、AED講習会などへの会場貸し出しなどを行っています。

また10月には、前年度に引き続いて「みなと異人館」を一般公開しました。みなと異人館は1906年に建造された神戸市の歴史的建造物で、老朽化のため2008年から閉鎖されていました。これを2012年9月に当社が借り受け、修繕した上でゲストハウスとして活用しています。一般公開では、館内を公開するだけでなく、神戸の歴史を紹介する写真展や、一般の方に気軽に



テクノパークの庭園開放



みなと異人館の一般公開

楽しんでいただけるジャズコンサートなどのイベントを併催し、過去最高の368名の方々にご来場いただきました。今後も定期的に地域の皆様へ公開していく予定です。

さまざまなイベント・団体を支援し、地域振興・文化の発展に貢献

シスメックスは、地元兵庫県の地域振興と文化の発展を目的とするイベントや団体に対して寄付や協賛を通じて支援しています。

例えば、1995年の阪神・淡路大震災で亡くなられた方々の鎮魂の意を込めるとともに神戸の復興・再生への夢と希望を託して始まった「神戸ルミナリエ」に毎年協賛しています。また、神戸市立王子動物園の「動物サポーター制度」に協力しています。「動物サポーター制度」は、企業や個人が動物のサポーターとなって動物園の運営を支援するもので、当社はパンダのサポーター企業となっています。その他にも、以下のような団体やイベントを支援しています。

地域振興の支援

- 第46回神戸まつり
- こうべ海の盆踊り
- 第89回兵庫県小・中・高校絵画展
- ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ 第5回兵庫公演
- ひょうごKOBEMEDICAL健康フェア
- ひょうごKOBEMEDICALワールド・ミーツ for YOUTH ほか

文化関連事業の支援

- 兵庫県立美術館 ほか

その他

- 公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）
- 官民協働海外留学支援制度「グローバル人材育成コミュニティ」
- 公益財団法人計算科学振興財団
- 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- 公益社団法人 中谷医工計測技術振興財団

▶ [社会貢献支出額は「2016年度実績データ」をご覧ください。](#)

地元のスポーツチームに協賛

シスメックスは、地元神戸のスポーツチーム活性化を目的に、Jリーグ所属のサッカーチーム「ヴィッセル神戸」に協賛しています。

このような取り組みによって地域振興を図るとともに、スポーツを通じた健康な社会づくりにも貢献していきたいと考えます。

海外での活動

海外事例（アジア・パシフィック地域）：地域の課題解決に向けてさまざまな活動を実施

アジア・パシフィックのグループ各社では、各地域の課題解決に貢献するためにさまざまな取り組みを展開しています。2016年度は、各地で以下のような活動に取り組みました。

- PERTIWIスーパーストックプロジェクトとともに、ホームレスの方々に600個のお菓子やティッシュが入ったギフトバックを寄付。（シスメックス マレーシア）
- ニュージーランド国内の恵まれない子どもたちにクリスマスプレゼントを配布するプロジェクト「Kmart Wishing Tree Appeal」に参加。42万個のプレゼントを配布。（シスメックス ニュージーランド）



ホームレスの方々にギフトバックを寄付
（シスメックス マレーシア）

海外事例（米州地域）：「Companies That Care Honor Roll」を9年連続受賞

シスメックス アメリカは、「Companies That Care Honor Roll 2017」（米国NPO法人「Companies That Care」主催）を受賞しました。同賞は、リーダーの育成や従業員の報酬・福利厚生充実、ワークライフバランス・働きやすい職場環境の推進、および地域でのボランティア活動などで優れた取り組みを実施している企業が選定されるもので、当社は9年連続で受賞しています。



海外事例（米州地域）：低所得者向け住宅の修復支援活動の実施

シスメックス アメリカは、世界70カ国以上で低所得者に住まいを提供するための活動を行っている国際NGO「Habitat for Humanity」のイリノイ州レイク郡にある支部の活動を支援しています。シスメックス アメリカが支援する「Habitat for Humanity Lake County」では、214の家族（約900名）に安心できる住まいを提供しています。シスメックス アメリカでは、これらの家の修復費用の寄付および人的な支援を行っています。2016年9月には、春から秋にかけて修復作業を行ってきた家を引き渡しました。



「Habitat for Humanity」の活動

海外事例（米州地域）：「Red Nose Day」（子どもの貧困を終わらせるチャリティイベント）に参加

シスメックス アメリカでは従業員主導の「シスメックス・ケア」という委員会を組織し、その活動の中で、子どもの貧困を終わらせるためのチャリティイベント「Red Nose Day[※]」に参加しています。400名を超える従業員が赤い鼻をつけ、基金への寄付活動をサポートしています。



「Red Nose Day」の活動

※ 「Red Nose Day」とは、アメリカのコミック・リリーフという慈善活動を行っているNPOが、子どもの貧困を終わらせるための公的基金「Red Nose Day Fund」を集める活動。象徴的に赤い鼻をつけ募金活動を行っています。プログラムを通じて子どもや若者が安全で健康に、そして教育を受けることができるような支援を行っています。

海外事例（EMEA[※]地域）：子ども／高齢者関連施設に寄付

シスメックス パルテックでは、地域の恵まれない子どもたちや高齢者に対する支援を積極的に行っています。2016年度は、子どもたちのサマーキャンプや音楽、スポーツ教室への参加、また高齢者施設ではクリスマスパーティー開催の支援などを行いました。

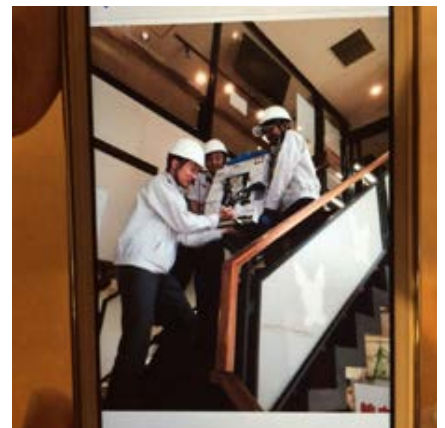
※ 欧州・中東・アフリカ地域。

災害被災地の支援

熊本地震の被災地を支援

2016年4月、熊本県を震源とする震度7の地震が発生し、本震以降も熊本県や大分県などで大規模な地震が相次ぎました。シスメックスは、地震後すぐに災害対策支援本部を発足し、お客様である病院・検査センターに対してミネラルウォーターやフリーズドライ食、毛布などの支援物資を提供しました。

また、この地震による被災者の救済と被災地の復興に役立てていただくため、2016年度は日本赤十字社を通じて1,000万円を被災地に寄付しました。また、グループ従業員による募金活動も実施し、約130万円を寄付しました。



熊本地震の被災地支援

次世代育成への貢献

青少年の育成支援

シスメックスでは、兵庫県下の中学生を対象に実施されている職場体験プログラム「トライやるウィーク」や、兵庫県下の理数系の高校生が研究成果を発表し、企業、大学、研究機関と交流するイベント「サイエンスフェアin兵庫」に毎年参加しています。

インターンシップ・企業見学の受け入れ

シスメックスでは海外の学生も積極的に受け入れており、2016年度は、インド工科大学の学生4名をインターンシップ生として受け入れました。他にも、香港大学、香港科技大学の学生2名を受け入れ、シスメックス独自の技術を学んでもらいました。高等専門学校インターンシップとして、アイスクエアに6名を受け入れたほか、現場受け入れ型のインターンシップとして、研究開発・学術部門にて計25名を受け入れました。さらに、ポスドク（博士研究員）を対象に、長期インターンシップの受け入れを実施しました。

2015年4月には、官民協働留学制度「グローバル人材育成コミュニティ」に参画することを決定しました。この制度は独立行政法人日本学生支援機構が創設したもので、意欲と能力のある若者に留学機会を提供できるよう、企業、国、大学などが協力して、留学機運の醸成や留学参加者のネットワークづくりなどを支援するものです。

自然保護・クリーン活動

森林保全活動

シスメックスでは、地域の水源涵養と生物多様性保全への貢献を目指し、森林保全活動を推進しています。

▶ 森林保全活動の詳細についてはこちらをご覧ください。

事業所周辺のクリーン活動

シスメックスでは、日本全国の事業所で従業員ボランティアによる事業所周辺の清掃活動を実施しています。2016年度は20拠点で延べ800名の従業員がこの活動に参加しました。



仙台支店



シスメックスメディカ



アイスクエア

従業員の社会貢献活動

従業員のボランティア活動を推進

社会貢献活動ポイント制度

シスメックスグループは「社会貢献ポイント制度」による従業員のボランティア活動を促進しています。この制度は、従業員が地域のボランティア活動に参加したり、会社主催の社会貢献活動に参加するとポイントが付与され、そのポイントに応じて会社が寄付を実施するものです。2016年度は、開発途上国の子どもたち、小児がん患者とそのご家族への寄付を行いました。この制度には国内グループ従業員の32%である1,074名が参加し、その結果、約137万円分を寄付することができました。2014年度から3年間で延べ362万円分を寄付しています。



(左) © UNICEF/UNI150956/Asselin
(中央) © UNICEF/UNI108970/Asselin
(右) © UNICEF/UNI179689/Markisz
提供：(公財)日本ユニセフ協会

**国内グループ従業員の約32%、1,074名が参画し、
合計13,714ポイント=1,371,400円分を寄付**

**抗マラリア薬:55,800錠(ユニセフ)、小児がんを抱える子どもと家族の旅行・
外出への医療者付き添い支援等(ジャパンハート)**

2016年度の活動では、各事業所で古本や切手、書き損じはがき、古着などの回収、清掃活動を行い、国際協力団体などへの寄付を実施しました。また、従業員から集めた絵本(100冊以上)や文房具などを神戸市の児童養護施設へ寄贈しました。



寄贈式の様子



寄贈品

環境への配慮

課題認識

地球環境問題は、持続可能な社会を実現していく上で喫緊の課題といわれています。COP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）で採択された「パリ協定」では、地球温暖化防止に向けて世界の全ての国や地域がCO₂排出量削減のための目標を設定し、その達成に向けた対策を講じることが義務付けられました。また、天然資源の枯渇が深刻化しており、循環型社会への対応も重要な課題の一つとして挙げられています。

これらの状況を踏まえ、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、環境問題の解決のための目標が多数掲げられており、政府のみならず、企業も一定の責任を果たすことが求められています。

シスメックスのアプローチ

シスメックスは、グローバルに事業を展開する企業として、深刻化する地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つとして捉え、長期環境目標「シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）」を策定し、製品ライフサイクルにおける環境配慮と事業所活動における環境負荷低減に取り組んでいます。特に、製品ライフサイクルにおける環境配慮の取り組みは、コスト低減や市場での競争優位性確保だけでなく、お客様製品使用時の環境負荷低減にも貢献できると考えています。

具体的な活動として、製品ライフサイクルでは、環境配慮製品の開発や、物流プロセスにおけるCO₂排出量削減、梱包材の削減などを進めています。また、事業所から排出されるCO₂削減やリサイクル率の向上に向けた施策をグローバルに展開しています。

今後も、持続的な成長と、重要な社会課題である環境負荷低減の両立に努めていきます。

環境マネジメント

環境に関する方針

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品のライフサイクルの各段階において、環境への影響を考慮し、環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
3. すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを推進し、化学物質の適正管理に努めます。
4. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを遵守します。
5. 環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品が環境に与える影響を最小限にするように努めます。
6. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
7. 環境方針から環境目的・目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2009年5月改定

環境マネジメントシステム

グループ環境マネジメント体制

シスメックスグループは、グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、シスメックスの常務執行役員が務める環境マネジメントオフィサーの統括・管理の下、グループで環境マネジメントに取り組んでいます。環境マネジメントオフィサーを委員長とする「環境管理委員会」では、方針やグループ環境目標などの重要事項の審議、マネジメントレビューなど、環境活動に関する意思決定を行っています。環境管理委員会を構成する組織の一つとして、環境マネジメントシステム推進部会（部会長：環境推進部門長、メンバー：各事業本部の環境マネジメントシステム推進担当者）を設置し、環境マネジメントの実務を担っています。各事業本部の環境活動は、環境マネジメントシステム推進責任者、環境マネジメントシステム推進担当者を中心に、その機能にあわせた環境活動を推進しています。

ISO 14001 認証の取得を推進

シスメックスグループでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格「ISO 14001」の取得を進めており、2016年度には、新たに済南シスメックスがISO 14001の認証を取得しました。2017年4月末現在、24拠点で取得しており、認証取得拠点の従業員数がグループ全体の従業員数に占める比率は69%となっています。また、ISO 14001の改訂に伴い、各拠点で移行作業を進めています。

国内のシスメックスグループでは、環境活動を一元化して、活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために、シスメックス、シスメックス国際試薬、シスメックスRA、シスメックスメディカの4社9拠点で、統合認証を取得しています。2016年度には、改訂版ISO (ISO 14001:2015) への移行を完了しました。

ISO 14001 認証取得状況

会社名	適用範囲	事業所	取得時期
シスメックス ヨーロッパ (新たにISO 50001取得)	臨床検査用試薬の製造	試薬生産工場	1999年11月
	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの販売およびアフターサービス	本社	2011年10月
-			
シスメックス ドイツ			
シスメックス	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの開発、設計、製造、販売、アフターサービス、ならびに特注タンパク質の販売	加古川工場	2000年4月
		テクノパーク	2002年2月
		本社	2002年2月
		ソリューションセンター	2005年11月
		アイスクエア	2015年2月
シスメックス国際試薬		小野工場	2001年3月
		西神工場	2007年6月
シスメックスメディカ		-	2001年3月
シスメックスRA		-	2008年6月
シスメックス ブラジル	臨床検査用試薬の製造および販売	-	2009年2月
シスメックス アメリカ	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの販売およびアフターサービスならびに検査用試薬の製造	-	2009年12月
シスメックス リージェンツ・アメリカ		-	
シスメックス ニュージーランド	ヘルスケア情報システムおよびサービスの設計、開発、実装、サポートおよび臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの販売およびアフターサービス	-	2011年5月

会社名	適用範囲	事業所	取得時期
シスメックス フランス	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの販売およびアフターサービス	-	2012年2月
シスメックス インディア	臨床検査用試薬の製造	-	2012年3月
シスメックス アジア・パシフィック	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの販売およびアフターサービスならびに臨床検査用試薬の製造および販売	本社	2012年4月
		試薬生産工場	
シスメックス スペイン	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの販売およびアフターサービス	-	2012年4月
シスメックス ミドルイースト	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの販売およびアフターサービス	-	2013年3月
シスメックス 無錫	臨床検査用試薬の開発および製造	-	2013年6月
済南シスメックス	臨床検査用試薬の製造および販売	-	2016年1月

環境監査の実施

ISO 14001 認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的の実施しています。

2016年度は、認証統合している国内グループ4社9拠点の内部環境監査では不適合が3件、外部環境審査では軽微な不適合が1件見つかりましたが、是正対応を完了しています。

環境目標

長期・中期の環境目標を設定

シスメックスグループは、長期的な環境マネジメントの指針として、2020年度を達成期限とする長期環境目標「シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）」を策定し、目標達成に向けてグループで継続的に環境影響の改善に取り組んでいます。

環境行動計画は、気候変動・資源循環などの環境問題に関する社会情勢やニーズ・期待、当社の及ぼす環境影響およびその範囲を考慮して取り組むべき課題を抽出し、2010年度に環境管理委員会での審議を経て策定しました。内外の環境変化に伴い2015年度に一部改訂し、国内・域間物流のCO₂排出量削減の目標値について、単位を従来の「トンキロ原単位」から「単体売上高原単位」に改め、搬送効率の向上による効果が反映されるようにしました。また、環境行動計画の目標達成に向けた中期目標を設定しており、現在は、2017年度を最終年度とする「シスメックスグループ中期環境目標（2015～2017年度）」の達成に向けて取り組みを進めています。

さらに、2017年度から新たにグループ中期経営計画の中に日本国内のシスメックスグループを対象とした「グループ環境目標」を設定しました。日本国内の各部門は、部門ごとに3カ年の製品・サービスのライフサイクルおよび事業所活動に係る環境目標を掲げた上で、アクションプランに展開し、目標の達成に向けた取り組みを進めています。

シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）の長期環境目標およびシスメックスグループ中期環境目標の実績

	シスメックス・ エコビジョン2020の 長期環境目標 (改訂版)	シスメックスグループ 中期環境目標 (2015～2017年度)	2016年度の活動・実績
製品・サ ービス等 の環境配慮	環境に配慮した製品・ サービスの提供	環境に配慮した製品・ サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 新製品開発において、省電力、小型化の取り組みを継続。 脱動物由来原料の試薬の開発を継続。 濃縮試薬採用により、試薬交換回数を低減して廃棄物を削減。 廃棄物の削減につながるリユース梱包材の対象機種を追加。 お客様からのお問い合わせやサービス依頼に対する電話およびネットワークサービス（リモート接続対応）での解決率の向上。（自動車訪問件数の低減によるCO₂排出量削減） <p>▶ 詳細はこちら</p>
	国内・域間物流のCO ₂ 排出量50%削減 (単体売上高原単位) ※1 基準年度 2010年度	国内・域間物流のCO ₂ 排出量45%削減 (単体売上高原単位) ※1 基準年度 2010年度	<ul style="list-style-type: none"> 海外への輸出について、航空便から海上輸送への切り替えを推進。 製品の梱包サイズ適正化や積載シミュレーションによるコンテナ積載率向上。 <p>実績（単体売上高原単位）： 2016年度: 4.937 (t-CO₂/億円) 基準年度: 7.252 (t-CO₂/億円) 対基準年度: 32%削減</p> <p>▶ 詳細はこちら</p>

	シスメックス・ エコビジョン2020の 長期環境目標 (改訂版)	シスメックスグループ 中期環境目標 (2015~2017年度)	2016年度の活動・実績
事業所の 環境配慮	事業所における温室効果 ガス排出量50%削減 (連結売上高原単位) ※2 基準年度 2008年度	事業所における温室効果 ガス排出量40%削減 (連結売上高原単位) ※2 基準年度 2008年度	<ul style="list-style-type: none"> 生産効率の改善による電力消費削減。(シスメックス国際試薬) 太陽光発電の利用によるCO₂排出量削減。(シスメックス ヨーロッパ(ドイツ試薬生産工場)、アイスクエア) 高効率型の空調設備への切り替え。(ソリューションセンター) 電力を再生可能エネルギーに転換。(シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス ヨーロッパ(ドイツ試薬生産工場)) <p>実績(連結売上高原単位)： 2016年度: 7.36 (t-CO₂/億円) 基準年度: 10.07 (t-CO₂/億円) 対基準年度: 27%減</p> <p>▶ 詳細はこちら</p>
	事業所のリサイクル率 93%以上の達成 ※3	事業所のリサイクル率 92%以上の達成 ※3	<ul style="list-style-type: none"> 埋め立て処理していた「ガラスくず」を道路舗装材料などへ再生処理。(テクノパーク、ソリューションセンター) 購買品の包装材料の再利用。(シスメックス 無錫) <p>実績： 2016年度：91.8%</p> <p>▶ 詳細はこちら</p>

	シスメックス・ エコビジョン2020の 長期環境目標 (改訂版)	シスメックスグループ 中期環境目標 (2015～2017年度)	2016年度の活動・実績
	試薬工場の水使用量 10%削減 (生産量原単位) ※4 基準年度 2008年度	試薬工場の水使用量7%削減 (生産量原単位) ※4 基準年度 2008年度	<ul style="list-style-type: none"> 超純水プラントの改良によるRO水（純水）排水の再利用。 (シスメックス アジア・パシフィック) 浄化処理後の工場排水の再利用。 (シスメックス インディア) <p>実績（生産量原単位）： 2016年度: 25.4 (m³/千箱) 基準年度: 21.5 (m³/千箱) 対基準年度: 18%増</p> <p>▶ 詳細はこちら</p>

※1 集計範囲: シスメックス

※2 集計範囲: 工場および主要事業所（13工場、7事業所）

[工場] シスメックス（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックスヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックスブラジル、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスインド、シスメックスアジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス無錫

[主要事業所] シスメックス（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）、シスメックスヨーロッパ、シスメックスアメリカ、シスメックス上海、シスメックスアジア・パシフィック

※3 集計範囲: 工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所（13工場、3事業所）

[工場] シスメックス（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックスヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックスブラジル、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスインド、シスメックスアジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス無錫

[主要事業所] シスメックス（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）

※4 集計範囲: 試薬工場（9工場）

シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックスブラジル、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスインド、シスメックスアジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス無錫

環境リスクアセスメント

環境リスクアセスメントの実施

シスメックスグループはリスクマネジメントの一環として、地球規模で深刻化する環境問題に対する事業活動の影響を「法令遵守」と「環境への影響」の2つの観点から評価し、リスクの低減および事業機会の創出に取り組んでいます。リスクマネジメント体制の中で、2年に1回のリスクアセスメントを実施しています。

環境教育

環境教育・訓練の実施

シスメックスは、グループの環境活動および、それぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するために、年に1回、全従業員に対してeラーニングなどによる一般教育を実施しています。

また、事業活動と関わりの深い部門、もしくは専門的な知識・スキルが必要な部門については、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対して、実務知識を習得するための法規制セミナーや内部環境監査員養成セミナーなどの専門教育を実施しています。2016年度は、ISO 14001:2015への移行に向けた周知教育も実施しました。さらに、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練などを実施しています。

環境教育・訓練の受講者（2016年度）

名称	対象	受講者数
環境一般教育	ISO統合認証の適用事業所に所属する全従業員	1,786名
法規制セミナー	事業所担当者および開発担当者	52名
内部環境監査員養成セミナー	内部環境監査員対象者（環境マネジメントシステム推進担当者）	19名

製品ライフサイクルにおける環境配慮

環境に配慮した製品・サービス

製品設計における環境配慮

シスメックスグループでは、お客様製品使用時の省エネルギーや廃棄物の低減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関する規程を制定して、検体検査機器の省電力化、試薬使用量の低減などに向けた技術開発に取り組んでいます。

例えば、多項目自動血球分析装置「XNシリーズ」は、濃縮試薬の使用を前提に設計しています。濃縮化によって試薬のコンパクト化を実現し、容器・包装材料を削減して省資源化に寄与するとともに、検査室で発生する廃棄物を大幅に削減できるようになりました。さらに、従来製品よりも重量や容積が小さくなったことで、輸送効率が向上し、製品のライフサイクルを通じたCO₂排出量削減にも貢献しています。試薬のパッケージを従来のポリエチレンから紙パックに変更したことで、石油資源の節減にもつながっています。

また、2015年9月に発売した全自動尿中有形成分分析装置「UF-5000/4000/3000」においては、環境・安全性に配慮した試薬に切り替えたことで、廃液の中和剤処理が不要になりました。

XNシリーズの試薬は従来試薬の25倍濃縮試薬



原料物質の生産における環境配慮

シスメックスグループでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。また、この技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業から注文をいただいています。

従来、これらの原料は、無菌状態を保ち、温度・酸素濃度などを調整できる環境制御タンクなどの機械設備で哺乳類などの細胞から生産していたため、多くのエネルギーを消費していました。一方、遺伝子組換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、省エネルギーや廃棄物削減も期待できます。



タンパク質生産に用いられるカイコ

有害物質関連法規制への対応

2011年7月に改正RoHS指令[※]が発効し、これによって当社の製品では2016年7月から検体検査機器、動物用検体検査機器に同指令が適用されることとなりました。

シスメックスグループは、この改正RoHS指令への適合に向けて、欧州へ出荷している製品の部品調査および代替品への変更を完了して、2015年度から改正RoHS指令への適合を宣言しました。

[※] RoHS指令: EU（欧州連合）で販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属（鉛、カドミウム、水銀、六価クロム）と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤（PBB、PBDE）の使用全廃を要求したものの。

サービスの効率化による人の移動に伴う環境負荷を低減

シスメックスグループでは、サービスを効率化することで環境負荷の低減を図っています。

例えば、カスタマーサポートセンターの機能をより充実させることによって、お客様からのお問い合わせやサービス依頼に対し、担当者が計画的・効果的にお客様を訪問できるようにしています。

また、お客様の元にある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶSNCS（Sysmex Network Communication Systems）を通じ、リモートサポートや蓄積されたデータの活用などでご使用いただいている機器の状態を事前に把握し、装置ダウンタイムの最小化に取り組んでいます。

これらシステムの機能強化や、新たなサービススキームによってサービスマンの自動車での訪問回数が抑えられ、CO₂排出量の抑制につながっています。2016年度は、SNCSによる故障解決率が約7.5%向上しました。

▶ SNCSについてはこちらをご覧ください。

環境に配慮した調達（グリーン調達）

取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

シスメックスグループでは、「グリーン調達基準」を制定し、取引先とともに環境に配慮した調達を推進しています。環境に配慮した部品・材料の調達を目指し、製品への使用を制限・削減する化学物質をウェブサイトで公開して

います。

また、取引先の選定や調達取引の基本的な考えを示す「調達方針」でも、取引先の皆様にCSRに配慮した活動推進への協力をお願いしています。

▶ [調達方針についてはこちらをご覧ください。](#)

「グリーン調達基準」を制定

シスメックスグループは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

▶ [グリーン調達に関する開示情報の改定・更新履歴 \(PDF : 29.4KB\)](#)

グリーン調達基準

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

1. 目的

シスメックスグループは、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に意欲的なサプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の発展を目指します。

2. グリーン調達の方針

シスメックスグループは、調達活動における、当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤー様も含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため『グリーン調達』を実施します。グリーン調達の具体的な取り組みとして、以下の2項目を推進します。

- 1) 環境負荷が少ない原材料、部品の調達を推進します。
- 2) 環境保全に意欲的なサプライヤー様との取引を拡大します。

3. 適用範囲

シスメックスグループにおける原材料・部品および製品の調達活動に適用する。

4. 製品使用化学物質の管理

シスメックスグループは、開発・製造する製品に使用する原材料・部品の選定にあたっては、必要な品質・機能・経済的合理性に加え、環境負荷を低減するため、以下に示す化学物質を使用していない原材料・部品を採用するものとします。

- 1) 製品に使用する化学物質の制限で定めている禁止物質を含有していないこと
- 2) 製品に使用する化学物質の制限で定めている化学物質の含有量が把握されていること
- 3) 使用にあたり、化学物質、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染発生等の環境負荷が低いこと
- 4) 資材に関する環境情報を公開していること
- 5) 梱包材についても、上記内容と同様、化学物質の含有量削減等がなされていること

以上
2014年11月改定

環境保全活動に意欲的に取り組んでいる調達先を高く評価

シスメックスグループは、社会が抱える重要な課題である地球環境の保全に積極的に取り組んでおり、当社活動の重要性を十分ご認識・ご理解いただいた上で、グリーン調達にご協力をお願いしています。当社は、グリーン調達基準に基づき、品質、価格、納期、技術開発力などに加え、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されているサプライヤー様を高く評価します。サプライヤーの皆様には、以下のご協力をお願いしています。

1. 環境マネジメントシステムの構築と運用のお願い

シスメックスグループは、お取引を開始するにあたり、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されていることを明らかにしていただくため、第三者による環境マネジメントシステム認証の有無を確認させていただきます。

- 1) ISO14001の認証
- 2) 簡易版の環境マネジメントシステムの認証

2. 原材料、部品の環境情報提供のお願い

シスメックスグループは、シスメックスの環境保全活動にご協力いただくため、サプライヤー様に次に示す環境情報の提供をお願いしております。

- 1) 原材料、部品に含まれる有害化学物質データ
- 2) 欧州RoHS規制物質の不使用証明書
- 3) 欧州RoHS規制に適合した原材料、部品の情報

3. サプライヤー様の外注先様に対する環境対応のお願い

シスメックスグループは、サプライヤー様が取引されている外注先様につきましても、環境マネジメントシステムの構築と環境情報の提供にご協力いただくことをお願いしております。この外注先様につきましては、サプライヤー様が責任を持って管理いただくことをお願いしております。

以上
2014年11月改定

禁止物質、削減物質、対象国を明示

グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質（環境負荷物質）への対応について、以下に開示しています。

1. 禁止物質（使用を禁止する物質）2017年5月31日改訂

▶ [禁止物質（PDF/391KB）](#) 

2. 削減物質（削減を必要とする物質）2017年5月31日改訂

▶ [削減物質（PDF/1.07MB）](#) 

3. 対象国一覧（禁止物質・削減物質の根拠となる環境関連法令対応を意図する国および地域）2017年5月31日改訂

▶ [対象国一覧（PDF/156KB）](#) 

環境に配慮した物流

製品の国内・域間物流のCO₂排出量削減活動

グローバルに事業拡大を続けているシスメックスグループは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しおよび梱包改革に取り組んでいます。その中で、海外への製品輸送の航空便から船便への切り替え、製品の梱包サイズ適正化や積載シミュレーションの徹底によるコンテナ積載率向上を推進し、CO₂排出量の削減を進めています。2016年度は、新たにアメリカ向けの輸送上危険物に該当する試薬およびドイツ向けの新製品の輸送方法を航空便からリーファーコンテナ※1などを活用した船便へ切り替えました。これらにより航空便での輸送量を年間で約360t分削減しました。

さらに、輸送回数削減に向けた積載シミュレーションの強化により、2013年度52%であったコンテナ積載率は、2015年度に70%以上にまで改善され、現在も維持しています。

2016年度は、海運会社の破綻による緊急の航空便輸送が増加したため、CO₂排出量（売上高原単位）※2は前年度より増加しましたが、シスメックス・エコビジョン2020の基準年度である2010年度からは32%減少となっています。



リーファーコンテナ

※1 内部を一定の温度に保つ設備を持つコンテナ。

※2 物流におけるCO₂排出量（売上高原単位）は2015年度に原単位を見直しました。

物流におけるCO₂排出量



集計範囲：国内物流倉庫から国内のお客様および海外各地域の港、空港までのCO₂

梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスグループでは、梱包資材の見直しによる省資源化に取り組んでいます。例えば、国内向けの機器製品輸送において、リユース梱包を導入することで、段ボール廃棄物量削減を進めています。2016年度は、新たに6機種にリユース梱包を採用し、年間で約18.6tの段ボール廃棄物量削減に成功しました。

さらに、海外輸送用に導入したスチール製の梱包材は、輸送強度を高めるだけでなく、届け先でリサイクルができ、環境負荷低減にも貢献しています。

返却時に折り畳みができるリユース梱包材の導入



事業所活動における環境負荷低減： 気候変動対策

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

11-2 環境に配慮した事業活動

環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境への影響を意識し、環境に配慮した取り組み（温室効果ガス排出量削減、リサイクル化、廃棄物の削減など）を推進することにより、気候変動への対応等、地球環境の向上に努めなければならない。

気候変動に対する基本的な考え方

地球温暖化による気候変動は深刻化しており、世界的にCO₂排出量削減が求められています。2015年にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、世界196の国・地域は、新たな法的枠組みとなる「パリ協定」に合意し、日本は「2030年までに温室効果ガスの排出量を2013年比で26%削減する」ことを公約しました。

シスメックスグループでは、気候変動問題の解決が持続可能な地球環境に必要であり、人々の豊かな健康社会づくりに貢献すると考えています。そのため、2010年にシスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）を策定し、製品ライフサイクルおよび事業所活動におけるCO₂排出量削減に継続して取り組んでいます。シスメックス・エコビジョン2020は、気候変動・資源循環などの環境問題に関する社会情勢やニーズ・期待、当社の及ぼす環境影響およびその範囲を考慮し取り組むべき課題を抽出し、企業としての環境方針や長期環境目標を定めたものです。2017年には世界の動向を踏まえてさらなる環境負荷低減への貢献を目指し、次なる環境行動計画を策定し活動を推進していきます。

温室効果ガスの排出量削減

事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

各事業所では、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するために、さまざまな活動を進めています。

夏期・冬期の室温管理の徹底、階段照明などへの人感センサーの設置、省エネ空調設備への更新、LED照明の導入など、それぞれの事業所の特性にあった省エネ対策を実施しています。電力監視システム（デマンド監視機能）※を主要な事業所に設置し、電力使用量を総量で把握・管理しています。ソリューションセンターでは、2016年度にガスを使用しない高効率型の空調設備への切り替えを行い、年間CO₂排出量を約36%削減しました。また、シスメックス マレーシアでは、「グリーナーシスメックスポイント」として、通勤時にハイブリッド車を使用している従業員にポイントを付与するなど、エネルギー使用量・CO₂排出量の削減に努めています。



LED照明（小野工場）

2016年度は、生産量の増加、海外拠点の生産設備や人員増強の影響で、温室効果ガス排出量原単位は、前年度比で約1.1%増加となりましたが、シスメックス・エコビジョン2020の目標に対しては、基準年度（2008年度）排出量（連結売上高原単位）から27%削減となっています。

※ 24時間連続して最大需要電力（デマンド値）を計測し設定した目標値を超過しそうになると警報を発信したり、電気の使用状況を日報、月報で報告する機能。

事業所での温室効果ガス排出量



集計範囲: 工場および主要事業所

[工場]

シスメックス（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックスヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックスブラジル、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスインドア、シスメックスアジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス無錫

[主要事業所]

シスメックス（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）、シスメックスヨーロッパ、シスメックスアメリカ、シスメックス上海、シスメックスアジア・パシフィック

国内社用車のCO₂排出量削減

約400台ある国内の社用車による燃料消費量を抑え、CO₂排出量を削減するために、イントラネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図っています。また、低燃費車やハイブリッドカーの導入も進めており、国内社用車からの2016年度CO₂排出量は、前年度比で約2%減少しました。

国内支店、営業所では運転講習会（エコドライブ講習）を実施し、2016年度は、9事業所で開催しました。これらの取り組みの結果、ガソリン使用量が前年度比約2%低減しました。一方、シスメックスメディカでの部品組立の増加に伴い、自社運用しているトラック配送回数が増加し、軽油使用量は前年度比約7%増加しました。

関連法規制の遵守

シスメックスグループは、コンプライアンスおよび環境保全の視点に立ち、環境関連法規制の遵守に取り組んでいます。

その一環として、省エネ法に基づき、シスメックスの年間エネルギー使用量を集計した定期報告書とエネルギー削減計画をまとめた中長期計画書を経済産業省へ提出しています。今後も努力目標達成の維持を目指して、国内グループ全社の省エネルギー活動を推進していきます。

事業所活動における環境負荷低減： 資源循環

廃棄物の管理とリサイクル

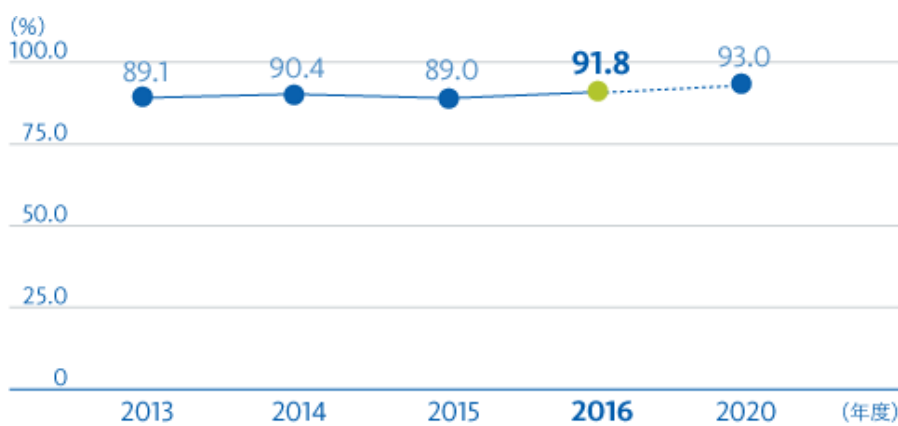
廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

シスメックスグループは、有限である資源の消費を削減して、持続可能な社会づくりへ貢献するため、廃棄物の削減やリサイクル率向上に継続的に取り組んでいます。例えば、シスメックス 無錫では購買品の包装用PE袋を生活用ごみ袋として再利用するなど廃棄物の削減にも取り組んでいます。また、済南シスメックスでは、製造ラインの自動化によって廃棄物排出の削減を実現しています。

この他国内では、社員食堂など生ごみが多く出る場所で生ごみ処理機の活用を進め、生ごみを肥料に変えるなど、各拠点でさまざまな取り組みを継続的に実施しています。2015年度には、テクノパークで埋め立て処理していたガラスくずを道路舗装材料へ再生処理するリサイクルを開始しました。同様にソリューションセンターでは、2016年度からガラスくずのマテリアルリサイクルを開始しました。

事業拡大に伴い、新たな拠点設立や拡張、従業員数の増加などにより廃棄物総量は増加していますが、これらの取り組みにより、グループのリサイクル率は、91.8%と高い水準を維持しています。シスメックス・エコビジョン2020の目標達成に向けてさらなる取り組みを進めていきます。

事業所のリサイクル率



集計範囲: 工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所

[工場]

シスメックス (加古川工場、アイ スクエア)、シスメックス国際試薬 (小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックス ヨーロッパ (ドイツ試薬生産工場)、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所]

シスメックス (本社、テクノパーク、ソリューションセンター)

※ 前年度の報告書から、一部データを修正しています。

水資源の有効利用

水使用量削減と適切な排水処理

シスメックスグループは中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な社会的責任の一つと位置づけて、シスメックス・エコビジョン2020で水使用量の削減の目標を設定し、各拠点で水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。国内試薬工場では、生産効率の改善を進め、工数削減を図るとともに、水使用量を低減しています。シスメックス アジア・パシフィックでは、超純水プラントを改良し工場が稼働していない時間帯を利用してRO水（純水）排水をリサイクルすることで水使用量を前年度比約19%削減しています。シスメックス インディアでは、浄化処理後の工場排水をリサイクルし、工場内の緑地へ引いて水やりを使用しています。これらの取り組みの効果もあり、2016年度の水使用量（生産量原単位）は、前年度から約2%改善しました。シスメックス・エコビジョン2020の目標に対しては、18%増です。

試薬工場での水使用量



集計範囲: 試薬工場 (9拠点)

シスメックス国際試薬 (小野工場、西神工場)、シスメックス ヨーロッパ (ドイツ試薬生産工場)、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

紙使用量の削減

資料の電子データ化を推進

シスメックスでは、PCやタブレット端末、スマートフォンを活用し、ペーパーレス会議など、できるだけ紙の印刷物を使わない効率的な業務活動を推進しています。これによって紙の使用量・廃棄量削減、印刷・配布などの事前準備の工数削減を実現しています。また、事前に資料のデータを出席者に配布できるようになったことで、時間短縮や会議の効率化にもつながっています。さらに、サプライヤー様向けの製品部品図面を、紙ではなく電子データで提示することでも紙使用量を削減しています。

環境（環境への配慮）

事業所活動における環境負荷低減： 汚染防止

化学物質管理

有害物質の貯蔵・使用状況の把握と管理

シスメックスグループは、研究開発や生産工程で化学物質を取り扱っており、紛失・漏えいや従業員の健康被害を予防するため、化学物質の適正管理に努めています。2013年度には、事業領域の拡大や組織変更に伴う化学薬品管理にまつわる事故などのリスクを低減するため、研究開発拠点のテクノパークに薬品管理委員会を設置し、薬品管理体制を強化しました。当委員会の管理の下、関連部門への教育を徹底しています。

また、ソリューションセンターの学術実験室においては「学術本部実験室管理基準」に基づいて薬品管理を徹底しています。

有害廃棄物の排出・排水・大気への排出に関する管理・処理

有害廃棄物の管理・処理

シスメックス国際試薬では製品の原材料として、テクノパークでは研究開発の実験材料として、生物由来の物質を取り扱っています。これらは感染の危険性があるため、万が一に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。2014年度には西神工場で廃棄物置場を改修しました。

排水管理・処理

シスメックスグループでは、化学物質を扱う開発拠点や工場自主基準を設定し、それを超えないように排水管理を行っています。2015年度には、小野工場においてBOD（生物化学的酸素要求量）の警報機を設置するなど、有機物を含む廃液の流出を未然に防ぐシステムを導入しました。

大気への排出に関する管理

国内のシスメックスグループでは、2015年4月1日に改正施行された、フロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを設定し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。

生物多様性保全

生物多様性との関わり

シスメックスグループでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用しており、また他にも事業活動を行うにあたり地球上の生物から多くの恩恵を受けています。そのため、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置づけるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

森林保全活動

「シスメックスの森」を通じて、生物多様性保全に貢献

2013年度から、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」（17ヘクタール）のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名付け、従業員ボランティアによる間伐作業などを実施し、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。2016年度は、10回の活動を実施して、延べ215名が参加しました。

この整備活動では従業員の家族の参加も推奨しており、なかでも子どもたちに対しては、自然との触れ合いを楽しめる専用のプログラムを用意しています。例えば、自分たちの手でペイントした小鳥用巣箱の設置や、挿し木、野菜やシイタケ栽培などの活動を通して、未来を担う子どもたちに、人と自然との関係について考えてもらう機会としています。

また、本活動においては生物多様性保全の観点から、絶滅が危惧される種、希少な野生植物の保存に取り組んでいます。例えば、2014年度に見つかったカスミサンショウウオ[※]については、その生息環境を保全し、3年続けて卵囊（のう）の発生を確認しました。2016年には初めて成体が見つかり、住みやすい環境が保たれていることが確認できました。各地で個体数の減少が進んでいるササユリを栽培し、種の回復に向けた活動を実施しています。2017年には、国連による「国際生物多様性の日」（5月22日）への参加呼びかけの下、環境省・農林水産省・国土交通省が主唱する「グリーンウェイブ」に登録しました。今後も「シスメックスの森」の活動を通して、生物多様性への課題と向き合い、理解・啓発活動を推進していきます。

[※] 環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている小型のサンショウウオ。

- ▶ 従業員ボランティアを促進するための制度についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 「シスメックスの森」についてはこちらをご覧ください。



シスメックスの森
（森林整備活動の参加者）



シスメックスの森（希少な生物の保存）

海外における森林保全活動（アジア・パシフィック地域）

海外でも、関係各社が周辺地域の状況を踏まえ、森林保全活動に取り組んでいます。例えば2015年度には、シスメックス ニュージーランドがモトゥタプ島で在来種の苗木、計902本を植樹しました。モトゥタプ島はニュージーランド北部に位置する島で、多くの自然が残ることで知られています。また、同社では2016年度に環境保護局とモトゥイヘ・トラストが主催するモトゥイヘ島復元プロジェクトに参加し、固有樹木苗の鉢植えや植樹を実施しました。このプロジェクトはヨーロッパ人の開拓により絶滅の危機に瀕したキーウィをはじめとする固有動植物をかつてマオリの人々が住んでいた当時の状態に回復する取り組みで、シスメックスメンバーは引き続きこの活動を支援します。

シスメックス インディアは2016年7月、インド試薬生産工場が操業する地区におけるCSR活動の一環として、植樹活動チームを立ち上げました。植樹活動には全ての従業員が参加し、125本の植樹を行いました。これらの活動は、地方政府開発局からも高い評価をいただいています。

また、インド試薬生産工場は2014年にも、バディ工業地区の環境取り組み企業表彰で、第1位を獲得しました。今後も同様の環境活動を地域の中心となって継続実施していきます。



ニュージーランドでの森林保全活動の参加者



インド試薬生産工場による植樹活動（1）



インド試薬生産工場による植樹活動（2）

ガバナンス

課題認識

近年、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメントに関する企業不祥事の多発と、それに伴う社会的影響がますます大きくなってきています。

このような状況を踏まえ、2015年6月には、企業に対して財務的側面だけでなく非財務側面にも配慮した事業活動を行うことを求める「コーポレートガバナンス・コード」が施行されました。

企業には、ガバナンスおよび内部統制の強化や、経営の基盤強化に向けたコンプライアンスおよびリスクマネジメント体制の強化などが求められています。

シスメックスのアプローチ

シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけ、経営基盤の強化に努めることで、ステークホルダーの皆様からの信頼にお応えするとともに、中長期的な企業価値の向上につなげていきたいと考えています。

このような考え方の下、「監査等委員会設置会社」への移行や社外取締役による監督機能強化、取締役会の実効性向上などのガバナンスの強化を進めています。あわせて、コンプライアンス委員会や内部通報制度の設置、グループ全体でのリスクマネジメント機能強化に向けた体制の整備など、持続的な成長に向けた基盤強化に取り組んでいます。

今後も、経営の健全性、透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指していきます。

▶ [コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。](#)

コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

コンプライアンス体制

「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスグループは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。

「グローバルコンプライアンスコード」は、社内外の環境変化などに対応するため、定期的に見直しを行うこととしており、2017年5月に改定・施行しました。

グローバルコンプライアンスコード

1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

5. 知的財産権の尊重

私たちは、グループの知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

6. 国際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO 中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品ならびに情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

11. 地球環境の保護

私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

2017年5月改定

▶ [グローバルコンプライアンスコード全文についてはこちらをご覧ください。](#)

グループのコンプライアンス推進体制と運用状況について外部機関による評価を実施

社会情勢や各種の法規制を踏まえて、コンプライアンスに関する取り組みや規程の妥当性を確かめ、必要に応じて内容の見直しなどを行っています。2015年度には、グループのコンプライアンス推進体制の強化を目的として、コンプライアンス推進体制と運用状況について、外部機関による評価を実施しました。

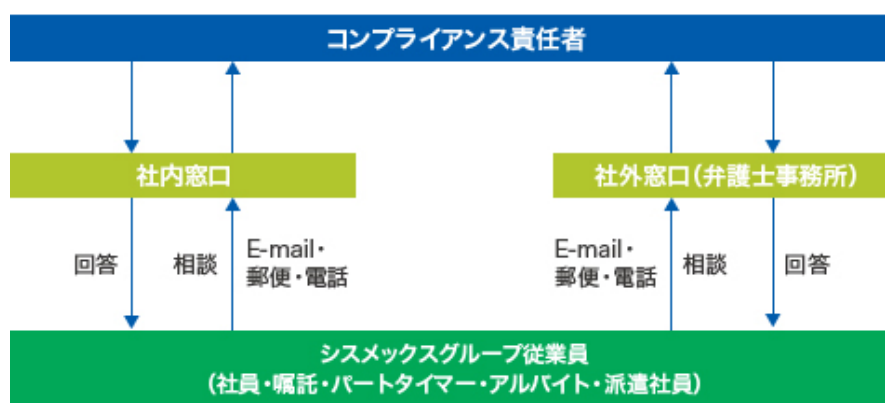
この結果を基に2016年度は、主として海外のシスメックスグループの内部通報制度の改善・拡充を行いました。今後もグループ全体のコンプライアンス推進体制の強化に向け継続的な取り組みを行っていきます。

内部通報制度を設置

シスメックスグループでは、国内外で内部通報制度を設置し、運用しています。

国内においては、内部通報制度「カンパニユラライン」を設置し、コンプライアンス上の問題に関する相談を受け付け、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユラライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電子メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。寄せられた情報は匿名で取り扱い、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。なお、2016年度は13件の相談が寄せられ、それぞれの相談案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。

内部通報制度「カンパニユラライン」



コンプライアンス教育

コンプライアンス教育を継続して実施

シスメックスグループ各社にコンプライアンス責任者を設置し、コンプライアンス教育を実施しています。入社した従業員に、グループにおけるコンプライアンスの考え方やグローバルコンプライアンスコードについて教育しているほか、管理職向けの研修や重点テーマ別のeラーニングを実施するなどしてコンプライアンス意識の浸透・徹底を図っています。

2016年度の主なコンプライアンス教育実績（国内）

- 新たに入社した従業員にコンプライアンス研修を実施
- 新任係長を対象にコンプライアンス研修を実施
- シスメックスCNAの新任役職者を対象にコンプライアンス研修を実施
- グループ会社で贈収賄禁止法に関するeラーニングを実施
- グループ会社で競争法に関するeラーニングを実施

- 「シスメックスプロモーションコード」の改定に伴うeラーニングを実施
- 「シスメックスプロモーションコード」に関する研修を研究開発部門に実施

▶ シスメックスプロモーションコードについてはこちらをご覧ください。

2016年度の主なコンプライアンス教育実績（海外）

- グローバルコンプライアンスコード研修を実施
- 贈収賄禁止法に関するeラーニングを実施
- 競争法に関するeラーニングを実施
- サンシャイン法に関する教育を実施

コンプライアンス

安全保障貿易

体制

管理体制を整備

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードにおいて、各国・地域の輸出関連法令等の遵守を定めており、その内容を基に社内管理規程を制定し、管轄官庁である経済産業省に承認登録されています。

さらに、社長直轄の貿易統括管理組織として安全保障貿易管理委員会を設置し、不正輸出防止のための管理・運営を行っています。また、海外統括現地法人においても安全保障貿易管理の管理者・担当者を置き、グローバルでの体制構築を行っています。

取り組み

管理の徹底と効率化を推進

近年、シスメックスでは、海外の拠点間で製品の輸出を行う機会の増加に伴い、貿易管理の徹底と効率化に向けて、プロセスの変革やシステム化など、複雑化する物流への対応を進めています。

2016年度には新たに、キャッチオール規制チェック（顧客確認）の電子承認システムを導入しました。2015年度に導入した該非判定（規制品目確認）システムと今回の新たなシステムの導入により、安全保障貿易管理の基本のプロセスである「該非判定」と「キャッチオール規制チェック」の双方のシステム化が完了しました。

継続的な教育の実施

シスメックスでは年に1回、全社員を対象とする安全保障貿易管理に関する基礎的なeラーニングを実施しています。さらに、最新の世界情勢や法規制に関する講習会、新たに導入したシステムの説明会などさまざまな教育も継続的に実施し、安全保障貿易管理に対する意識向上を図っています。



研修の様子

コンプライアンス

知的財産管理

知的財産権の尊重に関する方針

シスメックスグループは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。グローバルコンプライアンスコード「5.知的財産権の尊重」に定めたとおり、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりしないことを、グループの全役員・従業員が遵守すべきルールとして、周知徹底を図っています。

▶ [グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。](#)

体制

自社の知的財産権を確保するための出願活動や第三者の知的財産権に対する対応について、新製品の開発プロジェクトごとに、知的財産部門、研究開発部門、事業企画部門などのメンバーがパテントレビューを実施し、審議しています。この活動を通じて、保護すべき自社権利が確実に確保できること、また、尊重すべき第三者の知的財産権に対して適切な対応が取れていることを確認しています。

取り組み

シスメックスでは、研究開発および事業における知的財産活動の重要性を理解してもらうため、研究開発部門、事業企画部門に対して、初級、中級、上級、シニアマネジメントの階層別の知的財産研修を行っています。2016年度は、約200名が受講し、知的財産活動に関する意識向上を図りました。

研究倫理

研究倫理

適正な研究開発活動の実施

シスメックスグループは、臨床研究開発やヒトゲノム・遺伝子の解析研究に取り組む企業として、「人間の尊厳の尊重」「個人情報の保護の徹底」などを基本方針とする「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。また、動物実験および遺伝子組換え実験に関しても、「実験管理委員会」を設置し、実験計画が関連法規制に準拠しているかを厳格に審議しています。

▶ [研究倫理審査委員会の活動についてはこちらをご覧ください。](#)

動物実験に対する配慮

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

4-4 動物実験

動物実験を行うときは、動物愛護に関する各国・地域の法令等を遵守し、代替法の使用を優先的に検討したうえで必要最小限度にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮しなければならない。

シスメックスグループでは、グローバルコンプライアンスコードの「4-4 動物実験」に定めたとおり、動物愛護に関する各国・地域の法令等を遵守し、代替法の使用を優先的に検討した上で必要最小限にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮し、動物実験を行っています。動物実験は社内の業務基準に従って行っており、業務基準は公的な動物実験指針に準拠しています。準拠している指針等は以下のとおりです。

- 動物の愛護及び管理に関する法律
- 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準
- 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針
- 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン

腐敗防止

腐敗防止の方針

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

10-1 贈収賄および過剰な接待等の禁止

お客様や取引先に対し接待、贈物等を提供する場合、また、提供を受ける場合には、節度ある範囲に止め、各国・地域の贈収賄禁止に関連する法令等を遵守しなければならない。

10-2 不適正な政治献金の禁止

政治家または政治団体への政治献金は、政治資金規正法ならびに各国・地域の関連する法令等を遵守しなければならない。また、商取引の獲得・維持、非公開情報の入手など、業務上の何らかの見返りを求めた政治献金を行ってはならない。

シスメックスプロモーションコード

グローバルでのプロモーション活動においては、グローバルコンプライアンスコード「2. 公正な取引と自由な競争の推進」でマーケティングにおける倫理コードを制定しています。さらに、日本における活動については、より詳細かつ具体的な規則を定めた「シスメックスプロモーションコード」を制定しています。2016年度には、業界の自主基準に沿った、適正な臨床研究を行うための行動基準について詳細を定めました。

贈収賄防止に関する規程整備、教育実施

シスメックスグループは、グローバル・コンパクトの10原則の一つである「10. 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の実践に努めています。

国内の関係法令だけでなく、米国や英国、中国などの主要国の法令に関する解説書を作成し、周知啓発活動を行っています。また、世界的な腐敗行為撲滅への機運が高まり、贈収賄禁止に関する各国の法整備・執行強化が進む中で、贈収賄防止を実践するためのグループの基本ルールとして、2016年4月に全グループ会社を対象とした「グローバル贈収賄防止規程」を、また2017年4月には国内グループ会社を対象とした「グループ贈収賄防止規程」を制定しました。規程では禁止事項、デューデリジェンス、管理体制などを規定しています。

また2016年度には、シスメックスグループ全従業員を対象とした、贈収賄禁止に関する教育を実施しました。

医療機関等との関係の透明性確保

はじめに

シスメックスグループは、「ヘルスケアの進化をデザインする。」をグループ企業理念に掲げ、お客様をはじめとする、さまざまなステークホルダーの皆様に安心をお届けすることを目指して事業活動に取り組んでいます。当社では、研究開発から生産、販売、サービス&サポートに至るまでの全ての段階で、医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、私たちの事業活動が高い倫理観に基づいて行われていることを、広く社会からご理解をいただくことが重要であると考えています。

国内の対応



2012年に、一般社団法人日本臨床検査薬協会において企業活動と医療機関等との関係の透明性を確保するためのガイドラインが制定されましたので、会員企業であるシスメックス、シスメックス国際試薬もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開していきます。

公開方法

当社 ウェブサイト等を通じて、各年度の関連情報について公開します。

公開対象

一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等との関係の透明性ガイドライン」に基づきます。

- ▶ 一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等との関係の透明性ガイドライン」(PDF/1.07MB)はこちらをご覧ください。 
- ▶ 医療機関等への資金提供に関する情報についてはこちらをご覧ください。 

海外の対応

米国・フランスでは、企業に対し医療機関等との関係の透明性確保を求める法律（サンシャイン法）が制定されました。シスメックスでは、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を米国・フランス当局に報告・公開しています。

公開方法

米国・フランス当局のウェブサイトにて各年度分の関連情報について公開しています*。

*当社ウェブサイトにも当局サイトで公開されている情報を公開します。

- ▶ サンシャイン法については「2016年度実績データ」をご覧ください。

公開対象

米国

以下相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品および研究）

- ・米国の医師
- ・米国の教育研究病院、医大附属病院

フランス

以下相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品および契約）

- ・フランスの医師、医療専門家、医学生
- ・フランスの医療関連法人（教育機関、企業等）

税務戦略

税の透明性

適切な納税を実施し、情報を開示

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

7. 適切な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

7-1 適切な税務処理

国内外の租税や外国為替関連法令等を遵守し、また、OECDガイドライン等の国際基準を尊重し、常にその正しい理解に努め、適切な税務処理を行わねばならない。

7-2 適正な会計処理

売上計上や経費の支出等の会計処理は、関連法令や社内規定を遵守して適正に行わねばならない。また、伝票や帳簿その他の会計記録は正確に記載し、虚偽や偽装などの不正な処理を行ってはならない。

7-3 公正・透明な財務諸表の作成

財務諸表は、国際会計基準、会社法ならびに関連する法令等を遵守し、公正かつ透明に作成しなければならず、決して粉飾決算等の不正な行為を行ってはならない。

シスメックスグループは、税の透明性の向上を図るため、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7. 適切な会計処理と納税の実施」について定めています。また、海外のシスメックスグループ間取引価格については、国際的なコンセンサスであるOECDガイドラインなどに従って算定しています。

有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

納税実績

▶ [納税実績については有価証券報告書をご覧ください。](#)

アカウンタビリティの推進

行動基準

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

説明責任に関する基本姿勢

シスメックスグループは、株主・投資家の皆様への説明責任（アカウンタビリティ）を果たし、当社経営、事業活動への正しい理解と信用を得るため、業績、財務内容、将来ビジョンや経営戦略を公平、迅速、正確、そしてわかりやすく開示することを基本姿勢とします。

情報開示

株主総会・株主懇談会の開催

シスメックスグループでは、株主の皆様との直接対話の機会を大切に、できるだけ多くの方々に株主総会に参加していただけるよう努めています。株主総会後は株主懇談会を開催し、株主の皆様との対話を深めています。2016年も当社の研究開発トピックス、社会貢献の取り組みやスポーツ活動、そして当社に対する社外評価などについてパネルを用いて説明した後、ご意見・ご質問にお答えしました。

当日、株主総会に出席することが難しい株主の皆様は、書面またはインターネットで議決権を行使いただくことができます。また、総会の招集通知と決議通知の読みやすさにも配慮しています。いずれも海外の方向けに英文版を作成しているほか、招集通知はウェブサイトでも閲覧できます。

2016年度9月には兵庫県芦屋市にある当社の研修所であるグローバル・コミュニケーション・センターで「IR Day 2016 in Okuike」と称した、総勢40名の機関投資家やアナリストの方々とのIRイベントを開催しました。通常のIRインタビューや決算説明会などでは十分に説明できない当社のユニークなカルチャーや、人材から生み出される見えない価値、当社が注力している個別化医療の事業戦略についての説明および質疑応答を実施し、シスメックスグループが目指す中長期の視点での成長のビジョンについてご理解いただきました。また、当日イベントプログラムの一つである、参加者と当社役員が直接対話する情報交換会は、開催後のアンケートでも有意義な意見交換ができたというコメントをいただいています。

今後も継続的に株主様、機関投資家、アナリストとの対話を通じて、企業価値向上を目指したIR活動を実施していきます。



株主懇談会

▶ IR情報についてはこちらをご覧ください。

さらなる情報開示の充実を目指して

シスメックスグループでは、証券取引に関する法令や証券取引所の定める適時開示規則などを遵守することはもとより、当社独自の基準を設け、投資判断に影響を与えると判断した情報を積極的に開示するよう努めています。

年2回の決算説明会（期末・第2四半期決算時）に加え、さらなる情報開示の充実を目指し、第1・第3四半期決算発表時に、カンファレンスコールを開催しています。

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

リスクマネジメント体制

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

シスメックスでは、グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として「リスクマネジメント委員会（RM委員会）」を設置しています。シスメックスの専務執行役員が最高責任者（リスクマネジメントオフィサー）である委員長を務め、メンバーはシスメックスの関連取締役、執行役員で構成されています。

RM委員会では、贈収賄などのコンプライアンス、労働安全衛生、納税を含む会計・財務などさまざまなリスク課題について定期的に評価を行い、グループとして事業に与える影響が大きなリスクを特定して対策を講じています。

また、RM委員会では、コンプライアンス委員会などの関連委員会および各部門・関係会社を実施するリスクマネジメントの状況をモニタリングするとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合は、その対応について審議します。

- ▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。
- ▶ 環境リスクアセスメントについてはこちらをご覧ください。

災害対策

体制

緊急時に迅速に対応できる体制を構築

シスメックスグループでは、災害などの危機発生時における社会的責任の遂行と安定的な製品供給やサービスの提供を実現するために、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画（BCP）を策定しています。BCPでは、危機発生時でも医療機関において当社製品が安定して稼働し続けられるように、供給を優先すべき重要製品を選定しています。また、災害対策基本規程等の災害対応に関する規程やマニュアルを整備し、緊急時に迅速に対応できる体制を整えています。2016年4月に発生した熊本地震においては、実際にマニュアルに基づき災害対策支援本部を発足し、物流対応や機器復旧などを行いました。

緊急連絡手段として「安否確認ツール」を国内グループ会社にも導入し、グループ間での安否確認を迅速に行える体制も整えています。また、国内グループ間の各事業所にはデジタル無線機を設置し、通信途絶の際にも連絡が取れる手段を確保しています。2016年度には、eラーニングによる防災／災害時対応およびBCP周知教育や、安否確認訓練など、初動対応に関する模擬訓練を実施し、事業継続計画の実効性向上を図りました。

シスメックスが運用するグループのIT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一、災害などの発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ移行できるシステム基盤を構築しています。

- ▶ 災害時に備えた対応（BCP）についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 災害被災地への支援についてはこちらをご覧ください。

情報セキュリティ

研修

意識向上とルールの運用定着を目的とする研修を継続的に実施

シスメックスグループでは、お客様や研究開発などの実験に協力いただいた方々からお預かりしている情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つとみなし、その顕在化防止に取り組んでいます。

2016年度には、情報の安心と安全を確保するための方針をより明確にするために、全グループ会社共通の情報セキュリティに関するグローバル規程を制定し、情報漏えいやサイバー攻撃被害への組織的な対策がより強化されました。また、全グループ会社共通のグローバル企業秘密管理規程を制定し、国内関係会社役員を対象に企業秘密管理に関する集合研修を実施するとともに、国内シスメックスグループ全体を対象に企業秘密管理に関するeラーニングを実施しました。

社外からのCSR評価

CSR関連インデックスなどへの組み入れ

世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス（ESG）の非財務の視点から企業の持続可能性（サステナビリティ）を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界ではさまざまなサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックスは持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

- Dow Jones Sustainability World Index^{※1}（2016年度初選定）
- Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index^{※1}（2012年度より）
- FTSE4Good Index^{※2}（2008年度より）
- FTSE Blossom Japan Index^{※3}（2017年度より）
- MSCI Global Sustainability Index^{※4}（2011年度より）
- MSCI Global Socially Responsible Indexes^{※4}（2013年度より）
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数^{※5}（2017年度より）
- MSCI日本株女性活躍指数^{※6}（WIN）（2017年度より）
- Ethibel Excellence^{※7}（2011年度より）
- Ethibel Pioneer^{※7}（2014年度より）
- Ethibel Sustainability Index（ESI）^{※8}（2015年度より）
- Global 100（世界で最も持続可能な100社）^{※9}（2016年度3回目）

※1 米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobeco SAM社が共同開発したESG投資インデックス。企業のサステナビリティを「経済・環境・社会」の側面から評価し、総合的かつ先進的な取組みを行って、長期にわたり持続的な成長が期待される企業を選定している。World Indexは、世界の上場企業が対象。Asia Pacific Indexは、アジア太平洋地域の上場企業が対象。

※2 英国ロンドン証券取引所グループのFTSE Russell社が発表しているESG投資インデックス。世界主要企業の一般に公表されている情報のみを用いたESG（環境・社会・ガバナンス）評価に基づいて、優れた企業を選定している。

※3 英国のFTSE Russell社が、ESG（環境、社会、ガバナンス）について優れた対応を行っている日本企業を選定している。国連の持続可能な開発目標（SDGs）を含む国際基準から導出されたFTSE4Goodの組み入れ基準を活用している。

※4 米国モルガンスタンレーグループのMSCI社（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社）が開発したESG投資インデックス。評価対象企業の産業の特徴を踏まえ、各インデックスの重要度の高いESG課題に絞り込んだ評価に基づいて企業を選定している。

※5 米国MSCI社のESG投資インデックスのひとつ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い企業を選定している。

※6 米国MSCI社のESG投資インデックスのひとつ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業を選定している。

※7 ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発した投資インデックス。企業の社会的責任の観点から高いパフォーマンスを示している企業を選定している。PioneerとExcellenceの2種類があり、Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業がPioneerに組み入れられる。

※8 Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、浮動株時価総額等の制約条件に基づいて、構成されているインデックス。

※9 カナダのコーポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）にあわせて毎年発表される。

MEMBER OF

**Dow Jones
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM



FTSE4Good



MSCI



2016 Constituent
MSCI Global
Sustainability Indexes

外部からの評価、表彰

2014～2016年度 実績

2017年

- 2月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の初年度の認定
- 2月 • 平成28年度 第20回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第20回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2016」）
- 1月 • 2017年版「Global 100」(世界で最も持続可能な100社)に3回目の選出

2016年

- 11月 • 平成28年度近畿地方発明表彰において、「文部科学大臣賞」1件と「発明奨励賞」3件を受賞
- 11月 • シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス マレーシアが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2016」に選出
- 10月 • 日経「人を活かすランキング」にて27位/462社
- 9月 • 女性活躍推進法「えるぼし（最高位の3段階目）」マークの認定
- 9月 • 「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に初選定
- 9月 • 当社の自動血液凝固測定装置が「第5回分析機器・科学機器遺産」に認定
- 9月 • Forbes Japanの「日本を動かす経営者」で5位、「世界で最もイノベティブな企業」28位にランキング
- 8月 • 「世界初・糖鎖を使った肝線維化診断システムの実用化」において、第14回産学官連携功労者表彰「経済産業大臣賞」を受賞
- 6月 • シスメックス国際試薬 小野工場が小野市防火協会優良事業所賞表彰
- 5月 • Confirmit社「ACE-Award」（Voice of Customer部門、Contact Center部門）を受賞（シスメックス アメリカ）
- 3月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work」に選定（シスメックス ヨーロッパ）
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll[※] 2016」に選出（シスメックス アメリカ）
[※] 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業を選出する企業ランキング。NPO 「Center for Companies That Care」の調査による。

2015年

- 12月 • 台湾FDAが法制化を進めるIVD（体外診断用医薬品）業界における「Good Distribution Practice（GDP）※」の体制整備の取り組みが模範であるとして表彰（シスメックス 台湾）
※ 製造業者で生産され、流通・保管を通してお客様に届けられる医薬品が、生産されたときの品質（有効性・安全性）を維持し続けることを保証し、また盗難、事故を避け、偽薬や改ざんされた製品が供給ルート中で混入することを防止するための規範。
- 11月 • 日本IR協議会 第20回「IR優良企業大賞」を受賞
- 10月 • 日本証券アナリスト協会「ディスクロージャー優良企業」および「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 10月 • 近畿地方発明表彰において特許庁長官奨励賞（1件）と発明奨励賞（3件）を受賞
- 10月 • アイスクエアが、加古川市「景観まちづくり賞」デザイン部門で表彰
- 10月 • 日経「人を活かす会社」ランキング 総合24位/454社
- 8月 • 米国「2014ビジョン・アワード」のヘルスケア（機器）部門において「アニュアルレポート2014」がゴールド賞を受賞
- 7月 • アジアの働きやすい会社「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2015」に選定（シスメックス アジア・パシフィック）
- 6月 • 「血液凝固分析装置」と「作業手順表示方法および作業手順表示システム」が平成27年度兵庫県発明賞を受賞
- 5月 • Confirmit社「ACE-Award」を受賞（シスメックス アメリカ）
- 4月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work Brazil」に選定（シスメックス ブラジル）
- 3月 • 第18回環境コミュニケーション大賞において「シスメックスあんしんレポート2014」が優良賞を受賞
- 3月 • 東洋経済『新入社員に優しい「ホワイト企業」トップ300』1位に選出
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2015」に選出（シスメックス アメリカ）

2014年

- 12月 • 日経「NICES」総合ランキング73位/538社
- 10月 • 近畿地方発明表彰において文部科学大臣発明奨励賞（1件）と発明奨励賞（3件）を受賞
- 10月 • 日経「人を活かす会社」ランキング総合30位/439社
- 10月 • 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 8月 • 「自動血球計数装置CC-1001」が「第3回分析機器・科学機器遺産」に認定
- 7月 • 「市民の健康増進・栄養改善思想の向上に寄与」したとして神戸市より表彰
- 6月 • 「直接核酸増幅法の発明」と「液体吸引監視方法」が平成26年度兵庫県発明賞を受賞
- 5月 • Confirmit社「ACE-Award」を受賞（シスメックス アメリカ）
- 4月 • 「尿中有形成分分析方法の開発」が平成26年度文部科学大臣表彰の科学技術賞（開発部門）を受賞
- 4月 • バディ工場が地元の環境表彰で1位を受賞（シスメックス インディア）
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2014」に選出（シスメックス アメリカ）
- 3月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work」 50位/100社（シスメックス ヨーロッパ）

CSR中期計画(2016年度実績)

区分	CSR中期課題	施策	2016年度の計画
組織統治	グローバルリスクマネジメント体制の強化	グローバルリスクマネジメント体制の浸透	・グローバルリスクマネジメント体制の評価・見直し
		グループの重要リスクへの対応強化	・グループの重要リスク（情報漏えい、公正な取引、事業継続）への対応継続 ・リスクアセスメントによる新たな重要リスクの選定と対策推進
組織統治	コンプライアンス体制の強化	コンプライアンスの徹底および適用拡大	・法令遵守条項付き契約の適用範囲の拡大
		グローバルコンプライアンス体制の強化	・2015年度の外部専門家評価結果に基づく改善策の立案・実施
人権・労働慣行	多様な人材の育成・登用	女性の活躍促進	・女性の働きがい・活躍促進環境の整備（在宅勤務制度の試行、キャリア動機付け支援施策の実施など）
		多様なグローバル人材の獲得	・外国人材採用の継続（2015年度採用比率の継続）
	グローバルタレントマネジメントの推進	・グローバル人材育成プログラムの継続実施	
人権・労働慣行	魅力的かつ働きやすい職場環境の維持・向上	従業員満足度の向上	・企業風土調査結果に基づく施策の立案・実施
環境	製品・サービスおよび事業所活動の環境負荷の低減（シスメックス・エコビジョン2020の目標達成を含む）	製品・サービスの環境配慮推進	・製品・サービスの温室効果ガス排出削減の継続推進
		事業活動の環境負荷の低減	・エネルギー・廃棄物・水資源使用の継続的削減
公正な事業慣行	CSR調達の推進	CSR調達の継続的推進	・取引先に対する紛争鉱物調査の実施
消費者課題	お客様満足度の向上	グローバルなお客様満足度評価体制の整備	・中国でのお客様満足度調査の実施 ・2015年度に実施したお客様満足度調査結果に基づく対応実施
コミュニティへの参画・発展	社会貢献活動の推進	社会貢献方針に基づく企業市民活動の実施	・社会貢献活動の継続実施 ・社会貢献ポイント制度の推進による従業員ボランティアの拡大

注) CSR中期課題のうち、「グローバルリスクマネジメント体制の強化」「コンプライアンス体制の強化」「製品・サービスおよび事業所活動の環境負荷の低減」「お客様満足度の向上」の対象範囲は、シスメックスおよび国内外のシスメックスグループ。その他のCSR中期課題の対象範囲は、シスメックスおよび国内のシスメックスグループ。

2016年度の結果	進捗状況※1	対応するG4※2の側面
<ul style="list-style-type: none"> 日本・海外統括現地法人のリスクマネジメントの課題抽出および改善提案実施 リスクマネジメント責任者・実務担当者向けの集合研修実施 	○	
<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティに関するグローバル規程を制定 情報セキュリティ対策の強化および情報管理に関する教育・啓蒙実施 日本および海外統括現地法人において、競争法および反贈収賄に関する教育を実施 リスクアセスメントを実施し、新たな重要リスクの選定を完了 	○	<ul style="list-style-type: none"> 間接的な経済影響 腐敗防止
<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守条項付き契約の適用範囲の拡大 (シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ブラジル、シスメックス 無錫) 	○	<ul style="list-style-type: none"> 腐敗防止 コンプライアンス 社会への影響に関する苦情処理制度
<ul style="list-style-type: none"> アメリカ、アジア・パシフィックでの内部通報制度の多言語対応 法令動向調査ツールの国内グループ会社への導入 コンプライアンス体制の外部専門家評価の実施 	○	
<ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務制度の試行 ダイバーシティマネジメント研修の全社展開 経験者との対話の場としてダイバーシティラウンドテーブルを開催 	○	
<ul style="list-style-type: none"> 外国籍社員採用比率18.5% 	○	<ul style="list-style-type: none"> 雇用 研修および教育 多様性と機会均等
<ul style="list-style-type: none"> マネジメント強化研修の実施 体系的な英語スキル研修の開始 若手・中堅社員向け海外研修の継続実施 	○	
<ul style="list-style-type: none"> 企業風土調査結果に基づき、改善課題に対するアクションプランを策定・実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> 雇用
<ul style="list-style-type: none"> 輸送効率向上により、物流CO2排出量（単体売上高原単位）は、対基準年度33%削減。ただし緊急輸送対応により前年度から増加 機器製品の新製品開発において省電力・小型化を推進 サービス依頼へのリモート対応および電話対応の能力向上を継続（車両出張サービスの低減） 	△	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー 大気への放出 製品およびサービス 輸送・移動
<ul style="list-style-type: none"> 生産効率の改善、高効率型空調設備への切り替え、再生可能エネルギーへの転換、太陽光発電の利用などにより、温室効果ガス排出量（連結売上高原単位）は対基準年度27%削減 廃棄物処理方法の見直しなどによるリサイクル率の維持（91.8%） 水使用は、RO水（純水）排水の再利用などを実施。ただし、試薬生産量の増加に伴い、水使用量（生産量原単位）は、対基準年度118%と未達 	△	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー 水 大気への放出 排水および廃棄物
<ul style="list-style-type: none"> 取引先に対する紛争鉱物調査の実施 取引先に対するCSR調査の実施（対象：国内既存取引先約280社） 	○	<ul style="list-style-type: none"> 調達慣行 サプライヤーの環境評価 サプライヤーの労働慣行評価 サプライヤーの人権評価 サプライヤーの社会への影響評価
<ul style="list-style-type: none"> 中国でのお客様満足度調査を完了 2015年度に実施したお客様満足度調査結果に基づき、海外統括現地法人ごとのお客様満足度モニター体制を構築 	○	<ul style="list-style-type: none"> 製品およびサービスのラベリング
<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動の継続実施（シスメックスの森、みなと異人館の公開、神戸マラソンへの協賛、献血、地域清掃など） 社会貢献ポイント制度への従業員参加率32%。制度により137万円を途上国の子どもたち、小児がん患者とそのご家族の支援団体に寄付実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティ

※1 「進捗状況」は、2016年度の計画に対する状況を示す。（○＝計画通り △＝一部未達）

※2 GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」

2016年度実績データ

社会性データ

お客様関連

項目	2014年度	2015年度	2016年度	関連記事
シスメックスものづくり トレーニングセンターでの 教育受講者数（延べ人数）	942	1,031	699	詳細
シスメックスカスタマー サポートセンターへの お問い合わせ（件）	95,767	95,929	88,909	詳細
シスメックスカスタマー サポートセンターに対する お客様満足度※（％） ※ シスメックスによる調査。	91.6	93.7	98.3	詳細
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ シスメックス アメリカによる調査。	9.1	9.1	9.2	詳細
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ IMV Service Trackによる調査。	9.18	9.09	9.32	詳細

従業員関連（シスメックスの実績数値）

項目		2014年度	2015年度	2016年度	関連記事
新卒採用	合計（名）	61	59	68	詳細
	うち男性（名）	40	40	38	
	うち女性（名）	21	19	30	
	うち外国人（名）	12	12	15	
中途採用	合計（名）	69	70	73	詳細
	うち男性（名）	47	50	56	
	うち女性（名）	22	20	17	
	うち外国人（名）	1	1	4	
離職※ ※ 正社員のみ、定年退職を除く。	離職者（名）	42	40	74	-
	離職率（%）	1.96	1.97	3.22	
障がい者雇用	雇用者数（名）	47	50	54	詳細
	雇用率（%）	1.86	1.82	1.94	
定年退職者再雇用	希望者（名）	20	25	22	詳細
	再雇用者（名）	20	25	22	
	再雇用率（%）	100	100	100	
育児・介護理由の退職者再雇用	新規登録者（名）	5	6	5	詳細
	再雇用者（名）	1	1	0	
	再雇用率（%）	20	17	0	
正社員への登用実績	契約社員（名）	15	17	7	詳細
	派遣社員（名）	4	2	4	
	合計（名）	19	19	11	
労働災害	労災による死亡（名）	0	0	0	詳細
	労災によるけが（名）	3	7	3	
	労働災害度数率	0.58	1.27	0.53	
	労働災害強度率	0.00	0.07	0.09	
	延べ労働損失日数（日）	20	386	494	
	延べ実労働時間数（時間）	5,129,491.25	5,499,593.25	5,641,249.00	
有給休暇	付与日数（日）	47,000	49,534	51,667	詳細
	取得日数（日）	22,255.5	27,605.5	31,305.0	
	取得率（%）	47.4	55.7	60.6	
産前産後休職利用者（名）		48	39	48	

育児休業利用者	女性（名）	41	32	56	詳細
	男性（名）	3	2	3	
育児のための勤務時間短縮制度利用者	女性（名）	50	50	47	
	男性（名）	0	0	0	
介護休業利用者	女性（名）	1	1	2	
	男性（名）	0	1	0	
育児休業からの復帰率	女性（％）	100	100	98	
	男性（％）	100	100	100	
積立有給休暇利用者（名）		26	77	78	
フレックスタイム利用者（名）		1,678	1,742	1,949	
社内託児所利用児童	年間延べ（名）	34	33	32	
	年度末時点（名）	23	28	26	
研修実績※ ※ 2013年度分より派遣社員・アルバイト・役員などを除く。	従業員1人当たり費用（円）	157,789	179,000	108,000	詳細
	従業員1人当たり時間（時間）	28.2	22.6	19.4	
	研修プログラム数（個）	22	23	23	
インターンシップ生受け入れ人数	合計（名）	124	157	135	詳細
	うち外国人（名）	3	5	1	

注) 定義の変更に伴い、過去の開示データから一部修正しています。

従業員関連（シスメックスグループの実績値）

項目		2014年度	2015年度	2016年度	関連記事
女性管理職比率 （課長級以上）	シスメックス（％）	6.5	8.3	8.8	詳細
	グループ全体（％）	11.6	14.3	16.2	

項目			2016年度	
グループ 男女比率	日本	男性 (%)	59.8	正社員、受入出向者、有期雇用 (役員、派遣社員除く)
		女性 (%)	40.2	
	米州	男性 (%)	62.4	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (%)	37.6	
	EMEA※	男性 (%)	55.7	
		女性 (%)	44.3	
	中国	男性 (%)	65.2	
		女性 (%)	34.8	
	アジア・ パシフィック	男性 (%)	59.9	
		女性 (%)	40.1	

項目			2016年度	
グループ 従業員数	日本	男性 (名)	2,079	正社員、受入出向者、有期雇用 (役員、派遣社員除く)
		女性 (名)	1,398	
	米州	男性 (名)	670	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (名)	404	
	EMEA※	男性 (名)	1,214	
		女性 (名)	966	
	中国	男性 (名)	359	
		女性 (名)	192	
	アジア・ パシフィック	男性 (名)	388	
		女性 (名)	260	

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

社会貢献活動関連













項目	2016年度
社会貢献支出額 (シスメックス)	約2億9,000万円

項目	2014年度～2015年度
世界がん研究基金への寄付額 (EMEA※の各グループ会社) ※ 欧州・中東・アフリカ地域。	約3,150万円







項目	2014年度～2016年度	関連 記事
がん関連団体への寄付額 (シスメックス アメリカ)	175,000 (米ドル)	詳細

環境データ

マテリアルバランス

INPUT				
		2014年度	2015年度	2016年度
1	 電気使用量 (千kwh)	35,988	37,476	37,403
1	 都市ガス (千m ³)	852	1,544	1,474
1	 LPG (t)	15.1	19.4	21.1
1	 LNG (m ³)	0	0	0
1	 重油 (kL)	0	0	0
1	 灯油 (kL)	70	35	31
1	 軽油 (kL)	19	19	21
4	 国内社用車ガソリン (kL)	778	750	734
4	 国内社用車軽油 (kL)	19.7	23.5	25.1
3	 水使用量 (千m ³)	368	391	406
5	 OA用紙 (t)	49	44	42
4	 PRTR (t)	0.15	0.13	0.06



OUTPUT				
		2014年度	2015年度	2016年度
1	 事業所温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	21,431	24,035	22,760
4	 国内社用車ガソリン (t-CO ₂)	1,856	1,802	1,768
6	 廃棄物等総排出量 (t)	1,557	1,701	2,106
2	 リサイクル率 (%)	90.4	91.9	91.1
3	 水排出量 (千m ³)	164	192	189
4	 PRTR (t)	0	0	0.02

- ① 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
 [国内主要事業所]シスメックス（本社・テクノパーク・ソリューションセンター）
 [国内機器工場]シスメックス（加古川工場・アイスクエア）、シスメックスメディカ、シスメックスRA
 [国内試薬工場]シスメックス国際試薬（小野工場・西神工場）
 [国内営業拠点]シスメックス
 1支社（東京）、6支店（仙台・北関東・名古屋・大阪・広島・福岡）、13営業所（札幌・盛岡・長野・新潟・千葉・横浜（2015年度から対象）・静岡・金沢・京都・神戸・高松・岡山・鹿児島）、1サービスセンター（首都圏サービスセンター）、シスメックスCNA
 [国内その他事業所]シスメックス（研究開発センター・タンパク質開発センター・BMAラボラトリー・グローバルコミュニケーションセンター（2015年度から対象）・走心寮（2015年度から対象））
 [海外主要拠点]シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック
 [海外試薬工場]シスメックス ヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫
- ② 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
 （1を参照）
- ③ 国内主要事業所（本社除く）、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
 （1を参照）
- ④ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
 （1を参照）
- ⑤ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場
 （1を参照）
- ⑥ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外試薬工場
 （1を参照）

シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020） 実績（集計範囲については各関連記事に記載）

項目	2014年度	2015年度	2016年度	関連記事
物流におけるCO ₂ 排出量 単体売上高原単位（t-CO ₂ /億円）	4.170	3.794	4.937	詳細
事業所での温室効果ガス排出量 連結売上高原単位（t-CO ₂ /億円）	7.28	7.26	7.36	詳細
事業所のリサイクル率（%）	90.4	89.0	91.8	詳細
試薬工場での水使用量 生産量原単位（m ³ /千箱）	21.4	25.9	25.4	詳細

主な環境負荷に関わる指標と実績 (※1)

シスメックスグループ環境行動計画 シスメックス・エコビジョン2020 に関するデータ

側面	内容			単位	適用対象(※3)	基準年度		
						年度	データ	
製品・サービス等の環境配慮	温室効果ガス排出量 GHGスコープ3 (※2)	物流におけるCO ₂ 排出量	製品の国内への物流	t-CO ₂	シスメックス	2010	5,399.84	
			製品の海外への物流			2010		
		物流におけるCO ₂ 原単位排出量	製品の国内および海外への物流	t-CO ₂ /億円		2010	7.252	
		原単位分母	シスメックス単体売上高	億円		2010	744.60	
事業所の環境配慮	温室効果ガス排出量 GHGスコープ1+ スコープ2 (※2)	総排出量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場	2008	7,080.93	
					海外主要拠点、海外試薬工場	2008	4,191.63	
		原単位総排出量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	t-CO ₂ /億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外試薬工場	2008	10.7	
		原単位分母	連結売上高	億円	—	2008	1,118.42	
	廃棄物の排出量	総排出量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外試薬工場	2008	872.28	
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物				2008	670.78	
		リサイクル率(エネルギー回収を含む)廃棄物				%	2008	76.9
	水使用量	地下水		千m ³	国内試薬工場	2008	—	
					海外試薬工場	2008	—	
		水道			国内試薬工場	2008	—	
		海外試薬工場	2008		—			
総使用量				2008	228.35			
原単位総使用量		m ³ /千箱	国内試薬工場、海外試薬工場	2008	21.5			
	原単位分母	生産箱数	千箱		2008	10,625.87		

2012年度 データ	2013年度 データ	2014年度 データ	2015年度 データ	2016年度		カバー率 母集団(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
				データ	カバー率(※4)			
1,145.00	1,237.00	1,112.00	1,213.00	1,181.51	-	-	日本の各工場から物流倉庫まで、物流倉庫から国内お客様など(支店・営業所を含む)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	G4-EN17 G4-EN18
4,528.00	4,251.00	3,971.00	4,222.00	5,682.54	-	-	物流倉庫から日本の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量(海外顧客向け)、日本の港(空港)から海外各地域の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	
6.508	5.348	4.170	3.794	4.937	-	-		
871.71	1,026.17	1,218.94	1,432.43	1,390.40	-	-		
7,450.00	7,532.00	8,138.00	8,240.00	7,669.30	34.54%	8,217	エネルギーの種類ごとの使用量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):(化石燃料)地球温暖化対策法に基づく2008年度のCO ₂ 排出係数。都市ガスについては大阪ガスから供給されるガス(13A)を前提(海外事業所についても同じ係数を適用) (電力)地球温暖化対策法に基づく、各工場・事業所の供給元の電力会社が公表する2008年度のCO ₂ 排出係数(クレジット調整前のもの)	G4-EN15 G4-EN18
5,106.00	7,199.00	7,980.00	10,130.00	10,719.50	28.32%	8,217	エネルギーの種類ごとの使用量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):(化石燃料)地球温暖化対策法に基づく2008年度のCO ₂ 排出係数。都市ガスについては大阪ガスから供給されるガス(13A)を前提(海外事業所についても同じ係数を適用) (電力)GHGプロトコル(WBCSD/WRI)に記載の国別排出係数(2005年)	
8.63	7.98	7.28	7.26	7.36	62.86%	8,217		
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	-	-		
962.60	1,056.90	1,341.20	1,502.80	1,347.08	39.97%	8,217	廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものの量。 リサイクル率(%)=(廃棄物再資源化量+有価物売却量)÷(産業廃棄物+一般廃棄物+有価物売却量)×100(%)	G4-EN23
863.50	941.60	1,212.60	1,338.00	1,237.12				
89.7	89.1	90.4	89.0	91.8				
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	24.87%	1,122	自家用地下水使用量。	G4-EN8
9.37	8.46	9.25	9.70	12.70	75.13%	1,122		
67.89	66.72	66.00	63.00	66.11	24.87%	1,122	上水使用量、工業用水使用量。	
161.88	174.02	188.56	216.90	223.41	75.13%	1,122		
239.14	249.20	263.81	289.60	302.23	100%	1,122		
20.8	22.0	21.4	25.9	25.4				
11,489.00	11,305.00	12,327.00	11,177.00	11,905.80	-	-	試薬工場で製造された当社専用試薬の年間生産箱数。	

環境パフォーマンスに関するデータ

側面	内容		単位	適用対象 ^(※3)	
INPUT	エネルギー消費量	非再生可能エネルギー消費量	電力(非再生可能)	千kwh	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
			都市ガス	千m ³	
			LPG	t	
			LNG	t	
			重油	kL	
			灯油	kL	
			軽油	kL	
		再生可能エネルギー消費量	電力(再生可能)	千kwh ^(※1)	
		総消費量		GJ	
		その他非再生可能エネルギー消費量	ガソリン(社用車)	kL	
	軽油(社用車)				
	非再生可能エネルギー原単位消費量	電力(非再生可能)	千kwh/億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
		都市ガス	千m ³ /億円		
		LPG	t/億円		
		LNG	t/億円		
		重油	kL/億円		
		灯油	kL/億円		
		軽油	kL/億円		
	再生可能エネルギー原単位消費量	電力(再生可能)	千kwh/億円 ^(※1)		
	原単位総消費量		GJ/億円		
原単位分母	連結売上高	億円	—		
エネルギー消費の削減量	非再生可能エネルギー消費削減量 ^(※1)	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	GJ	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
		再生可能エネルギー消費削減量			電力
	総消費削減量				
	非再生可能エネルギー原単位消費削減量 ^(※1)	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力			GJ/億円
	再生可能エネルギー原単位消費削減量 ^(※1)	電力			
	原単位総消費削減量				
水使用量	地下水	千m ³	国内主要事業所(本社除く)、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場		
	水道				
	総使用量				
	原単位総使用量	m ³ /億円			
	原単位分母	連結売上高		億円	—

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	カバー率 母集団(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
データ	データ	データ	データ	データ			
27,573.43	31,525.65	35,779.00	37,233.00	37,193.25	73.42%	8,217	G4-EN3
1,043.92	1,185.34	851.98	1,543.97	1,473.61			
11.65	12.38	15.11	19.39	21.09			
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
62.44	67.60	70.17	35.02	30.65			
19.04	18.72	18.91	18.84	21.17			
81.88	100.46	209.42	243.00	210.01			
322,405.78	368,227.36	395,042.86	439,653.70	440,124.47			エネルギーの種類ごとの消費量に換算係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。
748.47	794.69	777.51	749.86	733.66	45.10%	8,217	G4-EN5
3.34	11.72	19.68	23.53	25.10			
18.941	17.084	16.162	14.707	14.883	73.42%	8,217	G4-EN5
0.717	0.642	0.385	0.610	0.590			
0.008	0.007	0.007	0.008	0.008			
0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			
0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			
0.043	0.037	0.032	0.014	0.012			
0.013	0.010	0.009	0.007	0.008			
0.056	0.054	0.095	0.096	0.084			
221.468	199.540	178.449	173.668	176.121			
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	-	-	
-	▲ 45,821.51	▲ 26,815.11	▲ 44,610.71	▲ 470.89	73.42%	8,217	G4-EN6
-	▲ 0.07	▲ 0.39	▲ 0.12	0.12			
-	▲ 45,821.58	▲ 26,815.50	▲ 44,610.84	▲ 470.77			
-	21.927	21.091	4.780	▲ 2.453	73.42%	8,217	G4-EN8
-	0.000	0.000	0.000	0.000			
-	21.927	21.091	4.780	▲ 2.453			
48.86	44.47	51.24	50.29	58.30	38.52%	8,217	G4-EN8
281.68	299.94	316.97	340.80	347.79			
330.54	344.40	368.21	391.09	406.09			
227.054	186.630	166.329	154.486	162.502			
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	-	-	

側面	内容		単位	適用対象 ^(※3)	
INPUT	OA用紙使用量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場	
	PRTRインプット	取扱量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
OUTPUT	温室効果ガス排出量 GHGスコープ1 ^(※2)	国内	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
		海外			海外主要拠点、海外試薬工場
		総排出量		t-CO ₂ /億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
		原単位総排出量			—
		原単位分母	連結売上高	億円	—
	温室効果ガス排出量 GHGスコープ2 ^(※2)	国内	電力	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
		海外			海外主要拠点、海外試薬工場
		総排出量		t-CO ₂ /億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
		原単位総排出量			—
		原単位分母	連結売上高	億円	—
	温室効果ガス排出量 GHGスコープ3 ^(※2)	物流におけるCO ₂ 排出量	製品の国内への物流	t-CO ₂	シスメックス
			製品の海外への物流	t-CO ₂	
		物流におけるCO ₂ 原単位排出量	製品の国内および海外への物流	t-CO ₂ /億円	
		原単位分母	シスメックス単体売上高	億円	
		社用車CO ₂ 総排出量		t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
社用車CO ₂ 原単位総排出量		t-CO ₂ /億円			
原単位分母		シスメックス単体売上高	億円	シスメックス	

2012年度 データ	2013年度 データ	2014年度 データ	2015年度 データ	2016年度		カバー率 母集団(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
				データ	カバー率(※4)			
53.14	50.46	48.79	44.48	41.69	34.54%	8,217		
7.16	7.88	0.15	0.13	0.06	45.10%	8,217	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR取扱量。	
917.40	1,096.70	806.50	865.00	501.00	45.10%	8,217	エネルギーの種類ごとの消費量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	G4-EN15 G4-EN18
1,613.90	2,147.70	1,430.20	2,892.10	3,057.60	28.32%	8,217	エネルギーの種類ごとの消費量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
2,531.30	3,244.40	2,236.70	3,757.10	3,558.60	73.42%	8,217		
1.739	1.758	1.010	1.484	1.424				
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99			-	
9,915.80	11,869.90	12,635.30	13,040.60	11,915.90	45.10%	8,217	各事業所の電力使用量に電力会社ごとの排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	G4-EN16 G4-EN18
3,540.40	5,099.30	6,559.20	7,237.50	7,285.40	28.32%	8,217	各事業所の電力使用量に国ごとの排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):GHGプロトコル(WBCSD/WRI)に記載の国別排出係数(2005年)。	
13,456.20	16,969.20	19,194.50	20,278.10	19,201.30	73.42%	8,217		
9.243	9.196	8.671	8.010	7.684				
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99			-	
1,145.00	1,237.00	1,112.00	1,213.00	1,181.51	-	-	日本の各工場から物流倉庫まで、物流倉庫から国内お客様など(支店・営業所を含む)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	G4-EN17 G4-EN18
4,528.00	4,251.00	3,971.00	4,222.00	5,682.54	-	-	物流倉庫から日本の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量(海外お客様向け)、日本の港(空港)から海外各地域の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	
6.508	5.348	4.170	3.794	4.937	-	-		
871.71	1,026.17	1,218.94	1,432.43	1,390.40	-	-		
1,746.58	1,830.26	1,856.25	1,802.01	1,768.43	45.10%	8,217	日本国内における社用車のガソリン、軽油の消費量にそれぞれ排出係数を乗じ、総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
2.004	1.784	1.523	1.258	1.272				
871.71	1,026.17	1,218.94	1,432.43	1,390.40	-	-		

側面	内容		単位	適用対象 ^(※3)
OUTPUT	廃棄物の排出量	総排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外試薬工場
		総排出量(国内営業拠点含まない)	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
		マテリアルリサイクル廃棄物		
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物		
		マテリアルリサイクル率	%	
	リサイクル率(エネルギー回収を含む)			
	水排出量	総排出量	千m ³	国内主要事業所(本社除く)、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
PRTRアウトプット	排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
	移動量			
コンプライアンス	環境法規制の違反	高額罰金の総額	億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
		罰金以外の制裁措置総件数	件	
	重大な化学物質の漏出・紛失	総件数	件	
		総漏出量	t	

(※1) 一部計算式、単位表記に誤りがあったため、前年度の報告書から修正しています。

(※2) GHG スコープ1: 企業の施設や工場から直接排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。(社用車の使用は含まない。)

GHG スコープ2: エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。

GHG スコープ3: 商品・サービスに関わる企業群(サプライチェーン)全体から排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。(社用車の使用を含む。)

2012年度 データ	2013年度 データ	2014年度 データ	2015年度 データ	2016年度		カバー率 母集団 ^(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
				データ	カバー率 ^(※4)			
1,163.91	1274.16	1,556.76	1,701.35	2,105.50	48.02%	8,217		
1,018.74	1,109.82	1,419.19	1,534.63	1,436.45	44.06%	8,217	廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量。 燃料化(RPFなど)したものも含む。 廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマル リサイクル)したものの量。	G4-EN23
536.02	600.51	788.13	986.44	814.25				
907.96	988.45	1,282.60	1,410.97	1,308.91				
52.62	54.11	55.53	64.28	56.68				
89.13	89.06	90.38	91.94	91.12				
145.11	144.36	163.83	191.66	188.75	38.52%	8,217		G4-EN22
0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	45.10%	8,217	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量。	
0.70	4.84	0.00	0.00	0.00			化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量。	
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	73.42%	8,217		G4-EN29
0	0	0	0	0				
0	1	0	0	0				
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				

(※3) 国内主要事業所：シスメックス（本社・テクノパーク・ソリューションセンター）

国内機器工場：シスメックス（加古川工場・アイスクエア）、シスメックスメディカ、シスメックスRA

国内試薬工場：シスメックス国際試薬（小野工場・西神工場）

国内営業拠点：シスメックス（1支社（東京）、6支店（仙台・北関東・名古屋・大阪・広島・福岡）、13営業所（札幌・盛岡・長野・新潟・千葉・横浜（2015年度から対象）・静岡・金沢・京都・神戸・高松・岡山・鹿児島）、1サービスセンター（首都圏サービスセンター）、シスメックスCNA

国内その他事業所：シスメックス（研究開発センター・タンパク質開発センター・BMAラボラトリー・グローバルコミュニケーションセンター（2015年度から対象）・走心寮（2015年度から対象））

海外主要拠点：シスメックスヨーロッパ、シスメックスドイツ、シスメックスアメリカ、シスメックス上海、シスメックスアジア・パシフィック

海外試薬工場：シスメックスヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックスブラジル、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスインド、シスメックスアジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス無錫

(※4) カバー率は、従業員数を基に算出。

(※5) カバー率母集団は、グループ従業員数。ただし、シスメックス環境行動計画シスメックス・エコビジョン2020>事業所の環境配慮>水使用量のみ、グループ試薬工場従業員数。

2016年度実績データ

ガバナンスデータ

医療機関等への資金提供等に関する情報※

米国 サンシャイン法

種類		2014年	2015年	2016年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	450	443	242
	金額	US \$186,645	US \$190,638	US \$137,658
研究	件数	8	7	21
	金額	US \$194,150	US \$76,061	US \$209,370

フランス サンシャイン法

種類		2014年	2015年	2016年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	365	226	223
	金額	€ 42,856	€ 14,367	€ 29,542
契約	件数	3	4	11

フランスのサンシャイン法では、契約金額は公開対象ではありません。

※ 当情報は、行政当局または医療機関等による確認等を通じ、公開後に修正されることがあります。

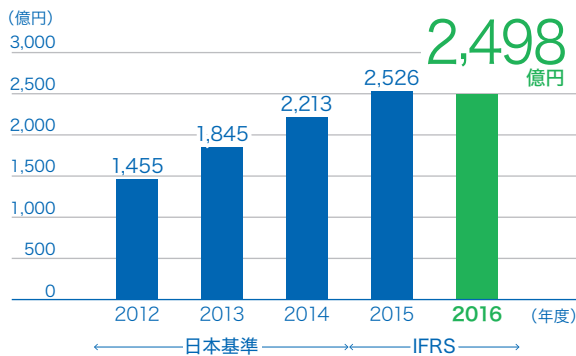
▶ [コーポレート・ガバナンスの詳細についてはこちらをご覧ください。](#)

会社概要

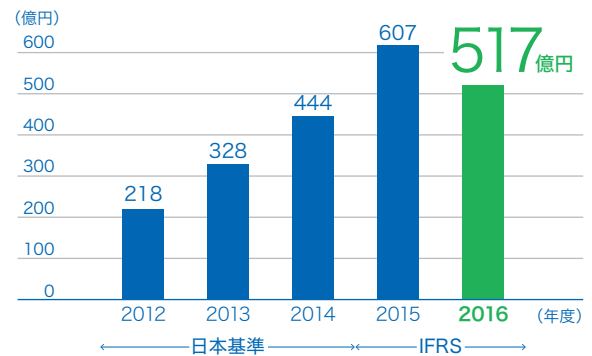
(2017年3月31日現在)

<p>社名 シスメックス株式会社</p> <p>設立 1968年2月20日</p> <p>資本金 116.11億円</p> <p>代表者 代表取締役会長兼社長 家次 恒</p>	<p>本社 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号</p> <p>事業内容 臨床検査機器、検査用試薬ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入</p>
--	--

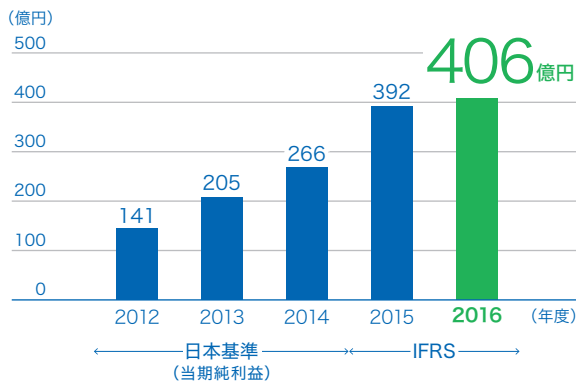
売上高



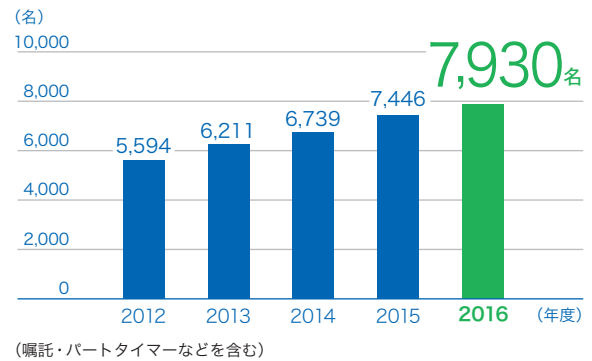
営業利益



親会社の所有者に帰属する当期利益



従業員数



編集方針

シスメックスグループは、企業としての社会的責任 (CSR) に関する考え方とその活動をステークホルダーの皆様にお伝えし、当社への理解・信頼を深めていただくことを目的として、サステナビリティレポート「シスメックスあんしんレポート」を毎年発行しています。

参考にしたガイドライン

- ・ GRI (Global Reporting Initiative)
- ・ 「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン (2012年版)」

対象組織

原則としてシスメックスグループ (シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社) を対象としています。本報告書中の「シスメックスグループ」はシスメックスグループを、「シスメックス」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2016年度 (2016年4月1日から2017年3月31日) を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。最新情報については、CSRサイトのCSRニュースでお伝えします。

発行時期

2017年7月 (2017年8月改訂) (前回の発行は2016年7月)

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進部
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
Tel 078-265-0500 (代表) Fax 078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックスグループに関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。従って、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご承知いただきますようお願いいたします。



CSRサイトで網羅的に情報を開示

シスメックスCSR

検索

社長メッセージ

シスメックスと社会との関わり

活動ハイライト1：
製品・サービスを通じた医療課題解決
全ての人が
適切な医療を受けられる
社会を目指して

活動ハイライト2：
魅力ある職場の実現
多様性を尊重し
イノベーションの創出に
つなげる

経営とCSR

企業理念・行動基準
長期経営目標・中期経営計画
CSRマネジメント
国連グローバル・コンパクト

社会

製品・サービスを通じた医療課題解決
責任ある製品・サービスの提供
魅力ある職場の実現
人権の尊重
社会貢献活動

環境

環境への配慮

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス
コンプライアンス
リスクマネジメント

社外からのCSR評価

2016年度実績データ

CSR中期計画 (2016年度実績)
社会性データ
環境データ
ガバナンスデータ

編集方針

サステナビリティレポートダウンロード

検索機能

ステークホルダー別、キーワード別、
ISO 26000/GRIガイドライン、サイトマップ



シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp